

# 2023年度 授業概要【卒業要件外の科目】

科目コード : 50000

科目ナンバリング : EX10C01K

主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 教職論 a (Teaching Profession Theory a)

担当者 : 柳橋 晃

## 基本情報

年次 : 1

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 金曜1限

履修可能学科・専攻 : E C W F N M

関連資格 : 教職

AL要素 : 08. 協同学修

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

**授業の概要 :** 本講義は教職課程のスタートを切るにあたって、「どのような教員が求められているか」、「どのような教員になりたいか」、「目指すべき教員像に近づくためにはどのような努力が必要か」という問いについて考えるべく、計画されています。その計画の中では、教職の意義、教員の役割、教員の職務内容、そして、現在求められている教員像をめぐる議論について学修することが中心となります。本講義を通して、教職課程を意欲的に履修することのできる態勢を整えて欲しいと思います。

**キーワード :** 教師像、教師の養成、教員免許、教職の意義、職務、服務規定、身分保障、専門職、公務員、学習指導・教育課程、生徒指導・学級経営、実践記録、個人情報保護(守秘義務)、学び続ける教師、チーム学校

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標 :** 授業で扱った教職の意義、教員の役割、教員の職務内容、現在求められている教員像に関する内容をおおむね理解できていることを定期試験で表現することができる。

**評価方法 :** 定期試験

**評価割合 :** 30%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標 :** ・授業で扱った教職の意義、教員の役割、教員の職務内容、現在求められている教員像に関する内容について、論理的に、かつオリジナリティのある形で、授業内の小レポート課題及び定期試験で自らの所見を表現することができる。

・各授業回で提出してもらったコメントシートへの記入内容も評価対象とする。各授業回の内容を自分なりに噛み砕いて、自分自身の言葉で理解できているかどうかを評価の基準とする。

**評価方法 :** ・定期試験

**評価割合 :** 60%

・小レポート課題

・コメントシート

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業内での発言内容、及び、発言数をもとに授業への参加点を評価する。授業内容に基づいて発言できているかどうか、また、自分なりに考えた上での発言であるかどうかを評価の基準とする。

**評価割合 :** 10%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が小課題のレポートの記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合 :** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：	第1週	オリエンテーション：なりたい教師像をイメージする
	第2週	教職とは何か(1)：教職に関する基本的概念の整理、公教育を担う教師の意義
	第3週	教職とは何か(2)：教師に向けられるまなざしの変遷、教師の多忙化とバーンアウト
	第4週	教職とは何か(3)：教員免許・養成制度・教員採用
	第5週	職業としての教員(1)：専門職としての教師
	第6週	職業としての教員(2)：教師の職務、服務規律、身分保障
	第7週	職業としての教員(3)：教師の1日、1年、キャリア
	第8週	教職、及び、学校教育におけるジェンダーについて考える
	第9週	教員の仕事(1)：学習指導と教育課程、カリキュラム開発
	第10週	教員の仕事(2)：生徒指導・学級経営
	第11週	教員の仕事(3)：キャリア教育と進路指導
	第12週	求められる教師像(1)：「チーム学校」の一員としての教師
	第13週	求められる教師像(2)：教師の仕事と家庭・地域
	第14週	求められる教師像(3)：学び続ける教師(教員研修、教育実践記録)
	第15週	「教師とはどのような職業か？」コンセプトマップで考える

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には、その回のテーマとなっている事項について調べることが望ましい。  
授業後には、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じ知見を深めることが望ましい。

教科書として以下のものを購入しておくこと。  
・沼野一男他著『教育の原理』(第四版)学文社、2010年。

参考資料として次の2点を推薦する。  
・佐久間亜紀ほか『現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019年、2,200円。  
・橋下美保ほか『教職用語辞典』(改訂版)、一藝社、2019年、2,860円。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については授業内でお知らせします。

留意事項： デバイスの持参を推奨します。

---

科目コード：50000      科目ナンバリング：EX10C01K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教職論 b(Teaching Profession Theory b)

担当者：柳橋 晃

### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜5限

履修可能学科・専攻：ECWFNM

関連資格：教職

AL要素：08.協同学修

11.討論

**授業の概要：** 本講義は教職課程のスタートを切るにあたって、「どのような教員が求められているか」、「どのような教員になりたいか」、「目指すべき教員像に近づくためにはどのような努力が必要か」という問いについて考えるべく、計画されています。その計画の中では、教職の意義、教員の役割、教員の職務内容、そして、現在求められている教員像をめぐる議論について学修することが中心となります。本講義を通して、教職課程を意欲的に履修することのできる態勢を整えて欲しいと思います。

**キーワード：** 教師像、教師の養成、教員免許、教職の意義、職務、服務規定、身分保障、専門職、公務員、学習指導・教育課程、生徒指導・学級経営、実践記録、個人情報保護(守秘義務)、学び続ける教師、チーム学校

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 授業で扱った教職の意義、教員の役割、教員の職務内容、現在求められている教員像に関する内容をおおむね理解できていることを定期試験で表現することができる。

**評価方法：** 定期試験

**評価割合：** 30%

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** ・授業で扱った教職の意義、教員の役割、教員の職務内容、現在求められている教員像に関する内容について、論理的に、かつオリジナリティのある形で、授業内の小レポート課題及び定期試験で自らの所見を表現することができる。

・各授業回で提出してもらったコメントシートへの記入内容も評価対象とする。各授業回の内容を自分なりに噛み砕いて、自分自身の言葉で理解できているかどうかを評価の基準とする。

**評価方法：** ・定期試験

**評価割合：** 60%

・小レポート課題

・コメントシート

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業内での発言内容、及び、発言数をもとに授業への参加点を評価する。授業内容に基づいて発言できているかどうか、また、自分なりに考えた上での発言であるかどうかを評価の基準とする。

**評価割合：** 10%

#### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が小課題のレポートの記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：** 0%

#### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

#### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 第1週 オリエンテーション: なりたい教師像をイメージする  
第2週 教職とは何か(1): 教職に関する基本的概念の整理、公教育を担う教師の意義

第3週	ト	教職とは何か(2):教師に向けられるまなざしの変遷、教師の多忙化とバーンアウト
第4週		教職とは何か(3):教員免許・養成制度・教員採用
第5週		職業としての教員(1):専門職としての教師
第6週		職業としての教員(2):教師の職務、服務規律、身分保障
第7週		職業としての教員(3):教師の1日、1年、キャリア
第8週		教職、及び、学校教育におけるジェンダーについて考える
第9週		教員の仕事(1):学習指導と教育課程、カリキュラム開発
第10週		教員の仕事(2):生徒指導・学級経営
第11週		教員の仕事(3):キャリア教育と進路指導
第12週		求められる教師像(1):「チーム学校」の一員としての教師
第13週		求められる教師像(2):教師の仕事と家庭・地域
第14週		求められる教師像(3):学び続ける教師(教員研修、教育実践記録)
第15週		「教師とはどのような職業か?」コンセプトマップで考える

**使用テキスト:** 授業で使用する資料はすべて印刷・配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業前には、その回のテーマとなっている事項について調べることが望ましい。授業後には、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じ知見を深めることが望ましい。

教科書として以下のものを購入しておくこと。  
・沼野一男他著『教育の原理』(第四版)学文社、2010年。

参考資料として次の2点を推薦する。  
・佐久間亜紀ほか『現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019年、2,200円。  
・橋下美保ほか『教職用語辞典』(改訂版)、一藝社、2019年、2,860円。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については授業内でお知らせします。

**留意事項:** デバイスの持参を推奨します。

科目コード:50001      科目ナンバリング:EX20C01K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 教育原理 a(Principles of Education a)

担当者: 結城 敏也

#### 基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜5限

履修可能学科・専攻: E C W F N M

関連資格: 教職 社教 福祉主

AL要素: 16 振り返り用紙と応答  
11 討論

**授業の概要:** 教育の基本的概念と教育を成り立たせている社会的・文化的要因を理解し、教育の歴史と思想において「子ども観」や学校に関わる教育の思想・理念・制度の諸要因がどのように展開されてきたのか。また現代の教育および学校の課題を先人たちの歴史的・思想的な成果をふまえて、どのように解釈できるのか。この授業では、そうした教育のテーマを各回に分けて解説してゆきます。

**キーワード:** 教育 教職 教育理念 教育哲学 学校制度論 教育史 コメニウス ルソー ペスタロッチ フレーベル 新教育運動 体罰 ソクラテス 無知の知

学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 現代の教育理念と教育システムがどのように形成されてきたかについて理解する。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 60%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:**

授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもって教育の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

**評価方法:** 授業中に指示するレポート

**評価割合:** 40%

期末レポート

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者は単に講義資料をファイルするだけでなく、授業をもとに講義内容をまとめたノートを作成し、知識を系統的に整理することを推奨する。

**評価割合:** 0%

### ▼ 実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

**評価割合:** 0%

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、不公正な言動がある場合、また、カンニングなどの不正行為は減点や嚴重注意の対象

**評価割合:** 0%

### ▼ その他

特になし

**評価割合:** 特になし

### 授業計画:

- 第1回: 概括 教育と教育学
  - 第2回: 教育はなぜ必要なのか?
  - 第3回: 社会と教育との相互依存性
  - 第4回: 古代の教育1 (古典古代の教育: 教育の2類型: 教育における主体とは?)
  - 第5回: 古代の教育2  
(古代中国における教育制度から科挙制度、モンゴル帝国)
  - 第6回: 中世における教育と近代的教育の萌芽  
ローマ崩壊以降のヨーロッパ、科学革命、ルネッサンス、人文主義、大学の発生
  - 第7回: 教育理念の基礎設定  
(人文主義教育と実学主義、ルターの宗教改革と義務教育の理念)
  - 第8回: 一般教育の理念の発生と「学校」制度の萌芽  
(コメニウスと普通教育の理念)
  - 第9回: 近代人権思想と教育理念  
(子供の発見・平等・友愛そして教育を受ける権利、ルソーからフレーベルまで)
  - 第10回: 国民国家の登場と義務教育の発生
  - 第11回: 近代日本での教育制度形1 (大日本帝国期の教育制度形成)
  - 第12回: 近代日本での教育制度形2 (日本国憲法のもとでの教育制度の変遷)
  - 第13回: 教育基本法と学習指導要領
  - 第14回: 近代民主主義社会での教育の意義・教職の責務
  - 第15回: 教育の現況・総括
- 定期試験は実施しない

**使用テキスト:** 特に使用しない。icunipa掲示に資料などを添付する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 予習について。  
講義に先立って、概要をICUNIPAにアップロードするの。関連する事項、教育理念形成時期の歴史的背景などで知らないものがあつたならば、参考文献やインターネットを活用して概要を把握することを求める。(wikipediaのようなインターネット上の資料は、偏向や過誤がある場合があるので注意すること。)

予習のポイント 30～90分

資料などを通読し、不明な事項などを調べておく。シラバスに書かれた、あるいは講義中に提示する参考文献などを通読し、自分なりにまとめてみる。

復習のポイント 30～60分

講義に基づいてノートを作成、不明な点があれば調べる。それでもわからない点などはリアクションペーパーで質問をする。

下記の書籍などは、参考するのに手軽である。

玉川大学出版部 「西欧の教育思想シリーズ」 教育の発見双書

歴史の流れの中で教育理念の形成を理解するために、高校の世界史程度の概括的な理解を要求する。

高校の世界史教科書を再度通読することを求める。(年号、名称など暗記する必要はない。)

余裕がある場合には、講義の理解を深めるために以下の書籍を通読することを勧める。

ウィリアム・H. マクニール 「世界史」上下 中公文庫

学習指導要領、教育基本法、「中央教育審議会答申」など、文部科学省のホームページから入手できる関連文書。

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/others/detail/1317930.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317930.htm)

より詳しく学習を進める場合には、以下の文献も参考となる。

平野一郎他 「西欧教育思想史」 黎明書房

尾崎ムゲン 「日本の教育改革」 中公新書

宮崎市定 「科举-中国の試験地獄」 中公新書 1963/中公文庫BIBLIO 2003

**障がいのある履修者への対応:** 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** メールでの連絡  
tyuuki@icc.ac.jp

**留意事項:** 呼吸器系の疾患を抱えているために、コロナウィルスのまんえん状況によってはオンライン授業になる可能性があります。

---

**科目コード:** 50001      **科目ナンバリング:** EX20C01K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 教育原理 b(Principles of Education b)

**担当者:** 佐藤 環

**基本情報**

**年次:** 2

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 火曜4限

**履修可能学科・専攻:** E C W F N M

**関連資格:** 教職 社教 福祉主

**AL要素:** 08協同学習

16振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方型)

教育の基本的概念と教育を成り立たせている社会的・文化的要因を理解し、教育の歴史と思想において①「子ども観」や学校に関わる教育の思想・理念・制度の諸要因がどのように

展開されてきたのか、②また現代の教育および学校の課題を先人たちの歴史的・思想的な成果をふまえて、どのように解読できるのか、など、教育のテーマを各回に分けて解説する。

**キーワード：** 教育の意義、教育思想、公教育、学習指導要領、教師の専門性

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 講義で解説した教育の理念・思想や歴史・制度的運用などについて、概ね7割を理解し、教育に対して自らの視座を持つことができる。

**評価方法：** リアクションペーパー及び学期末レポート。 **評価割合：** 70%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 講義で扱った内容を基とし、さらに自主学習により調べた知見や自らの経験に即して、教育事象に対して考察を加えることができる。

**評価方法：** リアクションペーパー及び学期末レポート。 **評価割合：** 30%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。但し、自主学修により深化した知見が学期末レポートに反映される場合、「思考力・判断力・表現力」カテゴリーの評価対象とする場合がある。

**評価割合：** 0%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。但し、ボランティア活動等の実勢かにより深化した知見が学期末レポートに反映される場合、「思考力・判断力・表現力」カテゴリーの評価対象とする場合がある。

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。但し、講義中における発言内容や学期末レポート等において著しく公正性を阻害する言動や不正行為があった場合、減点または嚴重注意の対象となる場合がある。

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

特にはありません。

教育に対しては学生誰もが存念を持っていると思いますが、多様な観点から教育を考察することで、自らの視座を相対化してくださるよう祈念しています。

**評価割合：** 特にはありません。 <br>教育に対し

- 授業計画：**
- 第1回：「教育学」を学ぶ意義：「教育学」と「教育原理」の構成について
  - 第2回：教育の必要性：人間にはなぜ「教育」が必要か、教育の意味と概念について
  - 第3回：生徒の発達と教育：中等教育期の生徒の「成長・発達」に関わる教育的諸要因について
  - 第4回：教育と社会：教育の歴史的・社会的・文化的諸要因について
  - 第5回：教育の目的と理念：教育の目的・理念の歴史的・思想的展開について
  - 第6回：古典古代の子どもと教育：古典古代の子ども観と教育について
  - 第7回：中世の「世俗教育」と学校の形成：中世の教育思想と学校の成立について
  - 第8回：近代の「子ども中心主義」の教育思想：ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ジョン・ロック等の教育思想の展開と「子ども中心主義」の意味について
  - 第9回：啓蒙・進歩の教育思想と学校の展開：オーエンやコンドルセの近代教育思想と学校について
  - 第10回：公教育の歴史と学校制度：公教育の歴史的発展と学校制度について
  - 第11回：「ヒューマニズム」の教育と「学習の権利」：「ヒューマニズム」の教育思想と子どもの「学ぶ権利」について
  - 第12回：近代日本の教育と学校：近代日本の教育思想と学校教育の発展について
  - 第13回：教育基本法等の理解と学習指導要領の変遷：教育基本法等の内容の理解と学習指導要領の変遷について
  - 第14回：教職の専門性と「学校力」の形成：教師の専門性と学校の歴史的・社会的役割に

ついて

## 第15回:現代の教育的課題:複合的な教育課題の歴史的・社会的解読について

**使用テキスト:** テキストは、佐藤環『学校の教育学』青簡舎、2020年、を用いる。  
また、授業で用いる資料は授業時に配布するとともに、大学の教務ポータルに掲げる。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 指定テキストがあるため、それを使用して予習・復習をして欲しい。  
調べておくべき事項に関しては、課題として前の講義時に指示する。  
講義後、その内容や使用資料に基づき復習するとともに、関連事項について自主的に学びを深めていって欲しい。  
【指定テキスト】  
佐藤環『学校の教育学』青簡舎、2020年。  
【参考文献等】  
・学習指導要領、教育基本法、中央教育審議会答申など、文部科学省のホームページから入手できる関連文書。  
・教育学事典。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するが、まずは学務部等に連絡すること。

**授業時間外の連絡手段:** 学務部等にて確認すること。

**留意事項:** 本講義は中学校・高等学校教員免許取得の必須科目です。確認して履修してください。

---

科目コード:50001      科目ナンバリング:EX20C01K      主な使用言語:日本語

授業名(英文):教育原理 c(Principles of Education c)

担当者:佐藤環

### 基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:火曜5限

履修可能学科・専攻:ECWFNM

関連資格:教職 社教 福祉主

AL要素:08協同学習

16振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方型)

教育の基本的概念と教育を成り立たせている社会的・文化的要因を理解し、教育の歴史と思想において①「子ども観」や学校に関わる教育の思想・理念・制度の諸要因がどのように展開されてきたのか、②また現代の教育および学校の課題を先人たちの歴史的・思想的な成果をふまえて、どのように解読できるのか、など、教育のテーマを各回に分けて解説する。

**キーワード:** 教育の意義、教育思想、公教育、学習指導要領、教師の専門性

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標:** 講義で解説した教育の理念・思想や歴史・制度的運用などについて、概ね7割を理解し、教育に対して自らの視座を持つことができる。

**評価方法:** リアクションペーパー及び学期末レポート。      **評価割合:** 70%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 講義で扱った内容を基とし、さらに自主学習により調べた知見や自らの経験に即して、教育事象に対して考察を加えることができる。

**評価方法:**リアクションペーパー及び学期末レポート。      **評価割合:** 30%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。但し、自主学修により深化した知見が学期末レポートに反映される場



合、「思考力・判断力・表現力」カテゴリーの評価対象とする場合がある。

**評価割合：0%**

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。但し、ボランティア活動等の実勢かにより深化した知見が学期末レポートに反映される場合、「思考力・判断力・表現力」カテゴリーの評価対象とする場合がある。

**評価割合：0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。但し、講義中における発言内容や学期末レポート等において著しく公正性を阻害する言動や不正行為があった場合、減点または嚴重注意の対象となる場合がある。

**評価割合：0%**

#### ▼その他

特にはありません。

教育に対しては学生誰しもが存念を持っていると思いますが、多様な観点から教育を考察することで、自らの視座を相対化してくださるよう祈念しています。

**評価割合：特にはありません。<br>教育に対し**

- 授業計画：**
- 第1回：「教育学」を学ぶ意義：「教育学」と「教育原理」の構成について
  - 第2回：教育の必要性：人間にはなぜ「教育」が必要か、教育の意味と概念について
  - 第3回：生徒の発達と教育：中等教育期の生徒の「成長・発達」に関わる教育的諸要因について
  - 第4回：教育と社会：教育の歴史的・社会的・文化的諸要因について
  - 第5回：教育の目的と理念：教育の目的・理念の歴史的・思想的展開について
  - 第6回：古典古代の子どもと教育：古典古代の子ども観と教育について
  - 第7回：中世の「世俗教育」と学校の形成：中世の教育思想と学校の成立について
  - 第8回：近代の「子ども中心主義」の教育思想：ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ジョン・ロック等の教育思想の展開と「子ども中心主義」の意味について
  - 第9回：啓蒙・進歩の教育思想と学校の展開：オーエンやコンドルセの近代教育思想と学校について
  - 第10回：公教育の歴史と学校制度：公教育の歴史的発展と学校制度について
  - 第11回：「ヒューマニズム」の教育と「学習の権利」：「ヒューマニズム」の教育思想と子どもの「学ぶ権利」について
  - 第12回：近代日本の教育と学校：近代日本の教育思想と学校教育の発展について
  - 第13回：教育基本法等の理解と学習指導要領の変遷：教育基本法等の内容の理解と学習指導要領の変遷について
  - 第14回：教職の専門性と「学校力」の形成：教師の専門性と学校の歴史的・社会的役割について
  - 第15回：現代の教育的課題：複合的な教育課題の歴史的・社会的解読について
- 定期試験は行わない。

**使用テキスト：** 使用テキスト：佐藤環『学校の教育学』青簡舎、2020年。  
また授業で用いる資料は授業時に配布するとともに、大学の教務ポータルに掲げる。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 指定されたテキストにより、予習・復習をすること。  
また、調べておくべき事項に関しては、課題として前の講義時に指示する。  
講義後、その内容や使用資料に基づき復習するとともに、関連事項について自主的に学びを深めていって欲しい。  
【指定テキスト】  
佐藤環『学校の教育学』青簡舎、2020年。  
【参考文献等】  
・学習指導要領、教育基本法、中央教育審議会答申など、文部科学省のホームページから入手できる関連文書。  
・教育学事典。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するが、まずは学務部等に連絡すること。

**授業時間外の連絡手段:** 学務部等にて確認すること。

**留意事項:** 本講義は中学校・高等学校教員免許取得の必須科目です。確認して履修してください。

---

科目コード:50001      科目ナンバリング:EX20C01K      主な使用言語:日本語

授業名(英文):教育原理 d(Principles of Education d)

担当者:高野 暁子

#### 基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜5限

履修可能学科・専攻: E C W F N M

関連資格:教職 社教 福祉主

AL要素:07 発表

08 協同学修

16 振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 「教育」には様々な歴史の変遷と先人たちの知恵があります。この授業では、以下の教育のテーマを各回にわけて解説していきます。

(1)教育の基本的理念と教育を成り立たせている社会的・文化的要因とは何か

(2)教育の歴史と思想において「子ども観」や学校に関わる教育の思想・理念・制度の諸要因がどのように展開されてきたのか

(3)現代の教育および学校の課題は、先人たちの歴史的・思想的な成果をふまえると、どのように解説できるのか

いずれも、歴史や思想を通して教育の根本を掘り下げます。

**キーワード:** 教育の必要性、教育の意義、成長と発達、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、コンドルセ、ジョン・ロック、子ども中心主義、公教育と学校制度、教師の専門性

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 授業で取り上げた教育の理念や歴史について、明確に理解することができる。

**評価方法:** 学期末のレポート

**評価割合:** 70%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 教育の理念や歴史を踏まえて、現代の教育問題について考え、自分なりに表現することができる。

**評価方法:** 学期末のレポート

**評価割合:** 30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

教育の時事的な問題への関心、授業で提示された課題への積極的な取り組みが求められます。評価の対象とはしません。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

欠席した受講生に対して、授業の内容や様子を伝えたり、配布した資料を渡したりすることが望ましい。また、授業を欠席する受講生の実情に配慮し、特別な支援を必要とする受講生がいる場合には、可能な限り支援することが望ましい。評価の対象とはしません。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価の対象とはしません。ただし、授業中あるいはレポート等の作成において人権侵害や差別的

な言動をしたり、他の受講生に対して授業を妨害するような言動があった場合には、厳重注意のうえ減点の対象となることがあります。

**評価割合：0%**

**▼その他**

特にありません。

**評価割合：特にありません。**

- 授業計画：**
- 第1回 「教育学」を学ぶ意義：「教育学」と「教育原理」の構成について
  - 第2回 教育の必要性：人間にはなぜ「教育」が必要か 教育の意味と概念について
  - 第3回 生徒の発達と教育：中等教育期の生徒の「成長・発達」に関わる教育的諸要因について
  - 第4回 教育と社会：教育の歴史的・社会的・文化的要因について
  - 第5回 教育の目的と理念：教育の目的・理念の歴史的・思想的展開について
  - 第6回 古典古代の子どもと教育：古典古代の子ども観と教育について
  - 第7回 中世の「世俗教育」と学校の形成：中世の教育思想と学校の成立について
  - 第8回 近代の「子ども中心主義」の教育思想：ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ジョン・ロック等の教育思想の展開と「子ども中心主義」の意味について
  - 第9回 啓蒙・進歩の教育思想と学校制度：オーエンやコンドルセの近代教育思想と学校について
  - 第10回 公教育の歴史と学校制度：公教育の歴史的発展と学校制度について
  - 第11回 「ヒューマニズム」の教育と「学習の権利」：「ヒューマニズム」の教育思想と子どもの「学ぶ権利」について
  - 第12回 近代日本の教育と学校：近代日本の教育思想と学校教育の発展について
  - 第13回 教育基本法の理解と学習指導要領の変遷：「教育基本法」の内容の理解と学習指導要領の変遷について
  - 第14回 教職の専門性と「学校力」の形成：教師の専門性と学校の歴史的・社会的役割について
  - 第15回 現代の教育的課題：複合的な教育課題の歴史的・社会的解釈について

**使用テキスト：** 授業で使用する資料はTeamsに掲示する他、適宜印刷・配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業前に、その回のテーマやキーワードについて調べることが望ましい。また、授業で配布した資料を復習し、記載されている事項について自主的に学修を深めるとともに、教育の時事的な問題や課題に関心を持つことが望ましい。学修時間は、授業前と授業後それぞれ90分が目安です。  
参考文献等は、授業で使用する資料に適宜記載します。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** 公開されているメール等で連絡してください。

**留意事項：** デバイスの持参を推奨します。

---

**科目コード：50002      科目ナンバリング：EX20C02K      主な使用言語：日本語**

**授業名(英文)：教育心理学 a(Educational Psychology a)**

**担当者：生駒 忍**

**基本情報**

**年次：2**

**単位数：2**

**授業形式：講義**

**曜時：水曜4限**

**履修可能学科・専攻：ECWFNM**

**関連資格：教職**

**AL要素：16 振り返り用紙と応答**

**授業の概要：**【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(オンデマンド型)  
学校の学びを中心とした教育についての、心理学の知見や考え方について学ぶ。それを通して、学校や教育の問題やあり方について考えを深める。

キーワード： 教育、学習、学校、子ども

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 授業で扱った教育心理学の主要な内容について、8割程度を目安に理解し解答することができる。

**評価方法：** 学期末筆記試験

**評価割合：** 60%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 各回の講義で扱った内容について、自主学修によって得た知識や自身の学習経験と合わせて考察し、客観的にまとめることができる。

**評価方法：** 振り返り用紙

**評価割合：** 40%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：** 0%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

- 授業計画：**
- 【第1回】 教育を心理学する  
学び、育つことを心理学からとらえる見方と意義について知る。
  - 【第2回】 認知と感情の発達  
ものごとが分かることや思うことが、年齢と共にどのように育つかを理解する。
  - 【第3回】 言語の獲得と発達  
ことばがどのようにして身につく、どのように役立っていくかをとらえる。
  - 【第4回】 学習理論の基礎  
行動変容のモデルとしての条件づけ理論について基礎を学ぶ。
  - 【第5回】 記憶の認知心理学  
頭の中に覚え、思い出すはたらきを認知心理学の視点からとらえる。
  - 【第6回】 学習意欲と格差  
勉強しようという気持ちのメカニズムと、そこから生じる格差を考える。
  - 【第7回】 学力と教育評価  
学んでいく力、学んで身につけた力の適切な評価方法を理解する。
  - 【第8回】 知能と個人差  
知能とはどのようなもので、知能の違いは何を意味するかを考える。
  - 【第9回】 発達障害  
発達障害の概念と特徴、学校現場での支援のあり方を把握する。
  - 【第10回】 不登校  
不登校の定義、現状、原因と対策について考えを深める。
  - 【第11回】 集団心理といじめ  
いじめが発生し増悪するメカニズムと対処方法について考える。
  - 【第12回】 道徳性と非行  
善悪の感覚とそれが破られる行動の関係について理解する。
  - 【第13回】 学校カウンセリング  
学校における相談援助の基礎的技術や留意点を知る。

【第14回】心理検査

こころの個人差や問題の心理学的測定の基礎を学ぶ。

【第15回】学校と社会をつなぐ

学校での学びが外の社会とどうつながるかを、心理学から考える。

**使用テキスト:** テキスト指定なし  
講義プリントを配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業前に、各回のテーマに関して書籍等で概要を把握しておく。  
授業後に、配付プリント等に基づき復習を行うと共に、講義で取り上げた事項について自主学修を進める事が望ましい。  
なお、参考資料の例として次の書籍を推薦する。  
日本応用心理学会(企画)『現代社会と応用心理学1 クローズアップ 学校』福村出版,2015年

**障がいのある履修者への対応:** 合理的配慮に務めるので、先だって学務部等に相談すること。

**授業時間外の連絡手段:** 電子メールにて対応します。

**留意事項:** 特になし

---

---

科目コード:50002                      科目ナンバリング:EX20C02K                      主な使用言語:日本語

授業名(英文):教育心理学 b(Educational Psychology b)

担当者:生駒 忍

**基本情報**

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜5限

履修可能学科・専攻:ECWFNM

関連資格:教職

AL要素:16 振り返り用紙と応答

**授業の概要:**【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(オンデマンド型)  
学校の学びを中心とした教育についての、心理学の知見や考え方について学ぶ。それを通して、学校や教育の問題やあり方について考えを深める。

**キーワード:** 教育、学習、学校、子ども

**学位授与方針との関係**

▼知識・技能

**到達目標:** 授業で扱った教育心理学の主要な内容について、8割程度を目安に理解し解答することができる。

**評価方法:** 学期末筆記試験

**評価割合:** 60%

▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 各回の講義で扱った内容について、自主学修によって得た知識や自身の学習経験と合わせて考察し、客観的にまとめることができる。

**評価方法:** 振り返り用紙

**評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：【第1回】教育を心理学する  
学び、育つことを心理学からとらえる見方と意義について知る。
- 【第2回】認知と感情の発達  
ものごとが分かることや思うことが、年齢と共にどのように育つかを理解する。
- 【第3回】言語の獲得と発達  
ことばがどのようにして身につく、どのように役立っていくかをとらえる。
- 【第4回】学習理論の基礎  
行動変容のモデルとしての条件づけ理論について基礎を学ぶ。
- 【第5回】記憶の認知心理学  
頭の中に覚え、思い出すはたらきを認知心理学の視点からとらえる。
- 【第6回】学習意欲と格差  
勉強しようという気持ちのメカニズムと、そこから生じる格差を考える。
- 【第7回】学力と教育評価  
学んでいく力、学んで身につけた力の適切な評価方法を理解する。
- 【第8回】知能と個人差  
知能とはどのようなもので、知能の違いは何を意味するかを考える。
- 【第9回】発達障害  
発達障害の概念と特徴、学校現場での支援のあり方を把握する。
- 【第10回】不登校  
不登校の定義、現状、原因と対策について考えを深める。
- 【第11回】集団心理といじめ  
いじめが発生し増悪するメカニズムと対処方法について考える。
- 【第12回】道徳性と非行  
善悪の感覚とそれが破られる行動の関係について理解する。
- 【第13回】学校カウンセリング  
学校における相談援助の基礎的技術や留意点を知る。
- 【第14回】心理検査  
こころの個人差や問題の心理学的測定の基礎を学ぶ。
- 【第15回】学校と社会をつなぐ  
学校での学びが外の社会とどうつながるかを、心理学から考える。

使用テキスト：テキスト指定なし  
講義プリントを配布します。

予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等： 授業前に、各回のテーマに関して書籍等で概要を把握しておく。  
授業後に、配付プリント等に基づき復習を行うと共に、講義で取り上げた事項について自主  
学修を進める事が望ましい。  
なお、参考資料の例として次の書籍を推薦する。  
日本応用心理学会(企画)『現代社会と応用心理学1 クローズアップ 学校』福村出版,2015  
年

障がいのある  
履修者への対応： 合理的配慮に務めるので、先だって学務部等に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 電子メールにて対応します。

留意事項： 特になし

---

科目コード：50002

科目ナンバリング：EX20C02K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育心理学 c(Educational Psychology c)

---

**担当者：林 雅子**

## 基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜4限

履修可能学科・専攻：ECWFNM

関連資格：教職

AL要素：11. 討論

15. レポート指導

16. 振り返り用紙と応答

**授業の概要：** 教育心理学は発達心理学、臨床心理学、社会心理学など多様な分野と密接な関連を持つ領域です。この授業では様々な心理学的観点から、主に幼児から児童・青年期の心身の発達や学習の過程などについて学んでいきます。個人としての幼児・児童・生徒の発達から、他者との関わりの中での発達まで幅広く教育心理学に関するテーマについて考えます。近年の教育問題や多様化する児童・生徒について広い視野を持って考えることで、教育の現場でより深い人間関係を築くことや、自分自身のあり方や今後の展望について考えていくきっかけになることを目指します。

授業は講義形式で進みます。ただし、授業で取り上げられる各テーマについて積極的に考える機会を設けるために、授業内で小レポートの執筆課題が課されます。

※対面での授業が難しい場合は、学務部の指示に従ってオンライン授業(課題研究型)に切り替えます。その際は掲示板に連絡事項を記載するため、ご確認をお願いします。

**キーワード：** 教育心理学、ピアジェ、エリクソン、アイデンティティ、対人関係、自律的・能動的学習

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 授業で扱った幼児期から青年期までの心身発達過程の特徴及び学習に関する基礎知識を概ね80%理解し、筆記試験にて解答することができる。

**評価方法：** レポート

**評価割合：30%**

学期末筆記試験

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業を踏まえて、実際の教育現場で起こる問題や課題について、心理学的観点から考え、論理的かつ簡潔に表現することができる。

**評価方法：** レポート

**評価割合：40%**

学期末筆記試験

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

意欲的に授業に参加し、心理学的観点を身に付けようとしているのか、授業内にて行う小レポート課題の提出状況によって判断する。

学外実習や就職活動等でやむを得ず欠席した場合の対処については、初回授業にて説明する。

なお、授業中に秩序を乱すような行為をした場合は、減点または厳重注意の対象とする。

**評価割合：30%**

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、学外実習や就職活動等で得られた知見によってレポートや筆記試験の内容の水準が上がったと認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

**評価割合：0%**

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度やレポート、筆記試験の記述で人権侵害・差別的発言等、著しく公正性を欠く言動があった場合、またはカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

とくになし

評価割合：とくになし

**授業計画：** 第1回：イントロダクション  
第2回：発達(1)認知発達理論とその批判  
第3回：発達(2)ライフサイクル論と愛着  
第4回：個性の発達  
第5回：対人関係の発達  
第6回：知能の発達  
第7回：学習(1)学習の理論  
第8回：学習(2)動機づけ  
第9回：記憶のメカニズム  
第10回：自律的・能動的学習と教育評価  
第11回：集団づくりと適応(1)非行と不登校  
第12回：集団づくりと適応(2)いじめ  
第13回：個に応じた学習の支援(1)ノーマライゼーションの達成を目指して  
第14回：個に応じた学習の支援(2)児童・生徒の抱える生きづらさ  
第15回：まとめ：教育心理学的関わり  
定期試験

**使用テキスト：** なし 授業内で資料を配布します。  
配布した資料は授業後にすべてIC-UNIPA上に掲載しますので、欠席した場合は各自で印刷してください。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業の終わりに次回のテーマを伝えます。興味のある方は、簡単にで良いのでそのテーマについて調べてみると次回の授業内容の理解が進むと思います。授業後は配布資料を見直して、学んだ内容を整理してください。小レポートのフィードバックも随時受け付けていますので、論述に慣れたい方はそちらも利用してください。  
配布資料にて、毎回の授業テーマと関連の深い参考資料を掲載します。復習する際はそちらを確認して学びに役立ててください。必要に応じて、学習指導要領等、教育課程に関する文書も参照してください。

**障がいのある履修者への対応：** 事前に学務部等にご連絡するようお願いいたします。その上で、可能な限り対応いたします。

**授業時間外の連絡手段：** 初回授業にて連絡用のメールアドレスをお教えますので、そちらをご利用ください。または、学務部のほうへお問い合わせをお願いします。

**留意事項：** なし

---

科目コード：50002      科目ナンバリング：EX20C02K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教育心理学 d(Educational Psychology d)

担当者：青木 万里

**基本情報**

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：ECWFNM

関連資格：教職

AL要素：07:発表

08:協同学修

10:資料調査課題

11:討論

17:発問と回答

**授業の概要：**



幼児期から青年期までの発達と学習の基礎的な考え方について解説する。  
自律的・能動的学習活動を支える指導・支援について授業資料などを使って具体的に説明する。

なお科目担当者の公認心理師、臨床心理士としての実務経験を活かし、必要に応じて教育現場の事例を紹介・解説する。

**キーワード：** 発達理論  
学習理論  
学習活動の指導・支援

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** (1) 幼児期から青年期までの心身発達過程の特徴及び学習に関する基礎的知識を理解できる。  
(2) 発達を踏まえた主体的な学習の指導・支援について知識を身につけることができる。

**評価方法：** 毎回の授業課題もしくは試験 **評価割合：** 50%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で取り上げた内容の中から、学習者自身にとって重要で興味・関心を持てるテーマを選択し、それについて自分の考えを論述できる。

**評価方法：** 毎回の授業課題もしくは試験 **評価割合：** 50%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

学んだことを学習者自身の教育体験と結びつけたり、疑問を持って考察したりするようになることが望ましいが数量的な評価対象とはしない。  
ただし受講態度が他の学生の学修や授業の円滑な進行に支障をきたすような場合は、減点や嚴重注意の対象とする。

**評価割合：** 0%

### ▼ 実践的ボランティア

学んだことを参考にして教育問題を考えたり、子どもとの関わりの中で役立てたりするようになることが望ましいが数量的な評価対象とはしない。

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

児童・生徒に対して公正・公平な態度で接することができるようになることが望ましいが数量的な評価対象とはしない。

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 第1回：教育心理学とは  
第2回：発達理論  
第3回：発達を規定する要因  
第4回：幼児・児童・青年期における運動の発達  
第5回：幼児・児童・青年期における認知の発達  
第6回：幼児・児童・青年期における言語の発達  
第7回：幼児・児童・青年期における社会性の発達  
第8回：学習理論  
第9回：動機づけ

- 第10回:学級集団-1
- 第11回:学級集団-2
- 第12回:適応と不適応
- 第13回:教授-学習過程
- 第14回:測定・評価特別支援教育
- 第15回:特別支援教育

**使用テキスト:** 資料は適宜、印刷・配布する

**予習・復習のポイントと** 授業での学びをしっかりと振り返ること(90分)。

**参考文献・資料等:** そのうえで授業課題に取り組み、知識の定着を図っていくこと(90分)が大切です。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 初回の授業でお伝えします。

**留意事項:** 【W科の学生さんへ】学科科目には教育・学校心理学が配置されています。  
教育心理学の履修については他の担当教員の教育心理学の履修をお勧めします。

【履修を考えている方へ】

1. 将来教員になりたいという明確な目的意識を持った方の受講をお勧めします。
2. 履修要覧の「授業を受ける際のマナー」を遵守してください。
3. 初回の授業には必ず出席してください。やむを得ず初回の授業を欠席する場合は、事前に科目担当者(maoki@icc.ac.jp)にメールで欠席の理由 等を連絡してください。  
※授業を進めるにあたって大事な話をするため、初回の授業を欠席してしまうと履修が難しくなります。
4. 15回の授業を通して遅刻や欠席はしないようにしてください。

※上記項目は履修に必要な条件となります。

※評価方法(毎回の授業課題もしくは試験)については、受講者数が確定したのち、受講者と相談して決めていきます。

---

科目コード:50003      科目ナンバリング:EX20C03K      主な使用言語:日本語

授業名(英文):教育行政学 a(Public Administration in Education a)

担当者:池内 耕作

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜1限

履修可能学科・専攻:ECWFNM

関連資格:教職 社教

AL要素:17.発問と回答

**授業の概要:** この授業では、現代公教育制度の意義・原理・構造、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、そこに内在する課題について解説します。また、学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について取り組み事例を踏まえて紹介し、あわせて学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて学校安全の目的と具体的な取組について解説していきます。

**キーワード:** 教育諸条件の整備、公教育制度、文部科学省、教育委員会、教育行財政

学位授与方針との関係

▼知識・技能

**到達目標:** 授業で解説を受けた教育行政に関わる社会的・制度的事項等について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

**評価方法:** 学期末筆記試験(レポート試験に変える場合もあります)      **評価割合:** 50%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った教育行政に関わる課題について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法:** 学期末筆記試験(レポート試験に変える場合もあります) **評価割合:** 50%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし。

**評価割合:** 特になし。

**授業計画:**

- 第1回:教育行政学とはどんな学問か(授業概要説明含む)
- 第2回:公教育の原理及び理念
- 第3回:公教育制度を構成する教育関係法規:教育基本法と学校教育法
- 第4回:公教育制度を支える教育行政の理念と仕組み1:中央教育行政組織(各国と日本)
- 第5回:公教育制度を支える教育行政の理念と仕組み2:地方教育行政組織(各国と日本)
- 第6回:公教育制度を支える教育行政の理念と仕組み3:教育行政のあり方(日本)
- 第7回:公教育制度をめぐる諸課題
- 第8回:諸外国の教育行政改革(英・米)
- 第9回:諸外国の教育行政改革(仏・独)
- 第10回:諸外国の教育行政改革(中・韓)
- 第11回:地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法
- 第12回:地域との連携に基づく開かれた学校作り
- 第13回:学校の危機管理と学校安全の必要性
- 第14回:新たな安全上の課題と安全管理
- 第15回:安全教育

定期試験

**使用テキスト:** 特になし。授業で用いる資料はすべて授業時に配付します。下記に掲げる参考書は、授業を受講するにあたり必須のものではありませんが、授業で扱う内容の理解をさらに深めたり広めたりする上で有効なものですので可能な限り活用してください。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。参考資料として次の2点を推薦する。

『教育学基礎資料 第6版』新井郁男ほか編著、樹村房、1,512円

『文部科学白書』文部科学省、日経印刷、2,100円(毎年7月頃に最新版が発行されることに留意すること)

また、関係省庁等から公表される最新の教育関係法令、中央教育審議会の答申などに可能な限り目を通すこと。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 教育行政学は学科・専攻別に複数開設されているため、履修可能学科・専攻を必ず確認すること。(特に教員免許状を取得するために受講する場合、自学科・専攻に対応しない教育行政学を受講しても要件を満たさないので注意すること)

---

科目コード: 50003      科目ナンバリング: EX20C03K      主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 教育行政学 b(Public Administration in Education b)

担当者: 池内 耕作

#### 基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜5限

履修可能学科・専攻: E C W F N M

関連資格: 教職 社教

AL要素: 17.発問と回答

**授業の概要:** この授業では、現代公教育制度の意義・原理・構造、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、そこに内在する課題について解説します。また、学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について取り組み事例を踏まえて紹介し、あわせて学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて学校安全の目的と具体的な取組について解説していきます。

**キーワード:** 教育諸条件の整備、公教育制度、文部科学省、教育委員会、教育行財政

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 授業で解説を受けた教育行政に関わる社会的・制度的事項等について、概ね 80%の事項を暗記し、解答することができる。

**評価方法:** 学期末筆記試験(レポート試験に変える場合もあります)      **評価割合:** 50%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った教育行政に関わる課題について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法:** 学期末筆記試験(レポート試験に変える場合もあります)      **評価割合:** 50%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

## ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

**授業計画：** 第1回：教育行政学とはどんな学問か(授業概要説明含む)  
第2回：公教育の原理及び理念  
第3回：公教育制度を構成する教育関係法規：教育基本法と学校教育法  
第4回：公教育制度を支える教育行政の理念と仕組み1：中央教育行政組織(各国と日本)  
第5回：公教育制度を支える教育行政の理念と仕組み2：地方教育行政組織(各国と日本)  
第6回：公教育制度を支える教育行政の理念と仕組み3：教育行政のあり方(日本)  
第7回：公教育制度をめぐる諸課題  
第8回：諸外国の教育行政改革(英・米)  
第9回：諸外国の教育行政改革(仏・独)  
第10回：諸外国の教育行政改革(中・韓)  
第11回：地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法  
第12回：地域との連携に基づく開かれた学校作り  
第13回：学校の危機管理と学校安全の必要性  
第14回：新たな安全上の課題と安全管理  
第15回：安全教育  
定期試験

**使用テキスト：** 特になし。授業で用いる資料はすべて授業時に配付します。下記に掲げる参考書は、授業を受講するにあたり必須のものではありませんが、授業で扱う内容の理解をさらに深めたり広めたりする上で有効なものですので可能な限り活用してください。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業後、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じて知見を深めることが望ましい。参考資料として次の2点を推薦する。

『教育学基礎資料 第6版』新井郁男ほか編著、樹村房、1,512円

『文部科学白書』文部科学省、日経印刷、2,100円(毎年7月頃に最新版が発行されることに留意すること)

また、関係省庁等から公表される最新の教育関係法令、中央教育審議会の答申などに可能な限り目を通すこと。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項：** 教育行政学は学科・専攻別に複数開設されているため、履修可能学科・専攻を必ず確認すること。(特に教員免許状を取得するために受講する場合、自学科・専攻に対応しない教育行政学を受講しても要件を満たさないので注意すること)

---

科目コード：50011

科目ナンバリング：EX21C01K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：家庭科教育法I( Teaching of Home Economics I)

担当者：扇澤 美千子

### 基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：F

関連資格：教職

AL要素：02模擬実践

07発表

08協同学修

10資料調査課題

11討論

15レポート指導

**授業の概要：** 中学校学習指導要領が改訂され(2021年4月から全面実施)、中学校技術・家庭科では、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目標としている。  
本講義では、これら指導要領の趣旨や中学校家庭分野の目標と内容について解説し、より良い家庭科の授業のあり方を考えていく。また、指導要領の内容把握や学習指導のポイントを考える活動を通して、教育課程における家庭科の意義を確認し、主体的に生きるための基礎を身に着ける教科であることを知ると同時に、学生自身が「まとめる・発表する」を実践する機会とする。さらに、学習指導に必要な事柄についての理解を深め、指導計画作成の基盤をつくる。

**キーワード：** 指導要領 内容把握 学習指導 指導計画作成の基礎

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** ・学習指導要領や家庭科教育の目標と内容に関して理解し、解説する  
・授業で使用する教材・資料についてその役割を理解する

**評価方法：** 資料作成  
発表  
討論

**評価割合：** 30%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** ・教育課程における家庭科の意義を確認し、学習指導に必要な事柄について理解を深める  
・生活と技術とのかかわりについて理解を深め、家庭科が主体的に生活する上で重要な教科であることを認識する

**評価方法：** 模擬実践  
協同学修  
発表  
討論  
レポート

**評価割合：** 40%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

課題に取り組む姿勢や発表態度、協同作業や討議などへの参加の度合いについて評価する

**評価割合：** 30%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動への参加は推奨する

**評価割合：** 0

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、著しく公平性を欠く言動があった場合は指導の対象とする

**評価割合：** 0

### ▼ その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 第1回：中学校技術・家庭科の変遷—改訂の基本方針と改訂のポイント—  
第2回：教育課程の意義及び「技術・家庭科」の目標  
第3回：実践的・体験的学習の重要性  
第4回：家庭分野の目標  
第5回：家庭分野の内容把握1 課題説明と資料作成：「まとめる」  
第6回：家庭分野の内容把握2 発表と講評：「発表する」

- 第7回：内容の取扱いと指導上の留意点
  - 第8回：家庭科における伝統文化の扱い
  - 第9回：伝統文化—和服について—ゆかたの着装実習
  - 第10回：学習指導のポイントを考える1 総合的な学習の時間や他教科との関連から
  - 第11回：学習指導のポイントを考える2 言語活動の充実を目指す指導案を参考に
  - 第12回：評価の方法 実習や製作の評価
  - 第13回：小学校家庭科及び高等学校家庭科との関連
  - 第14回：楽しく役立つ家庭科の授業とは—電子黒板の活用法—
  - 第15回：生きる力を育む家庭科の授業をめざして
- 定期試験

**使用テキスト：**『中学校学習指導要領解説(技術・家庭編)』(平成29年告示)  
『中学校技術・家庭科 家庭分野教科書』(2022年度日立市採用教科書)

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業前には指導要領の内容を確認すること  
授業後は、課題を確実にこなすこと

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応をします。必要なことを申し出てください。

**授業時間外の連絡手段：** アポイントをとるためにメールを送ってください。アドレスは初回にお知らせします。

**留意事項：** 課題によってTeamsとIC-UNIPAを使い分けます。  
両者の課題管理に注意を払ってください。

**科目コード：**50012      **科目ナンバリング：**EX22C01K      **主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：**家庭科教育法II( Teaching of Home Economics II)

**担当者：**扇澤 美千子

#### 基本情報

**年次：**2      **単位数：**2      **授業形式：**講義

**曜時：**火曜3限      **履修可能学科・専攻：**F

**関連資格：**教職      **AL要素：**02模擬実践  
07発表  
08協同学修  
10資料調査課題  
11討論  
15レポート指導

**授業の概要：** 家庭科教育は生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識を習得し、生きる力を育み、生活の質の向上を目指す科目として非常に重要である。ここでは、衣食住、消費生活、環境等に関する実践的・体験的学習の重要性や、家庭の機能についてなど生活に関する種々の課題について理解し、さらにその課題解決を図る能力を育成するための指導法や学習環境の整備の方法を学ぶ。

さらに、生活を創造する能力と実践的な態度を育てるために設けられた学習項目についてその内容を吟味し、日本文化の伝承や言語活動の充実をはかるなど実際の授業でどう指導していくかを検討していく。年間指導計画と指導案の作成・教材研究・プレゼンテーションの重要性・評価の観点などを学ぶことで、模擬授業の内容向上を目指し、様々な授業場面での対応力を養う。

**キーワード：** 実践的・体験的学習 教材研究 指導案 模擬授業

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** ・実践的・体験的学習の重要性や、生活に関する課題について理解する

・課題解決を図る能力を育成するための指導法や学習環境の整備の方法を知る

**評価方法:** 資料作成  
発表  
討論

**評価割合:** 30%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** ・年間指導計画と指導案作成・教材研究・プレゼンテーションの重要性・評価の観点などを学び、模擬授業の体験を通して実践力を養う

**評価方法:** 模擬実践  
協同学修  
発表  
討論  
レポート

**評価割合:** 40%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

課題に取り組む姿勢や発表態度、協同作業や討議などへの参加の度合いについて評価する

**評価割合:** 30%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動への参加は推奨する

**評価割合:** 0

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、著しく公平性を欠く言動があった場合は指導の対象とする

**評価割合:** 0

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回:中学校技術・家庭の教育目標、教育課程改訂のポイントについて  
第2回:家庭分野の内容構成の体系化(小学校・高等学校の内容を踏まえて)  
第3回:学習環境の安全管理と衛生管理  
第4回:指導計画と内容の取扱い、学習指導法について  
第5回:指導案における題材設定・教材研究の重要性を知る  
第6回:指導案作成法 生徒の実態を踏まえた授業展開と学習形態を考える  
第7回:家庭科教育における評価の観点の特性  
第8回:各分野の指導案の検討を通して授業設計の重要性を知る  
第9回:模擬授業1 パワーポイントの効果的な使い方  
第10回:模擬授業2 電子黒板の効果的な使い方  
第11回:模擬授業の検討会と改善策の検討  
第12回:模擬授業3 改善後の指導案をもとに  
第13回:模擬授業4 改善後の指導案をもとに  
第14回:授業内容の向上を目指して  
第15回:生活の自立をめざす家庭科の授業とは  
定期試験

**使用テキスト:** 『中学校学習指導要領解説(技術・家庭編)』(平成29年告示)  
『中学校技術・家庭科 家庭分野教科書』(2022年度日立市採用教科書)

**予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等:** 授業前に指導要領の内容を確認すること  
授業後は、課題を確実にこなし、次時の準備を怠らないこと



**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応をします。必要なことを申し出てください。

**授業時間外の連絡手段:** アポイントメントをとるためにメールを送ってください。アドレスは初回にお知らせします。

**留意事項:** 課題によってTeamsとIC-UNIPAを使い分けます。  
両者の課題管理に注意を払ってください。

---

科目コード:50013      科目ナンバリング:EX33C01K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 家庭科教育法Ⅲ(Teaching of Home Economics Ⅲ)

担当者: 扇澤 美千子

#### 基本情報

年次:3      単位数:2      授業形式:講義

曜時:木曜6限      履修可能学科・専攻:F

関連資格:教職      AL要素:02模擬実践  
07発表  
08協同学修  
10資料調査課題  
11討論  
15レポート指導

**授業の概要:** 高等学校における家庭科教育では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育てることを目指しています。ここでは、高等学校における家庭科教育の変遷と意義、目標、指導要領の改訂等について解説し、中学校家庭科教育の内容を踏まえながら「家庭科」(家庭基礎、家庭総合)の構成と履修方法、それぞれの科目のねらいと内容、指導のポイントを検討し、効果的な授業のあり方、適切な評価の方法についても概説します。また、教科の内容についてのレポート・指導案の作成・検討・発表等を通じて個々のプレゼンテーション能力の向上をはかります。

**キーワード:** 指導要領 内容把握 学習指導 指導計画作成 プレゼンテーション

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** ・高等学校における家庭科教育の変遷と意義、目標、指導要領の改訂等について理解を深める  
・教科の構成と履修方法、各科目のねらいと内容、指導のポイントを知る

**評価方法:** 資料作成      **評価割合:** 30%  
発表  
討論

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** ・効果的な授業のあり方、適切な評価の方法について学び、それらを実践として取り入れた指導案を作成する  
・指導案を検討し、効果的な学習指導について考察する

**評価方法:** 模擬実践      **評価割合:** 40%  
協同学修  
発表

▼学修に主体的に取り組む態度

課題に取り組む姿勢や発表態度、協同作業や討議などへの参加の度合いについて評価する

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動への参加は推奨する

評価割合：0

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、著しく公平性を欠く言動があった場合は指導の対象とする

評価割合：0

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 第1回：高等学校家庭科教育の変遷
  - 第2回：基本方針と改訂のポイント
  - 第3回：「家庭科」の目標を知る
  - 第4回：「家庭科」(家庭基礎)の内容を理解し、まとめる(プレゼンテーションの実施)
  - 第5回：「家庭科」(家庭総合)の内容を理解し、まとめる(プレゼンテーションの実施)
  - 第6回：指導計画の作成法
  - 第7回：内容の取扱いと指導上の留意点
  - 第8回：学習指導・教材研究のポイントを考える(ディスカッションを含む)
  - 第9回：適切な評価の方法を考える(ディスカッションを含む)
  - 第10回：指導事例の検討から授業改善の方策を知る1
  - 第11回：言語活動の充実を目指した指導事例の検討から授業改善の方策を知る2
  - 第12回：指導事例の検討から授業改善の方策を知る3(ディスカッションを含む)
  - 第13回：中学校家庭科との関連及び他教科との関連を探る
  - 第14回：楽しく役立つ家庭科の授業のための情報機器の活用
  - 第15回：自立した生活を目指して

使用テキスト：『高等学校学習指導要領解説 家庭編』(平成30年告示)  
『家庭基礎 自立・共生・創造』(東京書籍)

予習・復習のポイントと 授業前に指導要領の内容を確認すること  
参考文献・資料等： 授業後は、課題を確実にこなし、次時の準備を怠らないこと

障がいのある 可能な限り対応をします。必要なことを申し出てください。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： アポイントメントをとるためにメールを送ってください。アドレスは初回にお知らせします。

留意事項： 課題によってTeamsとIC-UNIPAを使い分けます。  
両者の課題管理に注意を払ってください。

---

科目コード：50014      科目ナンバリング：EX34C01K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：家庭科教育法Ⅳ(Teaching of Home Economics Ⅳ)

担当者：石島 恵美子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：集中講義

履修可能学科・専攻：F

関連資格：教職

AL要素：02.模擬実践  
16.振り返り用紙と応答

**授業の概要：** アクティブラーニングや実験・実習などの教育手法や情報機器を活用した指導案を作成し、その指導案を使って模擬授業を実施することにより実践的指導力を養うことができる。

**キーワード：** 高等学校「家庭」学習指導要領、学習指導案の作成、模擬授業

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 授業で解説を受けた高等学校「家庭」で学習する内容に関する指導案を作成し模擬授業を実施する。評価基準に基づき、概ね80%と評価される。

**評価方法：** 学習指導案、模擬授業 **評価割合：** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 指導案の作成時や模擬授業実施後に得た知見や経験をふまえて考察した自己評価(所見)を表現することができる。

**評価方法：** 自己・相互評価(所見)・レポート **評価割合：** 40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

学修に向けて粘り強く取り組んだ過程を適切に表現し、説明することができる。

**評価割合：** 10%

##### ▼実践的ボランティア

評価対象としない。

**評価割合：** 0%

##### ▼公正性

評価対象としない。ただし、模擬授業の実施時における発言が著しく公正性を欠く言動である場合は、減点や厳重注意の対象となる。

**評価割合：** 0%

##### ▼その他

特になし。

**評価割合：** 特になし。

**授業計画：** 第1回 シラバスを用いたガイダンス、児童を取り巻く生活課題  
第2回 家庭科教育の意義と小学校家庭科で育成したい能力  
第3回 家庭科の学習指導要領における目標と内容、家庭科の見方・考え方  
第4回 授業設計、年間指導計画の作成  
第5回 家庭科における教材研究、情報機器及び教材の活用、学習方法、評価  
第6回 学習指導案の作成と模擬授業の計画  
第7回 模擬授業と情報機器及び教材の活用【A人の一生と家族・家庭及び福祉(生活設計)(家族・家庭)】  
第8回 模擬授業と情報機器及び教材の活用【A人の一生と家族・家庭及び福祉(高齢者福祉社)(保育・福祉)】  
第9回 模擬授業と情報機器及び教材の活用【B衣食住の生活の自立と設計(衣生活)1・2】  
第10回 模擬授業と情報機器及び教材の活用【B衣食住の生活の自立と設計(食生活)1・2】  
第11回 模擬授業と情報機器及び教材の活用【B衣食住の生活の自立と設計(住生活)1・2】  
第12回 模擬授業と情報機器及び教材の活用【持続可能な消費生活・環境(成年年齢)(環境)】  
第13回 模擬授業と情報機器及び教材の活用【ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動】  
第14回 模擬授業と情報機器及び教材の活用【環境に配慮した生活の工夫(HP)(家庭ク

ラブ)】  
第 15 回 まとめ

試験はプレゼンテーション形式の「学びのプロセスの発表」

**使用テキスト:** SDGsと家庭科カリキュラム・デザインー探究的で深い学びを暮らしの場から作る(増補版)、荒井紀子、高木幸子、石島恵美子、鈴木真由子、小高さほみ、平田京子、教育図書株式会社、2022

高等学校学習指導要領解説 家庭編(平成30年告示 文部科学省)

家庭基礎 自立・共生・創造(牧野カツコ他著 東京書籍)

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 予習としては、2回目から6回目は、テキストの指定箇所を読んでくる(90～120分)。7回目から15回目は授業で指導案作成のために準備した各種の教科書やガイドブック、参考文献などを利用して指導案を作成する(90～120分)。復習としては、模擬授業で指摘された内容について振り返り、指導案の改善を図る(30～60分)。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、学務部に相談しましょう。

**授業時間外の連絡手段:** IC-UNIPAの掲示板により連絡する。

**留意事項:** なし

---

科目コード:50015      科目ナンバリング:EX20C04K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 道徳教育の理論と方法 a(Moral Education Theory and Methods a)

担当者: 結城 敏也

#### 基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜6限

履修可能学科・専攻: E Pe C W F N M

関連資格:教職

AL要素:02 模擬授業

11 討論

#### 授業の概要:

##### 授業の概要

近年いじめや情報モラルの問題をはじめとする現代の道徳教育の課題は、「徳」をどのように理解し、それをいかに実践するかである。本授業の目的は、道徳の本質的意味を論究しながら、学校教育における道徳授業の理論と実践を学ぶことにある。授業では道徳の理論的考察と、授業レベルにおける多様な指導法の実践的理解を深めることに重点をおきたい。そこで、道徳を教えるとは何かについて考察しよう。「道徳」について考えることなく「道徳」を学生に教えてしまうことは、個人の自発性を否定する洗脳教育と違いがあるのか等を、模擬授業を通して考えてみよう。

**キーワード:** 教職 道徳 倫理 学校教育 教育についての法規

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 「道徳」「倫理」とは何かを把握し、論理的に他者に対して、表現し説得できるようになる。

**評価方法:** レポート提出

**評価割合:** 70%

実践授業(指定した課題のプレゼンター

ションの実施)

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 倫理的問題を、授業対象となる児童生徒の世界理解や常識に適合した仕方で解説し、あるいは児童生徒が眼前の問題に対して、情報を収集しかつ判断することが自発的にできるように指導することができるようになる。

**評価方法:** 模擬授業の実施

**評価割合:** 30%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

模擬授業への参加を必須とする。

受講者には手書きノートの作成が推奨す。授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的におこなうように。

**評価割合:** 0%

#### ▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合、また不正行為は減点や嚴重注意の対象となる。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし<br>

#### 授業計画:

- 第1回: 道徳とは何か? 概括
- 第2回: 社会的存在としての人間と道徳
- 第3回: 道徳教育の歴史1 (宗教教育と道徳教育の関連性)
- 第4回: 道徳教育の歴史2 (国民国家の発生と学校における道徳教育)
- 第5回: 道徳性の育成の理論 (道徳意識形成における幼児期の重要性)
- 第6回: 道徳教育のカリキュラム・マネジメント (道徳的判断主体の身体性忘却の危険性)
- 第7回: 道徳性の育成の理論 (教育と洗脳の違い、教員の陥りがちな危険性)
- 第8回: 道徳の指導法1 (討議型の道徳授業と合意形成の問題)
- 第9回: 道徳の指導法2 (読み物教材による自我関与の方法)
- 第10回: 道徳の指導法3 (体験的な道徳授業とは何か)
- 第11回: 道徳の指導法4 (役割演技の理論・方法)
- 第12回: 道徳授業の実践1 (学習指導案の作成)
- 第13回: 道徳授業の実践2 (模擬授業実践および分析と批評a)
- 第14回: 道徳授業の実践3 (模擬授業実践および分析と批評b)
- 第15回: 総括、道徳教育の課題

**使用テキスト:** 特になし。icunipa掲示に講義資料など添付

**予習・復習のポイントと** 予習のポイント 30～90分

**参考文献・資料等:** 資料などを通読し、不明な事項などを調べておく。シラバスに書かれた、あるいは講義中に提示する参考文献などを通読し、自分なりにまとめる。

復習のポイント 30～60分

講義に基づいてノートを作成、不明な点があれば調べる。それでもわからない点などはリアク

シオンペーパーで質問をする。

#### 資料

文部科学省のホームページから入手可能なもの。  
「中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編」(平成29年3月告示 文部科学省)  
「高等学校学習指導要領」(最新版 文部科学省)

#### 参考文献

和辻哲郎 「人間の学としての倫理学」 岩波文庫  
高木八尺他編 「人権宣言集」 岩波文庫  
村上重良 「国家神道」 岩波書店  
デーブ・グロスマン 「戦争における『人殺し』の心理学」 ちくま学芸文庫

文部科学省 道徳教育アーカイブ

<https://doutoku.mext.go.jp/>

文部科学省 教育100年史 資料編

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/others/detail/1317930.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317930.htm)

教育と洗脳の関連で参考になるもの。

スタンリーキューブリック監督 フルメタルジャケット

**障がいのある履修者への対応:** 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** メール

**留意事項:** 呼吸器系の疾患を抱えているために、コロナウィルスのまんえん状況によってはオンライン授業になる可能性があります。  
コロナウィルス蔓延によりオンライン授業形式で講義を行っている場合、かつ履修人員が少ない場合には、講義中に予定しているディスカッション、プレゼンテーションをteamsを使用してのオンライン会議(演習)形式で行う場合があります。

---

**科目コード:** 50015      **科目ナンバリング:** EX20C04K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 道徳教育の理論と方法 b(Moral Education Theory and Methods b)

**担当者:** 小川 哲哉

#### 基本情報

**年次:** 2

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 月曜2限

**履修可能学科・専攻:** E Pe C W F N M

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 発問と回答及び討議活動

**授業の概要:** 道徳の概念規定を分析した上で、我が国の道徳教育の史的展開過程を明らかにし、「特別の教科 道徳」のねらいとその指導法について論究する。特に学習指導要領の改正に伴い道徳の指導法がどのように変わってきたかを検討する。このように本授業では、道徳教育における理論と実践の往還を明らかにすることを通して、道徳教育のより実践的な課題を探究する。

**キーワード:** 徳育、修身科、国定教科書、学習指導要領、道徳の時間、特別の教科 道徳、自我関与、問題解決学習、体験的な学習、主体的・対話的な深い学び

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 道徳教育の歴史的変遷、学習指導要領における道徳教育のあり方、道徳授業の具体的な方法論について、およそ80%の内容を理解し、説明することができる。

**評価方法:** 小テストと学期末の確認テスト

**評価割合:** 80%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**授業で理解した学習内容について、自学自修による発展的なく学びを通して論理的かつ客観的に自分の考えを主張し、表現することができる。

**評価方法：**小テストと学期末の確認テスト

**評価割合：**20%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

成績評価へ直接的に反映させることはないが、自学自修による発展的なく学びで得られた成果が、小テストや学期末の確認テストに見いだせると判断できる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：**0%

### ▼実践的ボランティア

成績評価へ直接的に反映させることはないが、自学自修による発展的なく学びで得られた成果が、小テストや学期末の確認テストに見いだせると判断できる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：**0%

### ▼公正性

成績評価に直接的に反映させることはないが、授業中の言動、特に許可のない私語等や人権侵害に当たるような発言や態度、また小テストや学期末の確認テストの記述等に明らかに公正を欠く内容があった場合は、減点や厳重注意の対象になることをご承知おき頂きたい。

**評価割合：**0%

### ▼その他

特になし

**評価割合：**特になし

- 授業計画：**
- 第1回 本授業に関するガイダンス(道徳的価値とは何か?)
  - 第2回 道徳教育の歴史(戦前の道徳教育)
  - 第3回 道徳教育の歴史(学習指導要領の改訂に伴う道徳教育の位置づけ)
  - 第4回 「特別の教科 道徳」の創設の経緯とその内容
  - 第5回 道徳教育の方法Ⅰ(道徳的判断力を問う授業のあり方)
  - 第6回 道徳教育の方法Ⅰ(道徳的心情を育成する授業のあり方)
  - 第7回 道徳教育の方法Ⅱ(道徳的意欲と態度を育成する授業のあり方)
  - 第8回 討議型の道徳授業の可能性(問題解決学習と道徳教育)
  - 第9回 体験型の道徳授業の可能性(役割取得学習と道徳教育)
  - 第10回 道徳の指導法Ⅰ(道徳の指導計画と内容項目の重点化)
  - 第11回 道徳の指導法Ⅱ(道徳授業の構造分析)
  - 第12回 道徳の実践的研究Ⅰ(授業観察の方法論)
  - 第13回 道徳の実践的研究Ⅱ(教材開発と授業分析)
  - 第14回 道徳の実践的研究Ⅲ(道徳授業の評価のあり方)
  - 第15回 総括的討論(道徳教育の課題)

**使用テキスト：**小川哲哉『増補改訂版 主体的・対話的なく学びの理論と実践—自律と自立を目指す教育—』青簡舎、2021年。(第1回目の授業までに必ず購入しておくこと)

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**事前に指示されたテキストの学習箇所は、授業前に予習しておく。授業後は、授業で学んだ内容を復習する。テキストや配布資料にない項目については自学自修することが望ましい。参考書としては文部科学省『学習指導要領 道徳解説編』を推薦したい。

**障がいのある履修者への対応：**十分な配慮をしたいので、学務部と相談して頂きたい。

**授業時間外の連絡手段：**学務部に連絡手段を伝えてあるので、相談して頂きたい。

**留意事項：**特になし。

科目コード:50015

科目ナンバリング:EX20C04K

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 道徳教育の理論と方法 c(Moral Education Theory and Methods c)

担当者: 小川 哲哉

#### 基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:月曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe C W F N M

関連資格:教職

AL要素: 発問と回答及び討議活動

**授業の概要:** 道徳の概念規定を分析した上で、我が国の道徳教育の史的展開過程を明らかにし、「特別の教科 道徳」のねらいとその指導法について論究する。特に学習指導要領の改正に伴い道徳の指導法がどのように変ってきたかを検討する。このように本授業では、道徳教育における理論と実践の往還を明らかにすることを通して、道徳教育のより実践的な課題を探究する。

**キーワード:** 徳育、修身科、国定教科書、学習指導要領、道徳の時間、特別の教科 道徳、自我関与、問題解決学習、体験的な学習、主体的・対話的な深い学び

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 道徳教育の歴史的変遷、学習指導要領における道徳教育のあり方、道徳授業の具体的な方法論について、およそ80%の内容を理解し、説明することができる。

**評価方法:** 小テストと学期末の確認テスト

**評価割合:** 80%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で理解した学習内容について、自学自修による発展的なく学びを通して論理的かつ客観的に自分の考えを主張し、表現することができる。

**評価方法:** 小テストと学期末の確認テスト

**評価割合:** 20%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

成績評価へ直接的に反映させることはないが、自学自修による発展的なく学びで得られた成果が、小テストや学期末の確認テストに見いだせると判断できる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

成績評価へ直接的に反映させることはないが、自学自修による発展的なく学びで得られた成果が、小テストや学期末の確認テストに見いだせると判断できる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

成績評価に直接的に反映させることはないが、授業中の言動、特に許可のない私語等や人権侵害に当たるような発言や態度、また小テストや学期末の確認テストの記述等に明らかに公正を欠く内容があった場合は、減点や嚴重注意の対象になることをご承知おき頂きたい。

**評価割合:** 0%

##### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回 本授業に関するガイダンス(道徳的価値とは何か?)  
第2回 道徳教育の歴史(戦前の道徳教育)  
第3回 道徳教育の歴史(学習指導要領の改訂に伴う道徳教育の位置づけ)  
第4回 「特別の教科 道徳」の創設の経緯とその内容



- 第5回 道徳教育の方法Ⅰ(道徳的判断力を問う授業のあり方)
- 第6回 道徳教育の方法Ⅰ(道徳的心情を育成する授業のあり方)
- 第7回 道徳教育の方法Ⅱ(道徳的意欲と態度を育成する授業のあり方)
- 第8回 討議型の道徳授業の可能性(問題解決学習と道徳教育)
- 第9回 体験型の道徳授業の可能性(役割取得学習と道徳教育)
- 第10回 道徳の指導法Ⅰ(道徳の指導計画と内容項目の重点化)
- 第11回 道徳の指導法Ⅱ(道徳授業の構造分析)
- 第12回 道徳の実践的研究Ⅰ(授業観察の方法論)
- 第13回 道徳の実践的研究Ⅱ(教材開発と授業分析)
- 第14回 道徳の実践的研究Ⅲ(道徳授業の評価のあり方)
- 第15回 総括的討論(道徳教育の課題)

**使用テキスト:** 小川哲哉『増補改訂版 主体的・対話的なく学び>の理論と実践—自律と自立を目指す教育—』青簡舎、2021年。(第1回目の講義から使用するので事前に購入しておくこと)

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 事前に指示されたテキストの学習箇所は、授業前に予習しておく。授業後は、授業で学んだ内容を復習する。テキストや配布資料にない項目については自学自修することが望ましい。参考書としては文部科学省『学習指導要領 道徳解説編』を推薦したい。

**障がいのある履修者への対応:** 十分な配慮をしたいので、学務部と相談して頂きたい。

**授業時間外の連絡手段:** 学務部に連絡手段を伝えてあるので、相談して頂きたい。

**留意事項:** 特になし。

**科目コード:** 50016      **科目ナンバリング:** EX20C05K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 特別活動の理論と方法 a (Special Activities Theory and Methods a)

**担当者:** 石崎 成人

**基本情報**

<b>年次:</b> 2	<b>単位数:</b> 2	<b>授業形式:</b> 講義
<b>曜時:</b> 水曜4限	<b>履修可能学科・専攻:</b> E Pe C W F N M	
<b>関連資格:</b> 教職	<b>AL要素:</b> 08:協同学修 15:レポート指導 17:発問と回答	

**授業の概要:** 中学校の特別活動の意義と原理を踏まえ、教育課程における特別活動の位置づけと「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点に立った授業の在り方について講義します。中学校教員の実務経験を生かし、実践的な指導案作成を指導します。  
【コロナウィルスの感染拡大による緊急事態宣言中は、同時双方向型の遠隔授業になります】

**キーワード:** 3つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」、特別活動の領域、キャリア形成、「主体的、対話的で深い学び」、自治的な集団活動、特別活動における評価

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

**到達目標:** 特別活動の意義や特質、指導目標や内容、多様な指導方法を理解する。指導案作成の方法を理解する。これらについて、概ね80%論述することができる。

**評価方法:** 筆記試験      **評価割合:** 筆記試験(30%) 指導案(20%)

【遠隔授業の場合には、指導案】  
指導案

▼ **思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 学習指導上の課題や多様な指導方法, 人格形成に関わる特別活動の役割等について考察する。これらについて, 概ね80%の内容を論述できる。

**評価方法:** 筆記試験 **評価割合:** 筆記試験(20%)レポート(30%)  
【遠隔授業の場合には, レポート】  
レポート

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。但し、授業中の発言や指導案作成の成果が顕著であると認める場合は、上記の「知識・技能」の評価に加算します。

**評価割合:** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。教育ボランティア等に参加して、生徒との触れ合いを体験したり、授業を参観したりして自己の課題を見つけ、指導案作成に生かすことが望ましい。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、履修要覧に示された「授業を受ける際のマナー」に触れる行為、人権侵害、差別的発言があった場合には、嚴重注意又は減点とします。

**評価割合:** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回: ガイダンス, 特別活動の意義と役割について  
第2回: 中学校学習指導要領解説特別活動編について  
第3回: 教育課程における特別活動の位置づけについて  
第4回: 特別活動の全体目標について(1)概要  
第5回: 特別活動の全体目標について(2)「行動の仕方を身に付ける」「合意形成と意思決定」  
第6回: 特別活動の全体目標について(3)「自主的な態度の育成, 自己を生かす能力」  
第7回: 特別活動の内容と3つの視点について  
第8回: 学級活動について(1)学級や学校における生活づくりへの参画  
第9回: 学級活動について(2)自他の個性の理解と尊重, よりよい人間関係の形成(3)社会生活, 職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用  
第10回: 生徒会活動について  
第11回: 学校行事について  
第12回: 特別活動の現状と課題について  
第13回: 指導案作成について(1)概要, 課題設定  
第14回: 指導案作成について(2)学習展開  
第15回: これからの特別活動と教師の在り方について  
定期試験

**使用テキスト:** 中学校学習指導要領解説特別活動編(平成29年3月文部科学省)

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 学習指導要領解説特別活動編を熟読し, 重要な個所に朱線を引き, インデックスを貼付しておくことが望ましい。指導案作成は, 作成マニュアルを参考に自主的に進めるよう心掛けてください。疑問点等について積極的に質問するなど主体的な取組が大切です。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。事前に申し出てください。

**授業時間外の連絡手段:** 授業日に講師控室まで, 又は授業の前後に直接申し出てください。

**留意事項:** レポートや指導案の提出期日を厳守してください。  
欠席届は, 事前に提出してください。公欠届は, 事後になります。  
公共交通機関の遅延による遅刻は, 遅延証明を提示してください。

科目コード:50016

科目ナンバリング:EX20C05K

主な使用言語:日本語

授業名(英文):特別活動の理論と方法 b(Special Activities Theory and Methods b)

担当者:石崎 成人

#### 基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe C W F N M

関連資格:教職

AL要素:08:協同学修

15:レポート指導

17:発問と回答

**授業の概要:** 中学校の特別活動の意義と役割を踏まえ、教育課程における特別活動の位置づけと「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点に立った授業の在り方について講義します。中学校教員の実務経験を生かして、実践的な指導案作成を指導します。

【コロナウィルスの感染拡大による緊急事態宣言中は、同時双方向型の遠隔授業になります】

**キーワード:** 3つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」、特別活動の領域、キャリア形成、「主体的、対話的で深い学び」、自治的な集団活動、特別活動における評価

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 特別活動の意義や特質、指導目標や内容、多様な指導方法を理解する。指導案作成の方法を理解する。これらについて、概ね80%論述することができる。

**評価方法:** 筆記試験

**評価割合:** 筆記試験(30%)指導案(20%)

【遠隔授業の場合には、指導案】

指導案

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 学習指導上の課題や多様な指導方法、人格形成に関わる特別活動の役割等について考察する。これらについて、概ね80%の内容を論述できる。

**評価方法:** 筆記試験

**評価割合:** 筆記試験(20%)レポート(30%)

【遠隔授業の場合には、レポート】

レポート

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。但し、授業中の発言や指導案作成の成果が顕著であると認める場合は、上記の「知識・技能」の評価に加算します。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。教育ボランティア等に参加して、生徒との触れ合いを体験したり、授業を参観したりして自己の課題を見つけ、指導案作成に生かすことが望ましい。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、履修要覧に示された「授業を受ける際のマナー」に触れる行為、人権侵害、差別的発言があった場合には、嚴重注意又は減点とします。

**評価割合:** 0%

##### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回:ガイダンス、特別活動の意義と役割について

- 第2回:中学校学習指導要領解説特別活動編について  
 第3回:教育課程における特別活動の位置づけについて  
 第4回:特別活動の全体目標について(1)概要  
 第5回:特別活動の全体目標について(2)「行動の仕方を身に付ける」「合意形成と意思決定」  
 第6回:特別活動の全体目標について(3)「自主的な態度の育成、自己を生かす能力」  
 第7回:学級活動の内容と3つの視点について  
 第8回:学級活動について(1)学級や学校における生活づくりへの参画  
 第9回:学級活動について(2)自他の個性の理解と尊重,よりよい人間関係の形成(3)社会生活,職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用  
 第10回:生徒会活動について  
 第11回:学校行事について  
 第12回:特別活動の現状と課題について  
 第13回:指導案作成について(1)概要,課題設定  
 第14回:指導案作成について(2)学習展開  
 第15回:これからの特別活動と教師の在り方について  
 定期試験

**使用テキスト:** 中学校学習指導要領解説特別活動編(平成29年3月文部科学省)

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 学習指導要領解説特別活動編を熟読し,重要な個所に朱線を引き,インデックスを貼付しておくことが望ましい。指導案作成は,作成マニュアルを参考に自主的に進めるよう心掛けてください。疑問点等について積極的に質問するなど主体的な取組が大切です。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。事前に申し出てください。

**授業時間外の連絡手段:** 授業日に講師控室まで,又は授業の前後に直接申し出てください。

**留意事項:** レポートや指導案の提出期日を厳守してください。  
 欠席届は,事前に申し出てください。公欠届は,事後になります。  
 公共交通機関の遅延による遅刻は,遅延証明を提示してください。

**科目コード:** 50017      **科目ナンバリング:** EX20C06K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 教育方法論 a(Education Methodology a)

**担当者:** 生越 達、小林 祐紀

#### 基本情報

<b>年次:</b> 2	<b>単位数:</b> 2	<b>授業形式:</b> 講義
<b>曜時:</b> 集中講義	<b>履修可能学科・専攻:</b> E Pe C W F N M	
<b>関連資格:</b> 教職	<b>AL要素:</b> 02.模擬実践 17.発問と回答	

**授業の概要:** これまでの教育において培われてきた教育方法を概観し,これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法を詳述します。またこのことをふまえ,必要となる指導技術や情報機器の活用等について,基礎的な知識・技能を身につけるための訓練を行います。

**キーワード:** 教育実践、資質・能力、教育財、評価、指導技術、学習指導案・指導計画、情報機器活用、ICT

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 授業で解説を受けた教育方法の諸論について,概ね80%の事項を理解・暗記し,解答することができる。

**評価方法:** 【前半】レポート      **評価割合:** 50%

## 【後半】筆記試験

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法:** 【前半】レポート  
【後半】筆記試験

**評価割合:** 50%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合:** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

毎回出席をとる。

**評価割合:** 毎回出席をとる。

### 授業計画: 【前半担当者:小林祐紀】

- 第1回:オリエンテーション, 現代社会におけるICTの役割と導入
- 第2回:教師のICT活用指導力と先端技術及びデジタルコンテンツの活用
- 第3回:特別支援・幼児教育におけるICT活用
- 第4回:個別最適な学びと対話的な学びを深めるICTの活用と遠隔授業
- 第5回:児童生徒によるICT活用
- 第6回:児童生徒の情報活用能力の育成
- 第7回:プログラミングを取り入れた授業
- 第8回:校務の情報化とデータの活用

### 【後半担当者:生越 達】

- 第9回:教育方法の基礎理論、類型、実践形態
  - 第10回:これからの子供たちに求められる資質・能力と、その教育方法の基本理念
  - 第11回:教育方法の成立要件 一人(生徒と教員)と教育財(教室と教材)
  - 第12回:学習指導案(目標・内容、教材・教具、展開、形態、評価等)の基礎的理解
  - 第13回:学習指導案の作成
  - 第14回:学習指導案に基づく模擬授業1
  - 第15回:学習指導案に基づく模擬授業2および講評
- 筆記試験

**使用テキスト:** 特になし。授業で用いる資料はすべて授業時に配付します。下記に掲げる参考書は、授業を受講するにあたり必須のものではありませんが、授業で扱う内容の理解をさらに深めたり広めたりする上で有効なものですので可能な限り活用してください。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 「教育の情報化に関する手引-追補版-」(令和2年6月 文部科学省)  
「StuDX Style」(<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>)  
「中学校学習指導要領」(平成29年3月 文部科学省)  
「中学校学習指導要領解説 総則編」(平成29年3月 文部科学省)

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** 非常勤講師であるため、授業時及び公開されているメールに問い合わせをしてください。

**留意事項:** 教育方法論は学科・専攻別に複数開設されているため、履修可能学科・専攻を必ず確認すること。特に教員免許状を取得するために受講する場合、自学科・専攻に対応しない教育方法論を受講しても要件を満たさないので注意すること。  
尚、この授業では担当教員による講義だけでなく、受講者自身の体験的な操作や調査活動、報告などの演習的な作業があります。詳細については授業のなかで指示します。  
また、前半部分についてはノートPCまたはタブレット等の持参を求めます。これについても詳しくは初回授業等でお話しますが、持参が難しい場合は別途、指示に従って下さい。

---

科目コード:50017      科目ナンバリング:EX20C06K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 教育方法論 b(Education Methodology b)

担当者: 生越 達、小林 祐紀

#### 基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:集中講義

履修可能学科・専攻: E Pe C W F N M

関連資格:教職

AL要素: 02.模擬実践  
17.発問と回答

**授業の概要:** これまでの教育において培われてきた教育方法を概観し、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法を詳述します。またこのことをふまえ、必要となる指導技術や情報機器の活用等について、基礎的な知識・技能を身につけるための訓練を行います。

**キーワード:** 教育実践、資質・能力、教育財、評価、指導技術、学習指導案・指導計画、情報機器活用、ICT

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 授業で解説を受けた教育方法の諸論について、概ね80%の事項を理解・暗記し、解答することができる。

**評価方法:** 【前半】レポート  
【後半】筆記試験

**評価割合:** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法:** 【前半】レポート  
【後半】筆記試験

**評価割合:** 50%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の

記述内容等により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

#### ▼その他

毎回出席をとる。

**評価割合：毎回出席をとる。**

**授業計画：**【前半担当者：小林祐紀】

- 第1回：オリエンテーション，現代社会におけるICTの役割と導入
- 第2回：教師のICT活用指導力と先端技術及びデジタルコンテンツの活用
- 第3回：特別支援・幼児教育におけるICT活用
- 第4回：個別最適な学びと対話的な学びを深めるICTの活用と遠隔授業
- 第5回：児童生徒によるICT活用
- 第6回：児童生徒の情報活用能力の育成
- 第7回：プログラミングを取り入れた授業
- 第8回：校務の情報化とデータの活用

【後半担当者：生越 達】

- 第9回：教育方法の基礎理論、類型、実践形態
- 第10回：これからの子供たちに求められる資質・能力と、その教育方法の基本理念
- 第11回：教育方法の成立要件－人（生徒と教員）と教育財（教室と教材）
- 第12回：学習指導案（目標・内容、教材・教具、展開、形態、評価等）の基礎的理解
- 第13回：学習指導案の作成
- 第14回：学習指導案に基づく模擬授業1
- 第15回：学習指導案に基づく模擬授業2および講評筆記試験

**使用テキスト：** 特になし。授業で用いる資料はすべて授業時に配付します。下記に掲げる参考書は、授業を受講するにあたり必須のものではありませんが、授業で扱う内容の理解をさらに深めたり広めたりする上で有効なものですので可能な限り活用してください。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 「教育の情報化に関する手引-追補版-」(令和2年6月 文部科学省)  
「StuDX Style」(<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>)  
「中学校学習指導要領」(平成29年3月 文部科学省)  
「中学校学習指導要領解説 総則編」(平成29年3月 文部科学省)  
「高等学校学習指導要領」(最新版 文部科学省)  
「高等学校学習指導要領解説 総則編」(最新版 文部科学省)

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** 非常勤講師であるため、授業時及び公開されているメールに問い合わせをしてください。

**留意事項：** 教育方法論は学科・専攻別に複数開設されているため、履修可能学科・専攻を必ず確認すること。特に教員免許状を取得するために受講する場合、自学科・専攻に対応しない教育方法論を受講しても要件を満たさないので注意すること。  
尚、この授業では担当教員による講義だけでなく、受講者自身の体験的な操作や調査活動、報告などの演習的な作業があります。詳細については授業のなかで指示します。  
また、前半部分についてはノートPCまたはタブレット等の持参を求めます。これについても詳しくは初回授業等でお話しますが、持参が難しい場合は別途、指示に従って下さい。

---

科目コード：50018

科目ナンバリング：EX30C07K

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 教育相談の基礎(Basics of Educational Counseling)

担当者: 石崎 成人

#### 基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 火曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 08:協同学修  
17:発問と回答

**授業の概要:** 教育相談の意義, 学校内の指導体制, カウンセリングの基礎等について講義します。さらに, 生徒が抱える諸問題の背景を明らかにし, それぞれの発達課題に応じた教育相談の在り方について考察します。これらについて, 中学校教員としての実務経験を生かし, 生徒や保護者に対してより良い支援や関わり方ができるよう指導します。

【コロナウィルスの感染拡大による緊急事態宣言中は, 同時双方向型の遠隔授業になります】

**キーワード:** 生徒理解, 不適応行動, カウンセリングマインド(傾聴・受容・共感的理解), アセスメント, 発達障害, インクルーシブ教育, スクールカウンセラー, スクールソーシャルワーカー, 児童相談所

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 教育相談の意義, カウンセリングの基礎, 相談方法, 面接技法, 不適応行動の心理的背景の捉え方を理解する。事例研究を通して, より良い支援や関わり方, 専門機関との連携の在り方について理解する。これらの内容を概ね80%解答することができる。

**評価方法:** 筆記試験

**評価割合:** 70%

【遠隔授業の場合にはレポート】

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 生徒や保護者との信頼関係構築, 教育相談の進め方等について, 概ね80%論述することができる。

**評価方法:** 事例研究  
筆記試験

**評価割合:** 事例研究(20%)筆記試験(10%)

【遠隔授業の場合にはレポート】

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。ただし, 授業中の発言内容や事例研究で知見を高めたと認められる場合には, 上記の「思考力・判断力・表現力」の評価に加算します。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。自らの知見を深めるために教育ボランティア等に参加して, 生徒が抱える諸問題を把握し, 解決の手立てを考察することが望ましい。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし, 履修要覧に示された「授業を受ける際のマナー」に触れる行為, 人権侵害, 差別的発言があった場合には, 嚴重注意又は減点とします。

**評価割合:** 0%

##### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回:ガイダンス, 教育相談の意義について



- 第2回:子供の不適応とストレスについて(1)家庭, 社会における不適応行動
  - 第3回:子供の不適応とストレスについて(2)学校における不適応行動
  - 第4回:生徒理解について
  - 第5回:カウンセリングの基礎について
  - 第6回:傾聴技法について
  - 第7回:支持とかかわりについて
  - 第8回:教育相談の実際について(1)いじめ・不登校
  - 第9回:教育相談の実際について(2)暴力行為
  - 第10回:教育相談の実際について(3)発達障害とインクルーシブ教育
  - 第11回:教育相談の実際について(4)思春期・青年期
  - 第12回:教育相談の進め方について(1)事例研究
  - 第13回:教育相談の進め方について(2)まとめ
  - 第14回:家庭や専門機関との連携について
  - 第15回:生徒や保護者との信頼関係構築について
- 定期試験

**使用テキスト:** 生徒指導提要(令和4年12月文部科学省)  
必要に応じて印刷資料を配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 生徒指導提要を熟読し, 重要な個所に朱線を引きインデックスを貼付しておくことが望ましい。特に, キーワードについては, その意味や内容を調べておくことで講義内容の理解にもつながります。さらに, 子供たちが抱える諸問題や教育問題等に関する報道を確認しておくことも大切です。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。事前に申し出てください。

**授業時間外の連絡手段:** 授業日に講師控室まで, 又は授業の前後に直接申し出てください。

**留意事項:** レポートの提出は厳守してください。  
欠席届は, 事前に提出してください。公欠届は, 事後になります。  
公共交通機関の遅延による遅刻の場合は, 遅延証明を提示してください。

**科目コード:** 50020      **科目ナンバリング:** EX40C01K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 学校カウンセリング実践(Practical School Counseling)

**担当者:** 藤原 善美

#### 基本情報

**年次:** 4

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 水曜2限

**履修可能学科・専攻:** E C W F M

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 実験・実技・体験、討論、役割演技と疑似体験、振り返り用紙と応答、発問と回答

#### 授業の概要:

学校カウンセリング(教育相談)はかなり難しく奥の深いものですが, それによって児童・生徒は救われ, 大きく成長することがあります。この授業では, 学校カウンセリング(教育相談)に関して, 具体的な実践方法や事例を取り上げます。児童・生徒の不適応や問題行動の背景にある心理的要因を, 主要なカウンセリング理論で理解する機会を提供し, 担当教員の臨床現場での実務経験も共有しながら, 教師によるカウンセリングマインドをもった効果的な対応のあり方を学んでいきます。授業では, グループによる実習として, アセスメントや基本的なカウンセリングの技法を実践し, 教育現場で応用できることを目指します。

**キーワード:** カウンセリング・マインド、連携、チーム学校、心理療法

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 授業で解説を受けた内容について, 説明することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 30%

#### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、論理的に表現、記述することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 60%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自律的な学習態度を望む。

評価割合： 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、与えられた知見を現場でどのような心持ちで応用するのかについて常に考えながら学習を進める。

評価割合： 0%

#### ▼公正性

レポートを執筆するにあたって、引用文献の記述や形式等の倫理的な観点を重視する。また、学びの内容と応用を考えていく上でも誠実性を常に意識することとする。

評価割合： 10%

#### ▼その他

特になし

評価割合： 特になし

**授業計画：** 第1回：オリエンテーション(本講義の目的、概要、構成)、教師によるカウンセリングマインド  
第2回：校内での協力体制と専門機関との連携：校内での役割の違い、各専門機関の特徴など  
第3回：学校カウンセリングにおける心理療法(1)来談者中心療法、短期療法  
第4回：学校カウンセリングにおける心理療法(2)精神分析、交流分析  
第5回：学校カウンセリングにおける心理療法(3)行動療法、認知行動療法、マインドフルネス  
第6回：学校カウンセリングにおける心理療法(4)森田療法  
第7回：子どもの状態把握、心理アセスメントの方法と実践  
第8回：児童・生徒の不適応に対する理解と対応(1)児童虐待  
第9回：児童・生徒の不適応に対する理解と対応(2)危機介入とPTSD  
第10回：児童・生徒の不適応に対する理解と対応(3)学業困難  
第11回：児童・生徒の不適応に対する理解と対応(4)精神障害  
第12回：児童・生徒の不適応に対する理解と対応(5)いじめ、不登校  
第13回：子どもたち同士の理解を深める方法(1)構成的グループエンカウンター  
第14回：子どもたち同士の理解を深める方法(2)アサーティブ・コミュニケーション  
第15回：保護者との相談(保護者との相談の基本、家族発達など)  
レポート提出

**使用テキスト：** 必要な資料は、授業中に配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業前には当該テーマについて自分の意見を考える。授業後、配布資料を復習し、関連書籍などを調べる。

参考書

小林正幸・橋本創一・松尾直博(編)「教師のための学校カウンセリング」有斐閣アルマ

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** 事前に直接、あるいは大学のメールアドレスで予約をとってください。

**留意事項：** 今後、状況の変化に伴い、柔軟に変更がある可能性があります。お知らせ等があることがありますので、随時、unipaをご覧ください。

科目コード:50025

科目ナンバリング:EX41C01J

主な使用言語:日本語

授業名(英文):中等教育実習I(事前事後指導1単位を含む)(Teaching Practicum in High School I(In

担当者:稲野邊 親

#### 基本情報

年次:4

単位数:3

授業形式:実習

曜時:前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻: E Pe C W F M

関連資格:教職

AL要素:01実地訓練

**授業の概要:** (本学において、中等教育実習Ⅱは、中等教育実習Ⅰとともに履修することとしているので、ここでは事前指導・教育実習・事後指導を含めて示す。)

事前指導において、教育実習への不安を取り除き、意欲的に実習に臨めるようにするために、教職における基礎的・基本的事項を確認し、学校現場での勤務の実際を学び、実習の見通し、心構えができるようにする。また、教師としての指導力を高めるために、自己の目標、課題を明確にし、研究的に実習に当たれるようにする。

実習中は、各学部学科の教員が巡回指導を行う。

事後指導においては、実習の成果、自らの今後の課題を明確にし、教育実習報告会で発表するとともに、主体的にその解決に当たり、学校教師として継続的に資質能力の向上を図れるようにする。

**キーワード:** 学習指導要領、学習指導要領解説総則編、学習指導要領解説(校種、教科偏)、教育実習簿

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 授業で解説を受けた教育実習の概要を理解し、目標を定め、その実現のために積極的に取り組み、指導力として活用できるスキルを十分に身につけている。

大学において習得した理論や原理を実践の場で適用し主体的に再構成できる。

**評価方法:** 提出物

**評価割合:** 70%

教育実習履歴簿の記載・整理状況  
実習校の成績評価

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った内容について、実習によって得た知見や経験を踏まえ考察し、論理的に自らの所見を表現することができる。

実習を振り返り、自らの教育観、括学校観、子ども観、教師観を再構築できる。

自らが教職に向いているかどうか否かが判断できる。

**評価方法:** 提出物

**評価割合:** 30%

教育実習履修簿  
実習校の成績評価

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としないが、スクールサポーター等での実践的活動が該当校から高い評価を得たことが認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし社会的一般常識に照らし合わせて、著しく公正性を欠く言動や行為については、減点等の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：**（本学において、中等教育実習Ⅱは、中等教育実習Ⅰとともに履修することとしていますので、ここでは事前指導・教育実習・事後指導を含めて示します。）

【事前指導第1回 中等教育実習報告会への参加】

・教育実習の概要，教育実習に係る視点，心構え等

【事前指導第2回】

・教職の意義，教員に求められる資質能力，教員養成制度における教育実習，教育実習を受け入れる学校の立場等

【事前指導第3・4回】

・本学が目指す教師像，教育実習の目標・内容，教育実習における勤務と留意事項，教育実習生の一日の流れ等

・自己目標の設定，教育実習履修簿の記載と活用，研究テーマの視点等

【事前指導第5・6回】

・各教科（社会科，英語科，家庭科）の学習指導

【事前指導第7・8回】

・学校経営，教育課程，主な教育活動等

【教育実習】

・教育実習校における教育実践に関する指導，教育活動への「観察」「参加」「実習」

【事後指導第1回】

・授業実践を振り返って（各教科）

【事後指導第2回】

・教育実習を振り返って（教育実習全般の振り返り，自己評価，今後の課題の確認等）

【事後指導第3回】

・教育実習報告会の実施（次年度の中等教育実習Ⅰ・Ⅱの履修予定者も参加）

**使用テキスト：** 教育実習校種の学習指導要領解説総則編，及び担当する校種、教科に係る学習指導要領解説。その他参考書は授業の中で紹介します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業に臨むに当たって、これまで履修した教職に関する授業の基礎的・基本的な内容について事前に復習しておくこと。特に、担当教科の学習内容、指導方法に関してはしっかり確認しておく。専門教科に係る確かな力量が強く求められている。日々の生活を通して、教師としての使命感、心構えをより確かなものとする努力をすること。教育実習に当たっては、大人の人間として、社会人として、教師としての対応ができるように、日々自らを高める努力をすること。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り合理的配慮をしますので、まずは学務部等に相談してください。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項：**（本学において、中等教育実習Ⅱは、中等教育実習Ⅰとともに履修することとしていますので、ここでは事前指導・教育実習・事後指導を含めて示す。）

この授業を履修するに当たっては、教職に就こうとする強い意志を有するとともに、学級経営、学習指導、生徒指導を中心に学校の教育活動全般を推進するための基本的な知識・技能等を理解していることが望まれる。

中学校教諭1種免許状，高等学校教諭1種免許状を取得しようとする者は，事前指導・教育実習・事後指導を必ず履修すること。なお，この授業は欠席が認められないので，前もって自分の予定を十分に調整しておくこと。

中等教育実習Ⅰのみの履修は認められないので，中等教育実習Ⅱとともに履修すること。教育実習の履修については，さまざまな要件があり，履修する者は随時確認すること。

なお、この授業は後期に行われる教育実践演習と密接につながるので、実習中の取り組み、その成果、課題についてしっかりまとめておくこと。

---

---

科目コード : 50026      科目ナンバリング : EX42C01J      主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 中等教育実習Ⅱ(Teaching Practicum in High School Ⅱ)

担当者 : 稲野邊 親

#### 基本情報

年次 : 4

単位数 : 2

授業形式 : 実習

曜時 : 前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻 : ECWFM

関連資格 : 教職

AL要素 : 01実地訓練

**授業の概要 :** (本学において、中等教育実習Ⅱは、中等教育実習Ⅰとともに履修することとしているので、ここでは事前指導・教育実習・事後指導を含めて示す。)

事前指導において、教育実習への不安を取り除き、意欲的に実習に臨めるようにするために、教職における基礎的・基本的事項を確認し、学校現場での勤務の実際を学び、実習の見通し、心構えができるようにする。また、教師としての指導力を高めるために、自己の目標、課題を明確にし、研究的に実習に当たれるようにする。

実習中は、各学部学科の教員が巡回指導を行う。

事後指導においては、実習の成果、自らの今後の課題を明確にし、教育実習報告会で発表するとともに、主体的にその解決に当たり、学校教師として継続的に資質能力の向上を図れるようにする。

**キーワード :** 学習指導要領、学習指導要領解説総則編、学習指導要領解説(校種、教科偏)、教育実習簿

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標 :** 授業で解説を受けた教育実習の概要を理解し、目標を定め、その実現のために積極的に取り組み、指導力として活用できるスキルを十分に身につけている。  
大学において習得した理論や原理を実践の場で適用し主体的に再構成できる。

**評価方法 :** 提出物

**評価割合 :** 70%

教育実習履歴簿の記載・整理状況  
実習校の成績評価

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標 :** 授業で扱った内容について、実習によって得た知見や経験を踏まえ考察し、論理的に自らの所見を表現することができる。  
実習を振り返り、自らの教育観、括学校観、子ども観、教師観を再構築できる。  
自らが教職に向いているかどうか否かが判断できる。

**評価方法 :** 提出物

**評価割合 :** 30%

教育実習履修簿  
実習校の成績評価

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合 :** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としないが、スクールサポーター等での実践的活動が該当校から高い評価を得たことが認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし社会的一般常識に照らし合わせて、著しく公正性を欠く言動や行為については、減点等の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

#### ▼その他

特になし

**評価割合：特になし**

- 授業計画：**（本学において、中等教育実習Ⅱは、中等教育実習Ⅰとともに履修することとしていますので、ここでは事前指導・教育実習・事後指導を含めて示します。）
- 【事前指導第1回 中等教育実習報告会への参加】
    - ・教育実習の概要，教育実習に係る視点，心構え等
  - 【事前指導第2回】
    - ・教職の意義，教員に求められる資質能力，教員養成制度における教育実習，教育実習を受け入れる学校の立場等
  - 【事前指導第3・4回】
    - ・本学が目指す教師像，教育実習の目標・内容，教育実習における勤務と留意事項，教育実習生の一日の流れ等
    - ・自己目標の設定，教育実習履修簿の記載と活用，研究テーマの視点等
  - 【事前指導第5・6回】
    - ・各教科（社会科，英語科，家庭科）の学習指導
  - 【事前指導第7・8回】
    - ・学校経営，教育課程，主な教育活動等
  - 【教育実習】
    - ・教育実習校における教育実践に関する指導，教育活動への「観察」「参加」「実習」
  - 【事後指導第1回】
    - ・授業実践を振り返って（各教科）
  - 【事後指導第2回】
    - ・教育実習を振り返って（教育実習全般の振り返り，自己評価，今後の課題の確認等）
  - 【事後指導第3回】
    - ・教育実習報告会の実施（次年度の中等教育実習Ⅰ・Ⅱの履修予定者も参加）

**使用テキスト：** 教育実習校種の学習指導要領解説総則編，及び担当する校種、教科に係る学習指導要領解説。その他参考書は授業の中で紹介します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**

- ・授業前に、その回のテーマに関して不明な用語等を明らかにし、可能なものであれば学校における現状について認識しておくこと。
- ・随時協議や発表等に使えるような教材、資料等について意識しファイル化する習慣をつける。
- ・参考文献、資料等は授業の中で随時紹介する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り合理的配慮をしますので、まずは学務部等に相談してください。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項：**（本学において、中等教育実習Ⅱは、中等教育実習Ⅰとともに履修することとしていますので、ここでは事前指導・教育実習・事後指導を含めて示す。）  
この授業を履修するに当たっては、教職に就こうとする強い意志を有するとともに、学級経営、学習指導、生徒指導を中心に学校の教育活動全般を推進するための基本的な知識・技能等を理解していることが望まれる。

中学校教諭1種免許状, 高等学校教諭1種免許状を取得しようとする者は, 事前指導・教育実習・事後指導を必ず履修すること。なお, この授業は欠席が認められないので, 前もって自分の予定を十分に調整しておくこと。

中等教育実習Ⅰのみの履修は認められないので, 中等教育実習Ⅱとともに履修すること。教育実習の履修については, さまざまな要件があり, 履修する者は随時確認すること。

なお, この授業は後期に行われる教育実践演習と密接につながるため, 実習中の取り組み, その成果, 課題についてしっかりまとめておくこと。

---

科目コード: 50031      科目ナンバリング: EX20C08J      主な使用言語: 日本語  
授業名(英文): 介護等体験(事前事後指導含む)(Caregiving Practicum (Including Guidance and Follo  
担当者: 椎木 久夫、呉 恩恵

#### 基本情報

年次: カリキュラム      単位数: 2      授業形式: 講義・実習  
曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義)      履修可能学科・専攻: E C W F M  
関連資格: 教職      AL要素: 02模擬実践  
16振り返り用紙と応答

#### 授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型

介護等体験特例法により, 小中学校の教員免許状を取得する者は, 社会福祉施設5日間, 特別支援学校2日間の介護等体験が義務づけられた。その特例法の趣旨を理解し達成するために, 現在の福祉対策の動向と課題を学び, 体験学習に, より課題意識をもって積極的に取り組めるようにする。なおこの講座は, 介護等体験の実施と一体化しているため, 社会人としての厳しさを学びます。時間の厳守, 服装, 身だしなみ等についても考慮し授業を実施していきます。

キーワード: 介護等体験特例法・教員免許状・社会福祉施設・特別支援学校

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

到達目標: 介護等体験の必要性を理解し, 社会福祉施設, 特別支援学校についての理解を深めることができる。

評価方法: 提出物      評価割合: 50%  
体験後レポート

##### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 社会福祉施設利用者や障害のある児童生徒の実態について理解し, 基本的支援方法について理解を深める。

評価方法: 提出物      評価割合: 50%  
体験後レポート

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

##### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第1回】(担当:椎木)オリエンテーション 介護等体験学習の意義と目標  
【第2回】(担当:呉)社会福祉の理念  
【第3回】(担当:呉)社会福祉のしくみ  
【第4回】(担当:椎木)社会福祉のサービスと施設(1)高齢者福祉施設と児童福祉施設  
【第5回】(担当:椎木)社会福祉のサービスと施設(2)障害者福祉と障害者施設  
【第6回】(担当:椎木)特別支援学校について  
【第7回】(担当:椎木)介護等体験の心構えと事前準備

使用テキスト：・初回授業前に販売します。  
(1)「介護等体験マニュアルノート」(茨城県社会福祉協議会)  
(2)「介護等体験のためのケアリング論」(チャイルドセンター)  
・授業で使用する資料はすべて印刷・配布します。

予習・復習のポイントと 特になし

参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応します。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： メール及び研究室において対応します。

留意事項： 講義は全出席のこと、遅刻は厳禁

---

科目コード：50035 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：社会教育実習Ⅱ(Practicum in Social Education Ⅱ)

担当者：藤原 昌樹

基本情報

年次：3

単位数：1

授業形式：実習

曜時：前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C

関連資格：社教

AL要素：01 実地訓練

04 課題解決

07 発表

10 資料調査課題

授業の概要：「社会教育実習Ⅱ」は、日立市教育委員会生涯学習課による社会教育施設等における実習をととして、社会教育主事および社会教育士の職務を遂行するために求められる資質や実践的な能力を身につけることを目的としている。また、実習にかかわる事前指導と事後指導も含む。

キーワード：社会教育施設、実習計画書、実習日誌、実習報告書

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：社会教育施設等における実習をととして、社会教育主事および社会教育士に必要な資質を養い、職務を遂行するために求められる実践的な能力を身につけることができる。

評価方法：課題レポート  
学期末試験

評価割合：70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：社会教育施設等における実習において、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的に自らの所見を表現することができる。

評価方法：課題レポート  
発表

評価割合：30%

▼学修に主体的に取り組む態度



直接的な評価対象とはしない。

ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、実習や課題レポート、実習報告書の記述内容および発表、学期末試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が、実習や課題レポート、実習報告書の記述内容および発表、学期末試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言や実習中の態度、課題レポート、実習報告書の記述内容および発表、学期末試験の記述内容において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象になる。

**評価割合：0%**

#### ▼その他

特になし

**評価割合：特になし**

- 授業計画：**
1. 授業計画の説明、授業のねらいと意義、諸注意(シラバス使用)
  2. 社会教育主事および社会教育士の職務
  3. 社会教育主事および社会教育士に求められる実践的な能力
  4. 実習先の選定(1) 実習先一覧の説明
  5. 実習先の選定(2) 実習先の検討
  6. 実習先の選定(3) 実習先の決定
  7. 実習先の理解(1) 実習先の所在地、交通等の把握
  8. 実習先の理解(2) 実習先の機能、事業内容等の把握
  9. 実習計画書の作成(1) 実習目標の設定
  10. 実習計画書の作成(2) 実習計画の検討
  11. 実習計画書の作成(3) 実習計画の策定
  12. 実習計画書の作成(4) 計画書の完成
  13. 実習個人票の作成
  14. 実習日誌の配付と書き方
  15. 実習の留意点と最終確認
  16. 実習(1) 実習初日の振り返り
  17. 実習(2) 2日目の振り返りと実習目標の再確認
  18. 実習(3) 3日目の振り返りと実習計画の再確認
  19. 実習(4) 4日目の振り返りとこれまでの評価
  20. 実習(5) 実習全体の振り返りと日誌の完成
  21. 礼状の作成
  22. 実習の評価(1) 実習目標の達成度の評価
  23. 実習の評価(2) 実習の反省と今後の課題
  24. 実習報告書の作成(1) 報告書の構成の検討
  25. 実習報告書の作成(2) 報告書の作成
  26. 実習報告会(1) 発表内容の検討
  27. 実習報告会(2) 発表資料の作成
  28. 実習報告会(3) 報告会
  29. 実習報告書の修正と提出
  30. 授業のまとめと今後の学習課題

**使用テキスト：** なし。

毎時間レジュメを配付し、必要に応じて、印刷資料、映像資料を使用する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる(90分)。講義の終わりに、次回学習する内容のキーワードを提示するので、その概要を調べておくことにより深く理解することができる。授業後、配付資料について復習するとともに、関連する事項について自主学修により知見を深めることが望ましい(90分)。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

**授業時間外の連絡手段：** 授業時に連絡する。

**留意事項：** 各時間ごとに課題が課せられるので、継続的な出席が求められる。

---

**科目コード：**50037      **科目ナンバリング：**EX10C02K      **主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：**博物館概論(General Survey of Museum Science)

**担当者：**古家 信平

#### 基本情報

**年次：**カリキュラム

**単位数：**2

**授業形式：**講義

**曜時：**月曜4限

**履修可能学科・専攻：**E Pe Pc C

**関連資格：**社教 学芸

**AL要素：**07. 発表

**授業の概要：**博物館とは何か(その目的と機能)について、博物館の歴史をたどり現在の博物館の成立について検討し、その組織、立地、必要とされる施設、事業について概説する。そして、博物館において学芸員が担う仕事、期待される役割について考える。

**キーワード：**博物館法、保管、展示、資料収集、調査研究、学芸員

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：**博物館の目的と機能について、基礎的な知識を習得できる。

**評価方法：**授業への出席、適宜行う課題提出、期末試験による。      **評価割合：**50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**授業の内容について、それぞれの学生が経験を踏まえて考察を深め、それを表現できる。

**評価方法：**授業への出席、適宜行う課題提出、期末試験による。      **評価割合：**50%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし、それぞれが興味をもって自主的な学習をした成果が期末試験によってみられる場合には「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

**評価割合：**0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、各自が行ったボランティア活動などの実践によって深められた知見等が期末試験に認められた場合には「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

**評価割合：**0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言、提出課題、期末試験の記述等に人権侵害、差別的発言など公正性を著しく欠く場合には、減点等の対象となる。

**評価割合：**0%

##### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 博物館とは何かについて、ガイダンス  
第2回 日本における博物館の歴史 1  
第3回 日本における博物館の歴史 2  
第4回 様々な博物館—博物館の種類  
第5回 博物館の組織  
第6回 博物館の立地と施設  
第7回 博物館の施設と条件  
第8回 博物館の事業  
第9回 博物館の現状 1  
第10回 博物館の現状 2  
第11回 博物館の機能 1 収集  
第12回 博物館の機能 2 保管  
第13回 博物館の機能 3 展示  
第14回 博物館の機能 4 調査と研究  
第15回 学芸員の仕事  
定期試験

使用テキスト： 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』芙蓉書房2012年1900円＋税

予習・復習のポイントと 予習は次の回に対象となる部分のテキストに目を通しておくこと。

参考文献・資料等： 復習は授業で検討した事項について整理し、興味を持った関連する事項について調べておくこと。

障がいのある 学務部等に連絡してください。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部等に連絡してください。

留意事項： これまでに参観した博物館について、あるいは授業期間中に参観する博物館について、様々な観点で見たいけるようにしてください。

---

科目コード：50041

科目ナンバリング：EX30C11J

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：博物館実習(Museum Practicum)

担当者：清水 博之

基本情報

年次：3

単位数：3

授業形式：実習

曜時：前期(月曜3限)、後期(月曜3限)

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C

関連資格：学芸

AL要素：01.実地訓練、02.模擬実践、09.実地調査

授業の概要： この「博物館実習」の授業は、学芸員の資格を取得するにあたり、博物館法施行規則第1条に基づいた「大学において修得すべき博物館に関する科目」の一つです。

この授業の目的は、これまで学芸員養成教育における講義を通して、広範にわたる専門的な知見を理論的かつ体系的に学修したことを基礎として、現場で博物館資料を取り扱ったり、利用者に対応するなどの実践的な経験や訓練を積むことにより、博物館の専門的職員たる学芸員としてのスタートを切れるだけの基本的な素養を身につけることです。

本学では、博物館実習を「実務実習」「館園実習」「見学実習」の三本立てで構成しています。

「実務実習」では、博物館における館園実習の事前・事後指導と、他の科目の補足を兼ねて資料の取り扱いや収集、保管、展示、整理、分類などの方法、および調査研究の手法などについて学修します。

「館園実習」では、実務実習で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験することにより、博物館の理念や設置目的、業務の流れなどに対する理解を深めると同時に、博物館資料の

取り扱いや教育普及活動、来館者対応などの実務の一端を担うことにより、学芸員としての責任感や社会意識を身につけ、博物館で働く心構えを涵養します。

「見学実習」では、多様な博物館の運営実態を学び、他の博物館に関する科目で修得した知識を深めます。あわせて多様な文化財を見学・観察することにより学芸員としての素養を深めます。

担当教員は、学芸員の実務経験を活かし、必要に応じて博物館の現場で経験した事例を紹介しながら丁寧に指導します。

なお、「実務実習」については、現職の学芸員をはじめとして、博物館に関連する専門的な仕事に従事している方々をゲストスピーカーとして招聘し、専門領域に応じた指導をします。

**キーワード：**文化財保護法、博物館法、博物館法施行規則、博物館、学芸員

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：**学芸員養成教育の講義において理論的・体系的に修得した知識と技術を基礎として、博物館の専門職たる学芸員としてスタートを切ることができる実践的な素養を身につけている。

**評価方法：**授業への参加態度や貢献度(発言の回数  
や内容、課題へ取り組む姿勢など)および  
発表・レポート・実習日誌などにより総合的  
に評価する。 **評価割合：50%**

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：**学芸員養成教育の講義において理論的・体系的に修得した知識と技術を基礎として、博物館の専門職たる学芸員としてスタートを切ることができる実践的な素養を身につけている。

**評価方法：**授業への参加態度や貢献度(発言の回数  
や内容、課題へ取り組む姿勢など)および  
発表・レポート・実習日誌などにより総合的  
に評価する。 **評価割合：50%**

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果などが発表やレポートなどの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。

**評価割合：0%**

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動などの実践により深められた知見などが発表やレポートなどの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートなどの記述などにおいて人権侵害、差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

### ▼ その他

特になし。

**評価割合：特になし。**

## 授業計画：【前期】

- [01] 前期オリエンテーション
- [02] 館園実習：事前指導
- [03] 館園実習：現地レクチャー
- [04] 見学実習：事前指導

- [05]
  - ～ 見学実習:水戸方面
- [06]
- [07] 見学実習:事後指導
- [08] 実務実習:虫菌害防除法 ゲストスピーカー
- [09] 実務実習:近現代史資料 ゲストスピーカー
- [10] 実務実習:写真撮影技術 ゲストスピーカー
- [11]
  - ～ 実務実習:考古資料(学外・見学実習を含む)
- [13]
- [14] 実務実習:民俗資料
- [15] 前期総括

**【館園が指定する期間および夏期休業期間】**

館園実習:博物館などにおいて30時間(6h/日×5日)以上の現地実習をします

**【後期】**

- [01] 後期オリエンテーション
- [02] 実務実習:展覧会事前作業
- [03]
  - ～ 実務実習:展覧会展示作業
- [05]
- [06] 実務実習:展覧会事後作業
- [07] 見学実習:事前指導
- [08]
  - ～ 見学実習:栃木・福島方面(1泊2日)
- [13]
- [14] 見学実習:事後指導
- [15] 後期総括

※ 見学や現地の実習は、所要時間数に相応した複数回の授業としてカウントします。

※ 諸般の事情により、授業計画の日程や内容を変更する場合があります。

**使用テキスト:** 特になし。

**予習・復習のポイントと** 【予習】毎回、1時間以上必要です。

**参考文献・資料等:**

- 〔見学実習〕・見学先について十分な下調べをする。
- 〔実務実習〕・実習する学問分野について基礎的な知識を学修する。
- 〔館園実習〕・実習館の沿革や設立趣旨などを調べる。

**【復習】**毎回、1時間以上必要です。

- 〔見学実習〕・見学時のメモや写真・資料をもとにして学修内容をまとめる。
- 〔実務実習〕・各学問分野の資料の取り扱いに関するノウハウをまとめる。
- 〔館園実習〕・後期授業で発表できるようにまとめる。

**【参考文献・資料など】**

- ・田中梨枝子著『博物館実習ガイドブック』京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 芸術学舎, 2019年発行, 1,210円(税込み)
- ・全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『博物館実習マニュアル』芙蓉書房, 2002年発行, 2,970円(税込み)
- ・文部科学省『博物館実習ガイドライン』2009年(文科省ウェブサイトからPDF版をダウンロードできます)
- ・その他の参考文献は、授業の中で紹介します。
- ・資料などは、その都度配布します。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 基本的にIC-mailとIC-UNIPAを使用します。

履修生は、IC-mailの着信が直ちに分かるようにスマートフォンの設定をしてください。

IC-UNIPAによる連絡なども必ず読んでください。

- 留意事項：**
- ・限られた時間内で実施される博物館実習では、博物館の仕事の一端を垣間見るに過ぎません。学生自身もできるだけ多くのさまざまな博物館を見学するようにしましょう。
  - ・学芸員の仕事は対人関係が多く、信頼性やコミュニケーション能力が求められます。学生は知識や技術の修得のみならず、優れた識見と人格を有する全人的な向上に努める必要があります。
  - ・学芸員は生涯学習社会における社会教育指導者として、人々の多様な学習ニーズを把握し、学習活動を効果的に支援する必要があります。そして、博物館は地域住民やボランティアをはじめとする多くの人々に支えられています。これらの認識をしっかりと持つことが肝要です。
  - ・本学では、学芸員を志す者としてふさわしい学生を責任を持って実習先の博物館に送り出すことが求められる観点から、場合によっては実習に出さないという判断や実習の中止を含む対応もあり得ます。
  - ・「館園実習」「見学実習」については、その都度、交通費や観覧料、宿泊費などの自己負担が必要になります。
  - ・「実務実習」については、作業に適した服装を着用してください。なお、消耗品費などの自己負担が必要になる場合があります。

---

科目コード：50050      科目ナンバリング：      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：学校経営と学校図書館 a (School Library Management a)

担当者：勝山 万里子

#### 基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：ECWFM

関連資格：司書教

AL要素：01 図書館見学  
03 体験  
04 資料紹介実習  
11 討論  
16 振り返り用紙と応答  
17 発問と回答

**授業の概要：**【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

司書教諭資格に必要な5科目のうちの1科目で、総論として位置づけられ学校図書館の基本を学ぶ。学校図書館の役割と理念を教育の動向とともに捉える。学校経営の中での学校図書館の位置づけを理解し、活用出来る司書教諭としての知識と資質を育成する。

なお、実務経験を生かし、下記のように授業を行う。

- 1 学校図書館のあるべき姿は、体験から学ぶことが必要となるという経験から、附属高校の図書館を見学する(予定)
- 2 各講義における知識が、実際の活動に結びつくように、各学校での活用及び実践事例を示す。
- 3 理想とする学校図書館のあり方と、学生の活用経験の差を埋めるために、現状や問題点に関する討論、発問と回答を積極的に行う

**キーワード：** 学校図書館の理念 学校図書館の成立と改正 学校図書館法 学習指導要領 校務分掌 司書教諭 学校司書 協同 学校図書館の経営 学校図書館の環境 学校図書館メディア 学校図書館活動

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 学校図書館の基礎的な事項(理念、役割、施策等)を理解出来る。

**評価方法：** レポート

**評価割合：** 25

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 学校図書館の基本的な知識を、現実の学校図書館の活動に結びつけて考察出来る

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 25

### ▼学修に主体的に取り組む態度

各講義における授業の参加度(課題、発言、質問、毎回のコメントシートの提出)

**評価割合:** 50

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等がレポートの記述内容に認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害、差別発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 授業計画:基本的に下記のとおり進行するが、講義の進み具合、時事的な事例への対応等で順序やテーマの回数等を変える事がある。

- 第1回 オリエンテーション、学校教育の変遷と学校図書館
- 第2回 学校教育の変遷と学校図書館(学校図書館法の制定)
- 第3回 学校教育の変遷と学校図書館(キリスト中高図書館見学)
- 第4回 学校教育の変遷と学校図書館(学校図書館の現代化とその課題)
- 第5回 学校図書館の法と行政
- 第6回 学校の教育課程と学校図書館
- 第7回 学校図書館の経営(学校図書館経営について)
- 第8回 学校図書館の経営(担当者の役割と任務)
- 第9回 学校図書館の経営の実際
- 第10回 学校図書館の学習活動への支援(小・中事例)
- 第11回 学校図書館の学習活動への支援(高校・特別支援学校)
- 第12回 学校図書館の学習活動への支援(探究学習等支援演習)
- 第13回 学校図書館の学習活動への支援(探究学習等支援演習)
- 第14回 学校図書館の連携・協力と将来像
- 第15回 まとめ

**使用テキスト:** 公益社団法人全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会 『探究 学校図書館学 第1巻 学校経営と学校図書館』 悠光堂 2019年

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 参考資配付資料について復習すると共に、資料にない関連項目について自学学修を通じ知見を広めることが望ましい。新聞や雑誌等で学校図書館・読書・情報活用能力の育成に関する記事に興味を持ち、熟読すること。

参考資料として次の4点を推薦する。

- ・全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携:理論と実践』悠光堂 2021
- ・神代浩、中山美由紀編著『学校図書館の挑戦と可能性 困った時には図書館へ2』悠光堂 2015
- ・堀川輝代『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』悠光堂 2018
- ・堀川輝代『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 実践編』悠光堂 2019

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** 初回にお知らせします。

**留意事項:**

- ・普段から大学図書館や公共図書館を使い慣れておいて下さい。
- ・日頃から学校図書館に関しての情報に興味を持ち、知見を広げておいて下さい。
- ・教育実習に行く方は、その学校の学校図書館を見学しておいてください。司書教諭や学校司書の先生方からお話を伺うと良いでしょう。
- ・教育実習未履修者は、いろいろな学校の学校図書館のHPを探して読んでおいてください。特に「総合的な学習」で学校図書館を活用した事例を公表している学校の実例を調べておいてください。

---

**科目コード: 50050**      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語: 日本語**

**授業名(英文): 学校経営と学校図書館 b(School Library Management b)**

**担当者: 勝山 万里子**

#### 基本情報

**年次: 3**

**単位数: 2**

**授業形式: 講義**

**曜時: 木曜3限**

**履修可能学科・専攻: E C W F M**

**関連資格: 司書教**

**AL要素:** 01 図書館見学  
03 体験  
04 資料紹介実習  
11 討論  
16 振り返り用紙と応答  
17 発問と回答

**授業の概要:** 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)  
司書教諭資格に必要な5科目のうちの1科目で、総論として位置づけられ学校図書館の基本を学ぶ。学校図書館の役割と理念を教育の動向とともに捉える。学校経営の中での学校図書館の位置づけを理解し、活用出来る司書教諭としての知識と資質を育成する。

なお、実務経験を生かし、下記のように授業を行う。

- 1 学校図書館のあるべき姿は、体験から学ぶことが必要となるという経験から、附属高校の図書館を見学する(予定)
- 2 各講義における知識が、実際の活動に結びつくように、各学校での活用及び実践事例を示す。
- 3 理想とする学校図書館のあり方と、学生の活用経験の差を埋めるために、現状や問題点に関する討論、発問と回答を積極的に行う

**キーワード:** 学校図書館の理念 学校図書館の成立と改正 学校図書館法 学習指導要領 校務分掌 司書教諭 学校司書 協同 学校図書館の経営 学校図書館の環境 学校図書館メディア 学校図書館活動

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 学校図書館の基礎的な事項(理念、役割、施策等)を理解出来る。

**評価方法:** レポート

**評価割合: 25**

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 学校図書館の基本的な知識を、現実の学校図書館の活動に結びつけて考察出来る



評価方法: レポート

評価割合: 25

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

各講義における授業の参加度(課題、発言、質問、毎回のコメントシートの提出)

評価割合: 50

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等がレポートの記述内容に認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害、差別発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0

#### ▼その他

特になし

評価割合: 特になし

**授業計画:** 授業計画: 基本的に下記のとおり進行するが、講義の進み具合、時事的な事例への対応等で順序やテーマの回数等を変える事がある。

- 第1回 オリエンテーション、学校教育の変遷と学校図書館
- 第2回 学校教育の変遷と学校図書館(学校図書館法の制定)
- 第3回 学校教育の変遷と学校図書館(キリスト中高図書館見学)
- 第4回 学校教育の変遷と学校図書館(学校図書館の現代化とその課題)
- 第5回 学校図書館の法と行政
- 第6回 学校の教育課程と学校図書館
- 第7回 学校図書館の経営(学校図書館経営について)
- 第8回 学校図書館の経営(担当者の役割と任務)
- 第9回 学校図書館の経営の実際
- 第10回 学校図書館の学習活動への支援(小・中事例)
- 第11回 学校図書館の学習活動への支援(高校・特別支援学校)
- 第12回 学校図書館の学習活動への支援(探究学習等支援演習)
- 第13回 学校図書館の学習活動への支援(探究学習等支援演習)
- 第14回 学校図書館の連携・協力と将来像
- 第15回 まとめ

**使用テキスト:** 公益社団法人全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会 『探究 学校図書館学 第1巻 学校経営と学校図書館』 悠光堂 2019年

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 参考資料について復習すると共に、資料にない関連項目について自学学修を通じ知見を広めることが望ましい。新聞や雑誌等で学校図書館・読書・情報活用能力の育成に関する記事に興味を持ち、熟読すること。

参考資料として次の4点を推薦する。

- ・全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携:理論と実践』悠光堂 2021
- ・神代浩、中山美由紀編著『学校図書館の挑戦と可能性 困った時には図書館へ2』悠光堂 2015
- ・堀川輝代『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』悠光堂 2018
- ・堀川輝代『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 実践編』悠光堂 2019

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** 初回にお知らせします。

**留意事項：**

- ・普段から大学図書館や公共図書館を使い慣れておいて下さい。
- ・日頃から学校図書館に関しての情報に興味を持ち、知見を広げておいて下さい。
- ・教育実習に行く方は、その学校の学校図書館を見学しておいてください。司書教諭や学校司書の先生方からお話を伺うと良いでしょう。
- ・教育実習未履修者は、いろいろな学校の学校図書館のHPを探して読んでおいてください。特に「総合的な学習」で学校図書館を活用した事例を公表している学校の実例を調べておいてください。

---

---

**科目コード：50051**      **科目ナンバリング：**      **主な使用言語：日本語**

**授業名(英文)：学校図書館メディアの構成 a(School Library Media Development a)**

**担当者：村野井 均**

#### 基本情報

**年次：3**

**単位数：2**

**授業形式：講義**

**曜時：月曜5限**

**履修可能学科・専攻：ECWFM**

**関連資格：司書教**

**AL要素：**

01:図書館見学,02:司書模擬実践,03:資料検索実習,04:資料紹介実習,08:共同学修

**授業の概要：** 学校図書館メディアおよび専門職としての司書教諭を理解し、学校図書館メディアを用いた学校教育活動の支援に関する認識を深め、多様なメディアを扱い、レファレンスの実践的な知識と技術を学ぶ。  
講義だけではなく、図書館見学、検索実習や司書の役割演技、調べ学習と発表を組み合わせたアクティブラーニングを行う。

**キーワード：** 学校図書館、読書の役割、レファレンス、ロールプレイ、これからの学校図書館

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 学校図書館の教育上の意義と新しい役割について理解し、回答することができる。

**評価方法：** 小テスト、期末テスト

**評価割合：50%**

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 学校図書館司書として、読書への関心を高める環境を考え、依頼者へていねいで迅速な対応ができるようにする。  
本を読んで、内容を紹介したり、紹介するPOPを描くことができるようにする。  
学校図書館の未来について考え、表現できるようにする。

**評価方法：** 小テスト、期末テスト

**評価割合：50%**

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

図書館見学では、読書への関心を高める工夫、配置に気づくこと。また、一般閲覧者に迷惑をかけることなく行動すること。

司書の模擬実習において、資料検索依頼への対応や資料検索は、グループで行う。役割分担をし、スムーズに資料を探し、依頼人へていねいな対応をすること。

コンピュータを使った資料検索では、操作方法や資料アドレスを互いに教えあい、検索技術を向上させること。

上記は、直接的評価対象にできないが、学年末試験の記述に反映されている場合は、評価の対象とする

ことがある。

**評価割合：0%**

#### ▼実践的ボランティア

本に関心を持ち、図書館で借りて読むこと。特に、絵本や児童書のコーナーに行き、本に目を通してほしい。

図書館は新しい役割に挑戦している。各地の図書館を見学してほしい。

上記は、直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

#### ▼その他

授業は図書館やコンピューター室でも行うので、場所の連絡に注意すること。

**評価割合：授業は図書館やコンピューター室で**

- 授業計画：**
- 第1回 ガイダンス 子どもと学校図書館
  - 第2回 子どもの発達と読書
  - 第3回 教育改革と学校図書館
  - 第4回 学校図書館メディアの種類と特性
  - 第5回 検索の種類とアクセス支援
  - 第6回 検索の種類とアクセス支援実習
  - 第7回 目録 意義・機能、種別 日本目録規則(NCR)
  - 第8回 目録規則
  - 第9回 分類と件名 日本十進分類法(NDC)
  - 第10回 分類と件名
  - 第11回 図書館見学
  - 第12回 収集計画
  - 第13回 装備・排架
  - 第14回 特別支援と学校図書館
  - 第15回 教員支援と学校図書館
- 定期試験(小テスト2回、30点、本試験70点)

**使用テキスト：** 授業で使用する資料はすべて、ネット配信あるいは印刷・配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 業前に見学、実習部分を振り返り、修正する部分について考察すること。授業後は、配布資料について復習し、わからない部分は調べておくこと。

参考資料：

「学校図書館メディアの構成」, シリーズ学校図書館学, 第2巻, 2011, 「シリーズ学校図書館学」編集委員会(編集), 全国学校図書館協議会.

「学校図書館メディアの構成第2版」, 緑川信之, 学文社, 2008.

「100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集」, 福井県立図書館, 2021.

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** 初回にお知らせします。

**留意事項：** 特になし

---

科目コード：50051

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 学校図書館メディアの構成 b(School Library Media Development b)

担当者: 村野井 均

### 基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜4限

履修可能学科・専攻: E C W F M

関連資格: 司書教

AL要素:

01:図書館見学,02:司書模擬実践,03:資料検索実習,04:資料紹介実習,08:共同学修

**授業の概要:** 学校図書館メディアおよび専門職としての司書教諭を理解し、学校図書館メディアを用いた学校教育活動の支援に関する認識を深め、多様なメディアを扱い、レファレンスの実際的な知識と技術を学ぶ。  
講義だけではなく、図書館見学、検索実習や司書の役割演技、調べ学習と発表を組み合わせたアクティブラーニングを行う。

**キーワード:** 学校図書館、読書の役割、レファレンス、ロールプレイ、これからの学校図書館

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 学校図書館の教育上の意義と新しい役割について理解し、回答することができる。

**評価方法:** 小テスト、期末テスト

**評価割合:** 50%

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 学校図書館司書として、読書への関心を高める環境を考え、依頼者へていねいで迅速な対応ができるようにする。

本を読んで、内容を紹介したり、紹介するPOPを描くことができるようにする。

学校図書館の未来について考え、表現できるようにする。

**評価方法:** 小テスト、期末テスト

**評価割合:** 50%

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

図書館見学では、読書への関心を高める工夫、配置に気づくこと。また、一般閲覧者に迷惑をかけることなく行動すること。

司書の模擬実習において、資料検索依頼への対応や資料検索は、グループで行う。役割分担をし、スムーズに資料を探し、依頼人へていねいな対応をすること。

コンピュータを使った資料検索では、操作方法や資料アドレスを互いに教えあい、検索技術を向上させること。

上記は、直接的評価対象にできないが、学年末試験の記述に反映されている場合は、評価の対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

#### ▼ 実践的ボランティア

本に関心を持ち、図書館で借りて読むこと。特に、絵本や児童書のコーナーに行き、本に目を通しておいでほしい。

図書館は新しい役割に挑戦している。各地の図書館を見学してほしい。

上記は、直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

授業は図書館やコンピューター室でも行うので、場所の連絡に注意すること。

評価割合：授業は図書館やコンピューター室で

- 授業計画：
- 第1回 ガイダンス 子どもと学校図書館
  - 第2回 子どもの発達と読書
  - 第3回 教育改革と学校図書館
  - 第4回 学校図書館メディアの種類と特性
  - 第5回 検索の種類とアクセス支援
  - 第6回 検索の種類とアクセス支援実習
  - 第7回 目録 意義・機能、種別 日本目録規則(NCR)
  - 第8回 目録規則
  - 第9回 分類と件名 日本十進分類法(NDC)
  - 第10回 分類と件名
  - 第11回 図書館見学
  - 第12回 収集計画
  - 第13回 装備・排架
  - 第14回 特別支援と学校図書館
  - 第15回 教員支援と学校図書館
- 定期試験(小テスト2回、30点、本試験70点)

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて、ネット配信あるいは印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 業前に見学、実習部分を振り返り、修正する部分について考察すること。授業後は、配布資料について復習し、わからない部分は調べておくこと。

参考資料：

「学校図書館メディアの構成」, シリーズ学校図書館学, 第2巻, 2011, 「シリーズ学校図書館学」編集委員会(編集), 全国学校図書館協議会。

「学校図書館メディアの構成第2版」, 緑川信之, 学文社, 2008。

「100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集」, 福井県立図書館, 2021。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

---

科目コード：50052      科目ナンバリング：      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：学習指導と学校図書館 a (School Library Learning Guidance a)

担当者：勝山 万里子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：ECWFM

関連資格：司書教

AL要素：

03 実技 体験

07 発表

**授業の概要:** 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

本科目は、司書教諭科目の一つであり、学校図書館の3つの機能である「読書センター」「学習センター」「情報センター」のうちの「学習センター」「情報センター」としての機能の活用について学ぶ科目である。学校図書館は、「学習センター」として児童生徒に必要な情報や資料を提供し児童生徒の学びを広げ深め、「情報センター」として児童生徒の情報活用能力を育むことが求められている。新学習指導要領が全面実施され、校種を超えて探究的な学習に取り組むようになった。学校図書館が探究的な学習を支え、教育課程の展開に寄与するためには司書教諭として何をすればよいだらうか。司書教諭にとって必要な知識や技能を、講義や演習をとおして学ぶ。

**キーワード:** 情報活用能力 情報活用スキル 学習指導要領 課題設定 情報収集 情報の整理・分析 情報のまとめと表現 探究的な学習 総合的な学習の時間 総合的な探究の時間 レファレンス 学校図書館メディア

**学位授与方針との関係****▼ 知識・技能**

**到達目標:** ・学習指導における学校図書館の役割を理解する。  
・情報リテラシー育成における学校図書館の役割を理解する。  
・学習指導における学校司書・司書教諭の役割を理解する。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 15

**▼ 思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** ・学習指導、情報活用能力の育成における学校図書館の役割を理解し、具体的に計画することができる。

・学校図書館を活用する際に、学校司書・司書教諭の役割を理解し、計画することができる

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 15

**▼ 学修に主体的に取り組む態度**

各講義における授業の参加度(課題、発表、発言、質問、毎回のコメントシートの提出)

**評価割合:** 70

**▼ 実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等が発表やレポート等の内容に認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0

**▼ 公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害、差別発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0

**▼ その他**

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 授業計画：基本的に下記のとおり進行するが、講義の進み具合、時事的な事例への対応等で順序等を変える事がある。  
各回の講義構成は、前半は理論、後半は演習とする予定である。

- 第1回 第1章：現代の学校教育と学校図書館
- 第2回 第2章：教育課程の編成と学校図書館
- 第3回 第3章：学習指導要領と学校図書館
- 第4回 第4章：学校図書館における情報活用能力の育成
- 第5回 第5章：情報活用能力の育成と評価(1) 課題の設定
- 第6回 第6章：情報活用能力の育成と評価(2) 情報の収集
- 第7回 第7章：情報活用能力の育成と評価(3) 整理・分析
- 第8回 第8章：情報活用能力の育成と評価(4) まとめと表現
- 第9回 第9章：情報サービスと学校図書館
- 第10回 第10章：発達・情報ニーズに応じた学校図書館メディアの選択
- 第11回 第11章：学習指導を支える学校図書館メディアと環境の整備
- 第12回 第12章：教科等の学習指導の実際と学校図書館
- 第13回 第13章：総合的な学習・探究の時間と学校図書館
- 第14回 第14章：特別な教育的ニーズと学校図書館
- 第15回 第15章：司書教諭の役割と学習指導と学校図書館

**使用テキスト：** 公益社団法人全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会 『探究 学校図書館学 第3巻 学習指導と学校図書館』 悠光堂 2020年

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**

参考資料として下記を紹介する。

- ・鎌田和宏『入門 情報リテラシーを育てる授業づくり』少年写真新聞社、2016年
- ・塩谷京子『探究の過程におけるすぐ実践できる情報活用スキル55—単元シートを活用した授業づくり』ミネルヴァ書房 2019年
- ・全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携：理論と実践』悠光堂 2021
- ・堀川輝代『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』悠光堂 2018
- ・堀川輝代『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 実践編』悠光堂 2019
- ・雑誌「学校図書館」や「図書館雑誌」等で実例報告などを読んでおいてください。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** 初回にお知らせします。

**留意事項：**

- ・普段から大学図書館や公共図書館を使い慣れておいて下さい。
- ・日頃から学校図書館に関しての情報に興味を持ち、知見を広げておいて下さい。
- ・教育実習に行く方は、その学校の学校図書館を見学しておいてください。司書教諭や学校司書の先生方からお話を伺うと良いでしょう。
- ・教育実習未履修者は、いろいろな学校の学校図書館のHPを探して読んでおいてください。特に「総合的な学習」で学校図書館を活用した事例を公表している学校の実例を調べておいてください。

---

科目コード：50052

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：学習指導と学校図書館 b(School Library Learning Guidance b)

担当者：勝山 万里子

## 基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：ECWFM

関連資格：司書教

AL要素：

03 実技 体験

07 発表

10 資料調査課題

16 振り返り用紙と応答

**授業の概要：**【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

本科目は、司書教諭科目の一つであり、学校図書館の3つの機能である「読書センター」「学習センター」「情報センター」のうちの「学習センター」「情報センター」としての機能の活用について学ぶ科目である。学校図書館は、「学習センター」として児童生徒に必要な情報や資料を提供し児童生徒の学びを広げ深め、「情報センター」として児童生徒の情報活用能力を育むことが求められている。新学習指導要領が全面実施され、校種を超えて探究的な学習に取り組むようになった。学校図書館が探究的な学習を支え、教育課程の展開に寄与するためには司書教諭として何をすればよいだろうか。司書教諭にとって必要な知識や技能を、講義や演習をとおして学ぶ。

**キーワード：** 情報活用能力 情報活用スキル 学習指導要領 課題設定 情報収集 情報の整理・分析 情報のまとめと表現 探究的な学習 総合的な学習の時間 総合的な探究の時間 レファレンス 学校図書館メディア

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標：**・学習指導における学校図書館の役割を理解する。  
・情報リテラシー育成における学校図書館の役割を理解する。  
・学習指導における学校司書・司書教諭の役割を理解する。

**評価方法：**レポート

**評価割合：**15

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**・学習指導、情報活用能力の育成における学校図書館の役割を理解し、具体的に計画することができる。

・学校図書館を活用する際に、学校司書・司書教諭の役割を理解し、計画することができる

**評価方法：**レポート

**評価割合：**15

### ▼学修に主体的に取り組む態度

各講義における授業の参加度(課題、発表、発言、質問、毎回のコメントシートの提出)

**評価割合：**70

### ▼実践的ボランティア



直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等が発表やレポート等の内容に認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0**

**▼公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害、差別発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0**

**▼その他**

特になし

**評価割合：特になし**

**授業計画：** 授業計画:基本的に下記のとおり進行するが、講義の進み具合、時事的な事例への対応等で順序等を変える事がある。

各回の講義構成は、前半は理論、後半は演習とする予定である。

- 第1回 第1章:現代の学校教育と学校図書館
- 第2回 第2章:教育課程の編成と学校図書館
- 第3回 第3章:学習指導要領と学校図書館
- 第4回 第4章:学校図書館における情報活用能力の育成
- 第5回 第5章:情報活用能力の育成と評価(1)課題の設定
- 第6回 第6章:情報活用能力の育成と評価(2)情報の収集
- 第7回 第7章:情報活用能力の育成と評価(3)整理・分析
- 第8回 第8章:情報活用能力の育成と評価(4)まとめと表現
- 第9回 第9章:情報サービスと学校図書館
- 第10回 第10章:発達・情報ニーズに応じた学校図書館メディアの選択
- 第11回 第11章:学習指導を支える学校図書館メディアと環境の整備
- 第12回 第12章:教科等の学習指導の実際と学校図書館
- 第13回 第13章:総合的な学習・探究の時間と学校図書館
- 第14回 第14章:特別な教育的ニーズと学校図書館
- 第15回 第15章:司書教諭の役割と学習指導と学校図書館

**使用テキスト：** 公益社団法人全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会 『探究 学校図書館学 第3巻 学習指導と学校図書館』 悠光堂 2020年

**予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等：**

参考資料として下記を紹介する。

- ・鎌田和宏『入門 情報リテラシーを育てる授業づくり』少年写真新聞社、2016年
- ・塩谷京子『探究の過程におけるすぐ実践できる情報活用スキル55一単元シートを活用した授業づくり』ミネルヴァ書房 2019年
- ・全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携:理論と実践』悠光堂 2021
- ・堀川輝代『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』悠光堂 2018
- ・堀川輝代『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 実践編』悠光堂 2019
- ・雑誌「学校図書館」や「図書館雑誌」等で実例報告などを読んでおいてください。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** 初回にお知らせします。

**留意事項：** ・普段から大学図書館や公共図書館を使い慣れておいて下さい。

- ・日頃から学校図書館に関しての情報に興味を持ち、知見を広げておいて下さい。
- ・教育実習に行く方は、その学校の学校図書館を見学しておいてください。司書教諭や学校司書の先生方からお話を伺うと良いでしょう。
- ・教育実習未履修者は、いろいろな学校の学校図書館のHPを探して読んでおいてください。特に「総合的な学習」で学校図書館を活用した事例を公表している学校の実例を調べておいてください。

科目コード : 50053      科目ナンバリング :      主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 読書と豊かな人間性 a (Human Enrichment through Reading a)

担当者 : 勝山 万里子

#### 基本情報

年次 : 3

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 木曜4限

履修可能学科・専攻 : E C W F M

関連資格 : 司書教

AL要素 :

- 03 実技 体験
- 04 資料紹介実習
- 07 発表
  
- 11 討論
  
- 14 輪読活動
  
- 16 振り返り用紙と応答

**授業の概要 :** 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

司書教諭資格に必要な5科目のうちの1科目で、児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と読書方法の理解を図ることをねらいとした科目である。

司書教諭は、学校が組織的に読書指導に取り組むための中心的存在であり、日常的な読書支援や読書の習慣形成、発達段階における読書指導などが求められる。そのため、本科目では読書の意義及び今日的課題、及び発達段階における読書の指導方法について学ぶ。また、実務経験を生かし、一人一人が本に関する知識を広げ、本を紹介するスキルを身に付けるため、グループ討議や発表、レポート提出も活発に行う。

**キーワード :** 学校図書館の役割 読書センター 読書教育 読書の意義 学習指導要領 司書教諭 学校司書 読書調査  
読書環境 読書の技法

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標 :** 学校図書館における、児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法を理解できる。

**評価方法 :**

**評価割合 : 3030**

レポート

課題提出

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標 :** 学校図書館にける児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法を理解し、現実の学校図書館の活動に結びつけて考察し、実現出来る

**評価方法 :** 課題発表

**評価割合 : 30**

### ▼学修に主体的に取り組む態度

各講義における授業の参加度(発言、質問、毎回のコメントシートの提出)

評価割合:10

### ▼実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等がレポートや発表等の内容に認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害、差別発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合:0

### ▼その他

特になし

評価割合:特になし

**授業計画:** 授業計画:基本的に下記のとおり進行するが、講義の進み具合、時事的な事例への対応等で順序やテーマの回数等を変える事がある。講義構成は前半に理論、後半に演習を行う予定である。.

第1回 ガイダンス

第1章:読書の意義と目的

第2回 第2章:読書教育の系譜

第3章:読書指導と学校図書館

第3回 第4章:子どもの読書環境

第5章:発達段階に応じた読書指導

第4回 第6章:子どもの本の種類と提供

第5回 第7章:読書環境の整備

第6回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:読み聞かせ(予定)

第7回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:ビブリオバトル(予定)

第8回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:読書会、アニメーション(予定)

第9回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:ブックトーク(予定)

第10回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:リテラチャーサークル(予定)

第11回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:点検読書、その他(予定)

第12回 第9章:各教科等での読書指導

第13回 第10章:読書活動の実際(1)

第11章:読書活動の実際(2)

第14回 第12章:読書活動の推進と司書教諭・学校司書

第13章:個に応じた読書指導

第15回 第14章:地域社会との連携

**使用テキスト:** 公益社団法人全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会 『探究 学校図書館学 第4巻 読書と豊かな人間性』 悠光堂 2021年

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 参考資料は適宜授業内で紹介する。

ビブリオバトル、ブックトークなどの発表や課題のために、児童や YA 向けの本(絵本や児童文学を含める)に対する調査が必要になる。大学図書館、公共図書館の児童コーナーや YA コーナー、書店に行く機会を作ること。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** 初回にお知らせします。

**留意事項:**

- ・普段から大学図書館や公共図書館を使い慣れておいて下さい。
- ・日頃から学校図書館に関しての情報に興味を持ち、知見を広げておいて下さい。
- ・教育実習に行く方は、その学校の学校図書館を見学しておいてください。司書教諭や学校司書の先生方からお話を伺うと良いでしょう。
- ・教育実習未履修者は、いろいろな学校の学校図書館のHPを探して読んでおいてください。特に「総合的な学習」で学校図書館を活用した事例を公表している学校の実例を調べておいてください。

---

---

**科目コード:** 50053      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 読書と豊かな人間性 b(Human Enrichment through Reading b)

**担当者:** 勝山 万里子

#### 基本情報

**年次:** 3

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 木曜5限

**履修可能学科・専攻:** E C W F M

**関連資格:** 司書教

**AL要素:**

- 03 実技 体験
- 04 資料紹介実習
- 07 発表
  
- 11 討論
  
- 14 輪読活動
  
- 16 振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

司書教諭資格に必要な5科目のうちの1科目で、児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と読書方法の理解を図ることをねらいとした科目である。

司書教諭は、学校が組織的に読書指導に取り組むための中心的存在であり、日常的な読書支援や読書の習慣形成、発達段階における読書指導などが求められる。そのため、本科目では読書の意義及び今日的課題、及び発達段階における読書の指導方法について学ぶ。また、実務経験を生かし、一人一人が本に関する知識を広げ、本を紹介するスキルを身に付けるため、グループ討議や発表、レポート提出も活発に行う。

**キーワード:** 学校図書館の役割 読書センター 読書教育 読書の意義 学習指導要領 司書教諭 学校司書 読書調査  
読書環境 読書の技法

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 学校図書館における、児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法を理解できる。

**評価方法:**

**評価割合:** 3030

レポート

課題提出

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 学校図書館における児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法を理解し、現実の学

校図書館の活動に結びつけて考察し、実現出来る

**評価方法:** 課題発表

**評価割合:** 30

**▼学修に主体的に取り組む態度**

各講義における授業の参加度(発言、質問、毎回のコメントシートの提出)

**評価割合:** 10

**▼実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等がレポートや発表等の内容に認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0

**▼公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害、差別発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0

**▼その他**

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 授業計画:基本的に下記のとおり進行するが、講義の進み具合、時事的な事例への対応等で順序やテーマの回数等を変える事がある。講義構成は前半に理論、後半に演習を行う予定である。

第1回 ガイダンス

第1章:読書の意義と目的

第2回 第2章:読書教育の系譜

第3章:読書指導と学校図書館

第3回 第4章:子どもの読書環境

第5章:発達段階に応じた読書指導

第4回 第6章:子どもの本の種類と提供

第5回 第7章:読書環境の整備

第6回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:読み聞かせ(予定)

第7回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:ビブリオバトル(予定)

第8回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:読書会、アニメーション(予定)

第9回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:ブックトーク(予定)

第10回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:リテラチャーサークル(予定)

第11回 第8章:子どもと本を結ぶための方法:点検読書、その他(予定)

第12回 第9章:各教科等での読書指導

第13回 第10章:読書活動の実際(1)

第11章:読書活動の実際(2)

第14回 第12章:読書活動の推進と司書教諭・学校司書

第13章:個に応じた読書指導

第15回 第14章:地域社会との連携

**使用テキスト:** 公益社団法人全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会 『探究 学校図書館学 第4巻 読書と豊かな人間性』 悠光堂 2021年

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 参考資料は適宜授業内で紹介する。

ビブリオバトル、ブックトークなどの発表や課題のために、児童や YA 向けの本(絵本や児童文学を含める)に対する調査が必要になる。大学図書館、公共図書館の児童コーナーや YA コーナー、書店に行く機会を作ること。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** 初回にお知らせします。

**留意事項:**

- ・普段から大学図書館や公共図書館を使い慣れておいて下さい。
- ・日頃から学校図書館に関しての情報に興味を持ち、知見を広げておいて下さい。
- ・教育実習に行く方は、その学校の学校図書館を見学しておいてください。司書教諭や学校司書の先生方からお話を伺うと良いでしょう。
- ・教育実習未履修者は、いろいろな学校の学校図書館のHPを探して読んでおいてください。特に「総合的な学習」で学校図書館を活用した事例を公表している学校の実例を調べておいてください。

---

**科目コード:50054**      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:日本語**

**授業名(英文): 情報メディアの活用 a(School Library Information Technology a)**

**担当者: 村野井 均**

#### 基本情報

**年次:2**      **単位数:2**      **授業形式:講義**

**曜時:月曜5限**      **履修可能学科・専攻: E C W F M**

**関連資格: 司書教**      **AL要素: 07:発表, 11:討論, 13:説明実習**

**授業の概要:** オンライン授業・自宅学習教材の制作は教師の基礎能力となった。メディアは、児童・生徒がどの程度理解しているか理解した上で使用しなければならない。児童・生徒が思わぬところで映像を間違ふ姿を紹介する。

オンライン授業では、教師は画面に映し出される存在になる。教師が実物(立体)を見せようとしても、画面上では平面にしか見えない。児童・生徒には何が見えるのか注意しなければならない。注意点について述べる。

映像制作の実践も増えている。取り組みやすい実践であり、地域との協力は学校への信頼向上に有効であることを紹介する。

さまざまなメディアを使ってみて、取捨選択できる基礎力を身につけてることで、将来、学校の情報化に貢献できる教師になってほしい。

**キーワード:** 絵本の理解、アニメの理解、テレビの中の時制表現、オンライン授業の注意点、自宅学習教材作り、子どもの番組制作、教材ソフト

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 幼児・児童・生徒のメディア理解力を把握できる。  
映像制作と地域の協力について理解する。  
教材メディアを使う利点と配慮すべき点を理解する。

**評価方法:** 小テスト、感想文、期末試験      **評価割合: 50%**

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 映像の提示でも、教材ソフトの利用でも、映像制作でも、相手にわかるように文字と映像を工夫できるようにする。

**評価方法:** 提出作品ならびに期末試験      **評価割合: 50%**

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業作りが、番組作りに近づいている。教師は表に出ず、児童・生徒が調べてまとめたものを前に出て発表し、討論する形が求められているためである。教師は表には出ないが、計画し、誘導をしている。テレビのディレクターに近い存在になっているのである。テレビなどの番組をよく見て、作り方や構成、カメラ割などに注意すると授業に生かせるので、積極的に見てほしい。

**評価割合：0%**

#### ▼実践的ボランティア

オンライン授業や自宅学習用の動画では、自分がカメラに映る存在になる。みなさんはコロナの流行のもとで、オンライン授業を体験していると思うが、児童・生徒の立場で改善すべき点をしっかり覚えてほしい。

**評価割合：0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

#### ▼その他

特になし。

**評価割合：特になし。**

- 授業計画：**
- 第1回 ガイダンス 情報メディアの活用とは
  - 第2回 情報メディアセンターとしての図書館
  - 第3回 就学前児のメディア理解  
絵本から文字へ 読み聞かせの実際
  - 第4回 映像メディアの発展と明暗
  - 第5回 児童・生徒の情報理解能力 ①  
アニメ「サザエさん」のストーリー理解
  - 第6回 児童・生徒の情報理解能力 ②  
時制表現「さわやか3組」から「ドラゴンボール」へ
  - 第7回 オンライン授業の注意点 ①  
音量、音圧、光、背景などの注意、音と映像の組み合わせ
  - 第8回 オンライン授業の注意点 ②  
2次元と3次元の並立 目の前の実物も画面上では2次元になる
  - 第9回 CMの理解とストーリー理解
  - 第10回 学校における指示は明示から暗示へ
  - 第11回 暗示の効果(実習)
  - 第12回 児童・生徒の映像作品作りと放送  
学校と放送局が協力した「発信マイスクール」(NHK福井)の実践
  - 第13回 児童生徒の制作した作品鑑賞
  - 第14回 放送による学校や子どもの信頼感向上
  - 第15回 ネットに上げる権利と注意点  
定期試験(小テスト、感想文、作品各1回、計30点。本試験70点)

**使用テキスト：** 授業で使用する資料はすべて、ネット配信あるいは印刷・配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** シラバスを見て、授業に出る絵本、テレビ番組は授業前に見ておくこと。授業後に、児童向け番組を見て、児童・生徒にはどこが難しいか考えること。また、教材ソフトはすべてを授業時間内に扱えないので、授業後に基本的な操作を行い、どこがどのように便利か確認すること(90分)。

参考文献は、以下である。

『子どもはテレビをどう見るか』、村野井均、勁草書房、2500円

『もっかい読んで！ 絵本をおもしろがる子どもの心理』、田代康子、ひとなる書房、2200円

「幼児向け番組におけるテレビを3次元に見る手がかりの分析」、村野井均、藤井とし子、茨城大学教育実践研究 茨城大学教育学部附属教育実践総合センター 編 (35) 279 - 287  
2016年11月、[https://researchmap.jp/vae3125fuk/published\\_papers](https://researchmap.jp/vae3125fuk/published_papers)

「高学年児童の時制理解と映像の手がかりに関する研究－「ドラゴンボール」における時制表現の変化－」、村野井均 小林祐紀、茨城大学教育実践研究 (39) 199 - 207 2020年10月21日 <https://researchmap.jp/vae3125fuk>  
水戸市総合教育研究所. (2021). 6年理科『吸った空気の行方』、「配信動画一覧」、<http://www.magokoro.ed.jp/viewer/info.html?id=189>, (参照2022-2-15)

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 初回にお知らせします。

**留意事項:** 特になし

---

**科目コード:** 50054      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 情報メディアの活用 b (School Library Information Technology b)

**担当者:** 村野井 均

#### 基本情報

**年次:** 2

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 月曜4限

**履修可能学科・専攻:** E C W F M

**関連資格:** 司書教

**AL要素:** 07:発表, 11:討論, 13:説明実習

**授業の概要:** オンライン授業・自宅学習教材の制作は教師の基礎能力となった。メディアは、児童・生徒がどの程度理解しているか理解した上で使用しなければならない。児童・生徒が思わぬところで映像を間違え姿を紹介する。

オンライン授業では、教師は画面に映し出される存在になる。教師が実物(立体)を見せようとしても、画面上では平面にしか見えない。児童・生徒には何が見えるのか注意しなければならない。注意点について述べる。

映像制作の実践も増えている。取り組みやすい実践であり、地域との協力は学校への信頼向上に有効であることを紹介する。

さまざまなメディアを使ってみて、取捨選択できる基礎力を身につけてることで、将来、学校の情報化に貢献できる教師になってほしい。

**キーワード:** 絵本の理解、アニメの理解、テレビの中の時制表現、オンライン授業の注意点、自宅学習教材作り、子どもの番組制作、教材ソフト

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 幼児・児童・生徒のメディア理解力を把握できる。  
映像制作と地域の協力について理解する。  
教材メディアを使う利点と配慮すべき点を理解する。

**評価方法:** 小テスト、感想文、期末試験

**評価割合:** 50%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 映像の提示でも、教材ソフトの利用でも、映像制作でも、相手にわかるように文字と映像を工夫できるようにする。

**評価方法:** 提出作品ならびに期末試験

**評価割合:** 50%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度



授業作りが、番組作りに近づいている。教師は表に出ず、児童・生徒が調べてまとめたものを前に出て発表し、討論する形が求められているためである。教師は表には出ないが、計画し、誘導をしている。テレビのディレクターに近い存在になっているのである。テレビなどの番組をよく見て、作り方や構成、カメラ割などに注意すると授業に生かせるので、積極的に見てほしい。

**評価割合：0%**

#### ▼実践的ボランティア

オンライン授業や自宅学習用の動画では、自分がカメラに映る存在になる。みなさんはコロナの流行のもとで、オンライン授業を体験していると思うが、児童・生徒の立場で改善すべき点をしっかり覚えてほしい。

**評価割合：0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

#### ▼その他

特になし。

**評価割合：特になし。**

- 授業計画：**
- 第1回 ガイダンス 情報メディアの活用とは
  - 第2回 情報メディアセンターとしての図書館
  - 第3回 就学前児のメディア理解  
絵本から文字へ 読み聞かせの実際
  - 第4回 映像メディアの発展と明暗
  - 第5回 児童・生徒の情報理解能力 ①  
アニメ「サザエさん」のストーリー理解
  - 第6回 児童・生徒の情報理解能力 ②  
時制表現「さわやか3組」から「ドラゴンボール」へ
  - 第7回 オンライン授業の注意点 ①  
音量、音圧、光、背景などの注意、音と映像の組み合わせ
  - 第8回 オンライン授業の注意点 ②  
2次元と3次元の並立 目の前の実物も画面上では2次元になる
  - 第9回 CMの理解とストーリー理解
  - 第10回 学校における指示は明示から暗示へ
  - 第11回 暗示の効果(実習)
  - 第12回 児童・生徒の映像作品作りと放送  
学校と放送局が協力した「発信マイスクール」(NHK福井)の実践
  - 第13回 児童生徒の制作した作品鑑賞
  - 第14回 放送による学校や子どもの信頼感向上
  - 第15回 ネットに上げる権利と注意点  
定期試験(小テスト、感想文、作品各1回、計30点。本試験70点)

**使用テキスト：** 授業で使用する資料はすべて、ネット配信あるいは印刷・配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** シラバスを見て、授業に出る絵本、テレビ番組は授業前に見ておくこと。授業後に、児童向け番組を見て、児童・生徒にはどこが難しいか考えること。また、教材ソフトはすべてを授業時間内に扱えないので、授業後に基本的な操作を行い、どこがどのように便利か確認すること(90分)。

参考文献は、以下である。

『子どもはテレビをどう見るか』、村野井均、勁草書房、2500円

『もっかい読んで！ 絵本をおもしろがる子どもの心理』、田代康子、ひとなる書房、2200円

「幼児向け番組におけるテレビを3次元に見る手がかりの分析」、村野井均、藤井とし子、茨城大学教育実践研究 茨城大学教育学部附属教育実践総合センター 編 (35) 279 - 287  
2016年11月、[https://researchmap.jp/vae3125fuk/published\\_papers](https://researchmap.jp/vae3125fuk/published_papers)

「高学年児童の時制理解と映像の手がかりに関する研究－「ドラゴンボール」における時制表現の変化－」、村野井均 小林祐紀、茨城大学教育実践研究 (39) 199 - 207 2020年10月21日 <https://researchmap.jp/vae3125fuk>  
水戸市総合教育研究所. (2021). 6年理科『吸った空気の行方』、『配信動画一覧』、<http://www.magokoro.ed.jp/viewer/info.html?id=189>, (参照2022-2-15)

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 初回にお知らせします。

**留意事項:** 特になし

---

**科目コード:** 50055      **科目ナンバリング:** EX30C01K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 教育課程論(Curriculum Theory)

**担当者:** 小川 哲哉

#### 基本情報

**年次:** 3

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 集中講義

**履修可能学科・専攻:** E C W F N M

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 発問と回答及び討議活動

**授業の概要:** 教育課程に関する歴史の変遷を考察し、我が国の学習指導要領が果たしている教育的意味を明らかにする。さらに文教政策の動向と共に、教育課程のあり方が大きく変容してきた状況を理解し、学校教育改革の関係性を論究する。また教育課程が授業教育実践にどのような影響を及ぼしているのかを分析し、授業評価の教育的意味を明らかにする。

**キーワード:** 教育内容、教育課程、学習指導要領、経験主義的教育、系統主義的教育、PISA型学力、学習指導案、授業、教育評価、カリキュラム・マネジメント

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 教育課程の歴史の変遷を理解した上で、学習指導要領の改訂の意義について論究でき、授業実践に伴う教育課程の役割が分かる。そうした知見に基づいて教育課程論について、およそ80%の内容を理解し、説明することができる。

**評価方法:** 小テストと学期末の確認テスト

**評価割合:** 80%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で理解した学習内容について、自学自修による発展的なく学び>を通して論理的かつ客観的に自分の考えを主張し、表現することができる。

**評価方法:** 小テストと学期末の確認テスト

**評価割合:** 20%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

成績評価へ直接的に反映させることはないが、自学自修による発展的なく学び>で得られた成果が、小テストや学期末の確認テストに見いだせると判断できる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

成績評価へ直接的に反映させることはないが、自学自修による発展的なく学び>で得られた成果が、小テストや学期末の確認テストに見いだせると判断できる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 公正性

成績評価に直接的に反映させることはないが、授業中の言動、特に許可のない私語等や人権侵害に当たるような発言や態度、また小テストや学期末の確認テストの記述等に明らかに公正を欠く内容があった場合は、減点や嚴重注意の対象になることをご承知おき頂きたい。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画： 第1回 本講義の進め方  
第2回 教育課程の現代的意義(1)－教育課程とは何か－  
第3回 教育課程の現代的意義(2)－教育課程の思想的類型－  
第4回 近代日本の教育課程の歴史－戦前編－  
第5回 近代日本の教育課程の歴史－戦後編(学習指導要領の改訂)－  
第6回 教育課程の「理論＝実践」問題の新しい動き－PISA型学力の教育的意味  
第7回 教育課程の実際－授業の構造分析－  
第8回 授業実践の実際(1)－学習指導案の作成方法－  
第9回 授業実践の実際(2)－学習指導案の事例検討－  
第10回 授業の構造(1)－「導入」と「展開」の考察－  
第11回 授業の構造(2)－「まとめ」の分析－  
第12回 教育評価の問題(1)－授業評価、教育課程評価、学校評価の関係性－  
第13回 教育評価の問題(2)－教育評価の新しい動向－  
第14回 教育課程の現代的課題－アクティブ・ラーニングとカリキュラム・マネジメント  
第15回 総括的討論

使用テキスト： 田中耕治他著『新しい時代の教育課程 第4版』有斐閣アルマ、2018年。  
(講義の初日までには必ず購入しておくこと。授業では毎回使用する。)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事前に指示されたテキストの学習箇所は、授業前に予習しておく。授業後は、授業で学んだ内容を復習する。テキストや配布資料にない項目については自学自修することが望ましい。文部科学省『中学校学習指導要領』を参考書とする。

障がいのある履修者への対応： 十分な配慮をしたいので、学務部と相談して頂きたい。

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡手段を伝えてあるので、相談して頂きたい。

留意事項： 特になし。

---

科目コード：50056      科目ナンバリング：EX40C03J      主な使用言語：日本語  
授業名(英文)：栄養教育実習(事前事後指導1単位を含む)(Practicum in Nutrition Education (Including))  
担当者：西出 朱美、渡邊 光子、小野瀬 尋子

基本情報

年次：4      単位数：2      授業形式：実習  
曜時：前期(実習)、後期(実習)      履修可能学科・専攻：F  
関連資格：教職      AL要素：01.実地訓練  
07.発表  
15.レポート指導

授業の概要： 本実習では、栄養教諭の役割、職務について理解を深め、栄養教育に必要な資質の向上を図ることを目的とします。実際の学校教育現場(小・中学校)において、栄養教諭に係わる基礎的な資質と適性を身に付けるとともに、児童・生徒に対する食に関する授業研究、生徒指導、学校行事などを通して、栄養教育における実践的な指導力を養います。

キーワード： 栄養教諭、学校経営、公務分掌、個別的な相談指導、教科・特別活動における教育指導、食に関する指導の連携・調整

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標:** 学校教育現場において、児童・生徒に対する食に関する指導の実際を体験することにより、食のコーディネータである栄養教諭の役割についての理解を深め、その適性を得ることができる。

**評価方法:** 教育実習評価

**評価割合:** 50%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 実習内容について記録を整え、児童・生徒の食に関する指導や栄養教諭のあり方について、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。  
実習後の振り返りを通して、課題を明確にし、望ましい在り方を考えることができる。

**評価方法:** 実習履修簿レポート  
事後発表

**評価割合:** 30%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

教育実習に取り組むにあたり、必要な事前準備の取り組み状況を評価の対象とします。

**評価割合:** 20%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としません。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、実習中の言動等において著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 1. 事前・事後指導(ガイダンス5回程度実施)

事前指導では、教育実習の意義・目的、心構えなどを理解します。また実習に向けての事前学習・準備を行います。事後指導では、実習の反省、問題点の整理、今後の課題の明確化等を行ないます。

2. 教育実習期間(9～10月中の平日5日間)

3. 実習内容

(1)指導教諭等からの説明(学校経営、校務分掌の理解、服務等)

(2)児童・生徒への個別的な相談指導の実習

(3)児童・生徒への教科・特別活動等における教育指導の実習等

・学級活動及び給食の時間における食の指導の参観・補助

・教科等における教科担任と連携した指導の参観・補助

・児童生徒集会、委員会活動、クラブ活動における指導の参観・補助

・指導計画案、指導案の立案作成、教材研究 等

(4)食に関する指導の連携・調整の実習(校内における連携・調整、家庭・地域との連携・調整の参観、補助)

**使用テキスト:** 学校栄養指導論Ⅰ、学校栄養指導論Ⅱの授業で使用したテキスト、資料等を参考にしてください。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 事前準備が重要となりますので、計画を立て、余裕をもって取り組むようにしてください。また、関連教科の復習を十分行って臨むことが大切です。

実習後に提出となるレポート、実習ノートについては、後から有効活用できるようまとめ方を工夫し、記録の充実を心がけてください。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい

授業時間外の連絡手段： 研究室で対応します。

留意事項： 実習目的を十分理解し、学修の目標を持って積極的に臨むこと

---

科目コード：50059      科目ナンバリング：EX10C04K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：日本語教育概論(Overview of Teaching Japanese)

担当者：小林 久美子

#### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C

関連資格：日本語

AL要素：17 発問と回答

授業の概要：日本語教師を目指す人はどんな勉強をする必要があるか、広く紹介する。

キーワード：日本語教育、日本語教師、知識、日本語教育能力検定試験

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

到達目標：日本語教育で求められる最低限の知識を獲得する。

評価方法：中間テスト、期末テスト

評価割合：中間テスト30%、期末テスト30%

##### ▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で勉強したことを使って質問に答えられる。

評価方法：まとめのプリント

評価割合：30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業参加度として、授業に取り組む態度を成績に含める。

具体的には

- ・教師から質問された時に何らかの回答をしたか
- ・グループで話し合うよう指示された時、積極的に参加したか
- ・私語、居眠り、遅刻などをせず、授業に真剣に取り組んでいたか

などを中心に評価する。

評価割合：10%

##### ▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合：0%

##### ▼公正性

評価対象とはしない。ただしカンニングなど不正行為があった場合は何らかの罰則がある。

評価割合：0%

##### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 1. 日本語教育カリキュラムとこの授業の関係  
2. 音声学  
3. 文字  
4. 意味論  
5. 国文法

6. 日本語と心理
7. 今までのまとめ、中間テスト
8. 日本語文法
9. 日本語をどうやって教えるか1
10. 日本語をどうやって教えるか2
11. 社会言語学
12. 語用論
13. 第二言語習得研究
14. 異文化理解と異文化適応、異文化間教育
15. 総まとめ
16. 期末テスト

**使用テキスト:** プリントを配布する。

**予習・復習のポイントと** <予習>(毎日10分)

**参考文献・資料等:** 日常で使っている日本語を文法、音声、文字の観点から観察してみる。

<復習>(毎回40分)

授業で勉強したことを自分が使う日本語の中で確認してみる。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応する。学務部と要相談。

**授業時間外の連絡手段:** 学務部学務課に問い合わせる。

**留意事項:** 本授業は、日本語教育の最も基礎的な講義をするものなので、なるべく早い段階(学年)で履修することが望ましい。なお、本授業の単位を取得していないと、教育実習の授業に登録することができない。

**科目コード:** 50060

**科目ナンバリング:** EX10C05K

**主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 日本語と社会(Japanese and Society)

**担当者:** 山田 野絵

#### 基本情報

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 月曜3限

**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C

**関連資格:** 日本語

**AL要素:** 07発表

08協同学修

10資料調査課題

11討論

15レポート指導

**授業の概要:** 日本社会の現状を知り、外国につながる住民についての理解を深め、多文化共生社会において日本語教育が果たす役割について考える。また、多文化共生社会で必要となる「やさしい日本語」の理念を知り、身につける。

**キーワード:** 多文化共生 外国につながる住民 日本語教育 地域日本語教育 やさしい日本語 やさしい傾聴 やさしい日本語コミュニケーション

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 授業で扱った内容を十分に理解し、周りの人と協力して発表や課題に取り組むことができる。「やさしい日本語」の理念を理解し、身につける。

**評価方法:** 発表  
成果物作成  
レポート

**評価割合:** 発表またはレポート40% 成果物4

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:**「知識・技能」と合わせて評価する。

**評価方法:**「知識・技能」と合わせて評価する。

**評価割合:**「知識・技能」と合わせて評価する。

### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業参加態度として、授業に取り組む態度を評価に含める。主体性、協調性、責任感を持って課題に取り組むことが期待される。

**評価割合:**20%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:**0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、人権侵害、差別的発言、行為等、著しく公正性を欠く場合や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:**0%

### ▼その他

特になし

**評価割合:**特になし

- 授業計画:**
- 1) 授業の到達目標と概略
  - 2) 多文化共生ワークショップ1
  - 3) 講義「日本社会の現状とこれから」・討論
  - 4) 講義「外国につながる住民の現状1」・討論
  - 5) 多文化共生ワークショップ2
  - 6) 発表準備1「外国につながる住民について」
  - 7) 発表1「外国につながる住民について」
  - 8) 発表2「外国につながる住民について」
  - 9) 発表3「外国につながる住民について」・ふりかえり
  - 10) 講義「やさしい日本語コミュニケーションとは」
  - 11) 「やさしい日本語コミュニケーション」練習1
  - 12) 「やさしい日本語コミュニケーション」練習2
  - 13) 成果物作成、発表準備「やさしい日本語」
  - 14) 成果物作成、発表準備「やさしい日本語」
  - 15) 「やさしい日本語」成果物発表・ふりかえり

**使用テキスト:** 適宜、プリントを配布

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 予習・復習:グループ作業での授業外学習があるので、複数人で調整して進める必要がある。

参考文献:松尾慎編『多文化共生 人が変わる、社会を変える』凡人社、有田・志賀・渋谷編著望月優大『ふたつの日本「移民国家」の建前と現実』講談社、庵功雄『やさしい日本語—多文化共生社会へ』岩波書店、庵功雄編著『「やさしい日本語」表現事典』丸善出版、『多文化社会で多様性を考えるワークブック』研究社、荒川洋平『とりあえず日本語で もしも…あなたが外国人と「日本語で話す」としたら』スリーエーネットワーク

参考サイト:<やさしい日本語コミュニケーションいばらき

><https://yasanichico.wixsite.com/yasashiinhongo>

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 授業後の休み時間に対応します。また、授業初日に連絡先メールアドレスをお知らせします。

**留意事項:** 本科目は、毎回、不特定の人とペア、またはグループで話し合いをします。知らない人と話すことができない方には受講をお勧めしません。授業形態の変更等の状況や履修者数によっては、授業内容を変更する場合があります。

---

---

科目コード : 50061      科目ナンバリング : EX20C15K      主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 日本語と心理(Japanese and Psychology)

担当者 : 小林 久美子

#### 基本情報

年次 : 2

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 木曜4限

履修可能学科・専攻 : E Pe Pc C

関連資格 : 日本語

AL要素 : 17 発問と回答

**授業の概要 :** 日本語教育に活かせる心理学の知見、考え方を紹介する。また教員の実務経験の中から実例を紹介する。

**キーワード :** 日本語教育、認知心理学、留学生、記憶

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標 :** 日本語教育に使える心理学の知見、考え方を知る。

**評価方法 :** 中間テスト

**評価割合 :** 中間テスト35% 期末テスト35%

期末テスト

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標 :** 授業で勉強したことを使って考えることができる。

**評価方法 :** まとめのプリントおよびその他課題

**評価割合 :** 20%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業参加度として、授業に取り組む態度を成績に含める。

具体的には、

- ・教師から質問された時に、何らかの回答をしたか
- ・私語、居眠り、遅刻などをせず、授業に真剣に取り組んだか

などを中心に評価する。

**評価割合 :** 10%

##### ▼ 実践的ボランティア

評価対象とはしない。

**評価割合 :** 0%

##### ▼ 公正性

評価対象とはしない。ただしカンニングなど不正行為があった場合は、何らかの罰則がある。

**評価割合 :** 0%

##### ▼ その他

特になし。

**評価割合 :** 特になし。

**授業計画 :**

1. 授業の到達目標と概略
2. 行動主義心理学と認知心理学
3. 記憶の仕組み1
4. 記憶の仕組み2
5. 留学生の不満と問題
6. 留学生について知ろう



7. 今までのまとめ、中間テスト
8. 文章の理解
9. 文章の産出
10. 語彙の習得1
11. 語彙の習得2
12. 談話1
13. 談話2
14. 学習の仕組み
15. 今までのまとめ
16. 期末テスト

**使用テキスト:** プリントを使う。  
 第1回目のプリントは教室で配布する。  
 2回目以降のプリントは、授業日数日前にIC-UNIPAにアップロードするので、必要なら印刷して持参のこと。授業中のPCなどのデバイス使用も可。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** <予習>(毎回30分)  
 次回の授業のプリントを読み、どんなことを学習するのか考える。

<復習>(毎回30分)  
 勉強したことを振り返り、自分の言葉でノートにまとめる。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応する。学務部と要相談。

**授業時間外の連絡手段:** 学務部学務課へ問い合わせる。

**留意事項:** 特になし。

**科目コード:** 50062      **科目ナンバリング:** EX30C12J      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 日本語教育実習A(Practicum in Teaching Japanese A)

**担当者:** 中山 健一

**基本情報**

<b>年次:</b> 3	<b>単位数:</b> 2	<b>授業形式:</b> 実習
<b>曜時:</b> 前期(金曜5限)、後期(金曜5限)	<b>履修可能学科・専攻:</b> E Pe Pc C	
<b>関連資格:</b> 日本語	<b>AL要素:</b> 01実地訓練 02模擬実践 07発表 08協働学修 10資料調査課題 11討論 17発問と回答	

**授業の概要:** 【重要】

コロナウイルス感染拡大状況によっては、実習内容、実習先、実習期間を大幅に変更することがある。

毎回の授業では、日本語教育実習を行うための基礎知識を学ぶとともに、実習学生による実習報告と学内実習(下記の「1」)の準備、マイクロティーチングなどを行っていく。

実習生は、毎週の授業に出席することと並行して、原則として毎週、実習を行う。

実習は、次の実習先から複数を選び、実施する(一人がすべての実習先で実習するわけではない)。

1. 学内で実施される「IC地域日本語教室」
2. 県内の民間日本語学校
3. 県内の地域日本語脅威室

#### 4. インドネシア リアウ大学(夏季休暇中に実施)

実習生には、次の3点を求める。

- (1)実習学生は、実際の教育現場に入り、教師や支援者として学習者に接することになる。その自覚と責任をもち、授業担当教員および実習先の日本語教員とのやりとりを密に適切に行うこと。
- (2)実習先で実習を行った際には、毎回報告書を授業担当教員に提出すること。また、報告書に加え、授業で学んだこと、自分で調べたこと、教案、その他資料を1つのファイルにまとめること。
- (3)授業では、他の実習学生の報告やマイクロティーチングに対して積極的にコメントをすること。

**キーワード:** 日本語教員 教育実習 授業運営 学習支援 気づき 振り返り

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 日本語教育実習を行うための基礎知識と、授業の仕方、学習者との適切なコミュニケーション方法を身につける。

**評価方法:** 実習先での実習の実施状況、授業での実習報告、マイクロティーチング、授業への貢献による評価。 **評価割合: 50%**

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 自律した日本語教師として教壇に立てる実力を身につける。具体的には、次の2つである。  
(1)学習者のレディネス、ニーズに合わせた授業計画・教案の作成→実践→ふりかえり・改善までのサイクルを行うことができる。  
(2)他の教員とのコミュニケーションを適切に行い、他の教員と協働で日本語教育を行うことができる。

**評価方法:** 実習先での実習の実施状況、授業での実習報告、マイクロティーチング、授業への貢献による評価。 **評価割合: 50%**

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

大前提であるため、評価割合には含めない。当然ながら、学修に主体的に取り組む態度がなければ単位の取得は極めて困難である。

**評価割合: 0%**

##### ▼ 実践的ボランティア

大前提であるため評価割合には含めない。実習先で学習者を支援する際、自発的に協力する姿勢・態度は必ず求められる。

**評価割合: 0%**

##### ▼ 公正性

大前提であるため評価割合には含めない。実習先で学習者を支援する際、学習者・実習先の指導者など他者に誠意をもって接することは必ず求められる。また、様々な背景や考えをもった人たちを受け入れる寛容さは必須である。

**評価割合: 0%**

##### ▼ その他

なし

**評価割合: なし**

#### 授業計画: 【前期】

1. 授業概要説明
2. 実習前に(1)日本語(初級)授業の流れ

3. 実習前に(2) 実習先の詳細説明
4. 実習前に(3) 学習者との適切なコミュニケーション
5. 実習前に(4) 授業記録の書き方、教案の作り方
6. 実習前に(5) 教材・教具について
7. 学外実習報告、および、学内実習の準備 (1)
8. 学外実習報告、および、学内実習の準備 (2)
9. 学外実習報告、および、学内実習の準備 (3)
10. 学外実習報告、および、学内実習の準備 (4)
11. 学外実習報告、および、学内実習の準備 (5)
12. 学外実習報告、および、学内実習の準備 (6)
13. 学外実習報告、および、学内実習の準備 (7)
14. 学外実習報告、および、学内実習の準備 (8)
15. 総括

#### 【後期】

1. 後期授業概要説明
2. 授業をするために(1) 日本語(初級)授業のしかた
3. 授業をするために(2) 授業準備・実施・ふりかえりの方法
4. マイクロティーチング (1) + 学内実習の準備(9)
5. マイクロティーチング (2) + 学内実習の準備(10)
6. マイクロティーチング (3) + 学内実習の準備(11)
7. マイクロティーチング (4) + 学内実習の準備(12)
8. マイクロティーチング (5) + 学内実習の準備(13)
9. マイクロティーチング (6) + 学内実習の準備(14)
10. マイクロティーチング (7) + 学内実習の準備(15)
11. マイクロティーチング (8) + 学内実習の準備(16)
12. 実習ふりかえり報告(1)
13. 実習ふりかえり報告(2)
14. 実習ふりかえり報告(3)
15. 総括

**使用テキスト：** 次の4点を、全員かならず購入のこと。

『みんなの日本語 初級1 本冊 第2版』 2500円＋税

『みんなの日本語 初級2 本冊 第2版』 2500円＋税

『みんなの日本語 初級1 教え方の手引き 第2版』 2800円＋税

『みんなの日本語 初級2 教え方の手引き 第2版』 2800円＋税

すべてスリーエーネットワーク刊。なお、「初版」ではなく「第2版」を購入すること。

**予習・復習のポイントと** 上記「授業の概要」の(1)～(3)。

**参考文献・資料等：** 実習先での実習と授業でのマイクロティーチングのための、周到な準備。その他、実習に必要な準備学習。

**障がいのある履修者への対応：** 申し出があれば対応する。事前に学務部に相談すること。

**授業時間外の連絡手段：** メールにて連絡すること。  
nakayama[at]jicc.ac.jp [at]→@

#### 留意事項：【重要】

- ・本授業履修希望者は年度初めのオリエンテーションに必ず参加すること。
- ・やむを得ない理由により参加できない場合は、事前に授業担当教員に連絡すること。
- ・本授業を履修するためには、前年度までに「履修要覧」に記載された科目を修得していなければならない。
- ・加えて、前年度まで、または、本授業履修と同時に「日本語の構造B」を履修すること。
- ・本授業履修希望者に対し、複数の教員による面接を実施する。面接で、学外の実習先に派遣ができるくらいの知識・資質・意欲があるかどうか審査し、審査をパスした者のみ、本授業の履修が許可される。

科目コード : 50063      科目ナンバリング :      主な使用言語 : 日本語  
授業名(英文) : 日本語学各論A(音声) (Linguistic Study of Japanese A (Phonetics))  
担当者 : 小林 久美子

#### 基本情報

年次 : 1      単位数 : 2      授業形式 : 講義  
曜時 : 木曜2限      履修可能学科・専攻 : E Pe Pc C  
関連資格 : 日本語      AL要素 : 08 協同学修  
09 実地調査  
11 討論

**授業の概要 :** 日本語の音声の特徴や、音声の効果的な教え方について説明する。また日本語の音声に関するアンケート調査を行う。

**キーワード :** 日本語教育、音声

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標 :** 音声記号を書いたり読んだりできる。

**評価方法 :** レポート

**評価割合 :** 40%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標 :** 音声に関する課題を適切に行うことができる。

**評価方法 :** レポート

**評価割合 :** 50%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業参加度として、授業に取り組む態度を成績に含める。

具体的には、

- ・教師から質問された時に、何らかの回答をしたか
- ・クラスメートと協力しあってアンケート調査を行ったか
- ・私語、居眠り、遅刻などせずに、授業に真剣に取り組んだか

などを中心に評価する。

**評価割合 :** 10%

##### ▼ 実践的ボランティア

評価対象とはしない。

**評価割合 :** 0%

##### ▼ 公正性

特になし。

**評価割合 :** 0%

##### ▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 1 音声学とは
  - 2 かな
  - 3 話し言葉の語形
  - 4 母語の干渉、国際音声記号
  - 5 国際音声記号を覚えよう
  - 6 アクセント、イントネーション
  - 7 母音・子音
  - 8 アンケート調査立案
  - 9 アンケート調査用紙作成
  - 10 アンケート調査用紙作成2
  - 11 アンケート調査まとめ
  - 12 アンケート調査まとめ2
  - 13 日本語教育能力検定試験 音声問題に挑戦！
  - 14 日本語の音声を教える
  - 15 まとめ

使用テキスト： 松崎寛ほか『日本語教育 よくわかる音声』アルク

予習・復習のポイントと <予習> (毎回20分)

参考文献・資料等： 教科書(次回授業で学習するところ)を読む。疑問をまとめる。

<復習> (毎回40分)

音声記号を覚える。

勉強したことを実生活の中で確認してみる。

教科書の練習問題をやってみる。

障がいのある 可能な限り対応する。学務部と要相談。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部学務課に問い合わせる。

留意事項： 特になし。

---

---

科目コード：50064                      科目ナンバリング：                      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：日本語学各論B(文字)(Linguistic Study of Japanese B (Writing))

担当者： 染谷 智幸

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C

関連資格：日本語

AL要素：講義・発表・討論

授業の概要： 日本語の文字・表記について考える。日本語教育能力検定試験の対策を見すえながら、文字・表記の問題を世界の言語を視野に入れながら考えてゆくことにする。世界の言語表記のあり方から見て、日本語がいかに豊かな表現方法を獲得しているか、そのユニークさはどこから来ているのかを考える。

キーワード： 日本語、言語学、文字表記

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 自らが高上げた文献について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： レポート

評価割合：50%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 自らが取り上げた文献について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法:** レポート

**評価割合:** 50%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等がレポート等により認められる場合は、評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

とくになし

**評価割合:** とくになし

- 授業計画:**
- 1 授業概要の説明
  - 2 文字・表記とは何か
  - 3 日本語教育の中での文字・表記
  - 4 世界の言語と文字表記(学生の発表)(1)
  - 5 世界の言語と文字表記(学生の発表)(2)
  - 6 世界の言語と文字表記(学生の発表)(3)
  - 7 世界の言語と文字表記(学生の発表)(4)
  - 8 日本語の文字・表記の特異性
  - 9 日本語の文字・表記の歴史(1)
  - 10 日本語の文字・表記の歴史(2)
  - 11 日本語の文字・表記の歴史(3)
  - 12 日本語教育能力試験で求められるもの(1)
  - 13 日本語教育能力試験で求められるもの(2)
  - 14 まとめと討論(1)
  - 15 まとめと討論(2)

**使用テキスト:** とくになし

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 日本語関係の資料をよく読んでおくこと。授業中に指示します。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** とくになし

---

**科目コード:** 50065

**科目ナンバリング:** EX21C05K

**主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 日本語の構造A(Structure of Japanese A)

**担当者:** 小林 久美子

### 基本情報

**年次:** 2

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 木曜3限

**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C

**関連資格：**日本語

**AL要素：**17.発問と回答

**授業の概要：**・日頃私たちが意識せずに使用している日本語文法を分析する。  
・教員の実務経験から得た「学習者にわかりやすい説明」「学習者が間違いやすい文法」について説明する。

**キーワード：**日本語教育文法、基礎項目

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：**・初級で教える日本語文法がどんなものであるかを知る。  
・初級文法の基礎がわかる。

**評価方法：**小テスト3回

**評価割合：**60%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**初級文法をどう教えるかがわかる。

**評価方法：**教え方をまとめた自作ノート

**評価割合：**30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業参加度として、授業に取り組む態度を成績に含める。

具体的には、

- ・教師から質問された時に何らかの回答をしたか
- ・私語、居眠り、遅刻などをせず、授業に真剣に取り組んでいたか

などを中心に評価する。

**評価割合：**10%

##### ▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

**評価割合：**0%

##### ▼公正性

評価対象とはしない。ただしカンニングなど不正行為があった場合は何らかの罰則がある。

**評価割合：**0%

##### ▼その他

特になし。

**評価割合：**特になし。

**授業計画：**

- 1回目 名詞と動詞
- 2回目 形容詞、動詞のテ形
- 3回目 指示詞、助詞
- 4回目 自動詞・他動詞
- 5回目 小テスト1、アスペクト
- 6回目 アスペクト
- 7回目 ヴォイス(受け身文)
- 8回目 ヴォイス(受け身文)
- 9回目 小テスト2 ヴォイス(使役文)
- 10回目 ヴォイス(使役文)
- 11回目 テンス
- 12回目 テンス

- 13回目 敬語
- 14回目 小テスト3、敬語
- 15回目 まとめ

**使用テキスト:** プリントを配布する。

**予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等:** <予習>(毎日20分)  
普段自分が使っている日本語を観察する。

- <復習>(毎回40分)
  - ・授業で習った文法、文法の教え方を確認する。
  - ・習った文法を使った短文をいくつか作ってみる。

**障がいのある  
履修者への対応:** 可能な限り対応する。学務部と要相談。

**授業時間外の連絡手段:** 学務部学務課へ問い合わせる。

**留意事項:** 特になし。

**科目コード:** 50066      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 日本語の構造B(Structure of Japanese B)

**担当者:** 中山 健一

**基本情報**

<b>年次:</b> 2	<b>単位数:</b> 2	<b>授業形式:</b> 講義
<b>曜時:</b> 火曜1限		<b>履修可能学科・専攻:</b> E Pe Pc C
<b>関連資格:</b> 日本語		<b>AL要素:</b> 07発表 10資料調査課題 11討論

**授業の概要:** 「みんなの日本語 初級1」(スリーエーネットワーク)を素材として、構造シラバスにもとづく総合日本語初級教科書を使っての文型導入と練習の方法を学ぶ。

**キーワード:** 初級日本語 構造シラバス 文型 導入 練習

**学位授与方針との関係**

**▼知識・技能**

**到達目標:** 総合日本語初級教科書「みんなの日本語 初級1」の文型(文法項目)を理解し、適切な文型導入と練習ができるようになる。

**評価方法:** 発表、レポート、授業への貢献      **評価割合:** 80%

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 日本語文法の法則や、学習者の間違いやすい点などに気づけるようになる。

**評価方法:** 発表、レポート、授業への貢献      **評価割合:** 20%

**▼学修に主体的に取り組む態度**

大前提であるため、評価割合には含めない。当然ながら、学修に主体的に取り組む態度がなければ単位の取得は極めて困難である。

各自、文型について不明な点、さらに詳しく知りたい点を参考書等で調べることもとめられる。

授業においては、疑問点やアイデアを積極的に述べることもとめられる。

**評価割合:** 0%

**▼実践的ボランティア**

もとめない。



評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象にしないが、不正行為があった場合は規則にのっとり厳正に対処する。

評価割合：0%

▼その他

なし

評価割合：なし

- 授業計画： 1 構造シラバスにもとづく授業の方法  
2 「みんなの日本語」とはどのような教科書か  
3 「みんなの日本語」各課分析 第1課・第2課  
4 「みんなの日本語」各課分析 第3課・第4課  
5 「みんなの日本語」各課分析 第5課・第6課  
6 「みんなの日本語」各課分析 第7課・第8課  
7 「みんなの日本語」各課分析 第9課・第10課  
8 「みんなの日本語」各課分析 第11課・第12課  
9 「みんなの日本語」各課分析 第13課・第14課  
10 「みんなの日本語」各課分析 第15課・第16課  
11 「みんなの日本語」各課分析 第17課・第18課  
12 「みんなの日本語」各課分析 第19課・第20課  
13 「みんなの日本語」各課分析 第21課・第22課  
14 「みんなの日本語」各課分析 第23課・第24課  
15 「みんなの日本語」各課分析 第25課・総括

使用テキスト： 次の2点を、全員かならず購入のこと。

『みんなの日本語 初級1 本冊 第2版』 2500円＋税

『みんなの日本語 初級1 教え方の手引き 第2版』 2800円＋税

いずれもスリーエーネットワーク刊。なお、「初版」ではなく「第2版」を購入すること。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 「みんなの日本語 初級1」の本冊と教え方の手引きは、内容が完全に頭に入るまで繰り返し熟読すること。  
授業の「各課分析」は、受講生が教科書の各課を分担し発表する。発表準備は十分に時間をかけて綿密に行なうこと。

障がいのある履修者への対応： 申し出があれば対応する。事前に学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： メールにて連絡すること。  
nakayama[at]icc.ac.jp [at]→@

留意事項： 日本語教員資格「主専攻」の学生は、「日本語教育実習A」履修の前または履修と同時に、本授業を履修すること。

---

科目コード：50067      科目ナンバリング：EX20C16K      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：日本語の歴史(History of the Japanese Language)

担当者：堀口 悟

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C

関連資格：日本語

AL要素：15レポート指導  
16振り返り用紙と応答

授業の概要： 日本語を通史的に扱います。日本語教育能力検定試験のための授業を兼ねます。

**キーワード：** 日本語、語史、日本語教育能力検定試験

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標：** 現代日本語を、日本語史の中に位置づけて相対的に見うる力を養う。

**評価方法：** 授業中の小テストと期末試験による。 **評価割合：** 45%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 日本語教育能力検定試験合格のための、思考力・判断力・表現力を持つ。

**評価方法：** 授業中の小テストと期末試験による。 **評価割合：** 45%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加、授業中の応答などで評価する。

**評価割合：** 10%

### ▼実践的ボランティア

評価項目としては特立しないが、認定しうる事象が生じた場合は、「学修に取り組む態度」の評価に加味する。

**評価割合：** 0%

### ▼公正性

加算項目とはしないが、公正性を欠く行為があった場合は、「学修に取り組む態度」の項目から減点する。

**評価割合：** 0%

### ▼その他

遅刻は「学修に取り組む態度」の項目から減点する。

**評価割合：** 遅刻は「学修に取り組む態度」の項

- 授業計画：**
- 第1回 授業説明と初めの1歩—日本語教育のための日本語の歴史
  - 第2回 日本語の文字と発音・日本語史の時代区分—「私ワ」と発音するのに、なぜ「私は」と書くの？
  - 第3回 五十音図と日本語の歴史—外国人に「あ・い・う・え・お」を教えるために—
  - 第4回 漢字との出会い①—香木に刻まれたパフラヴィー文字とソグト文字を起点として—
  - 第5回 漢字との出会い②—万葉仮名は崩し字ではない
  - 第6回 ひらがな・カタカナの誕生①—ひらがなとカタカナ、どちらが先？
  - 第7回 ひらがな・カタカナの誕生②—五十音図といろは歌
  - 第8回 敬語の洗練—王朝貴族達が築いた優雅な伝統—
  - 第9回 変わりゆく古代語(古代後期から中世へ)—平安時代に起こる言葉の大変革—
  - 第10回 近世語の成立—都言葉と武士言葉—
  - 第11回 都言葉と方言—地域方言について考える—
  - 第12回 近代語の成立—江戸時代の言葉とその変遷—
  - 第13回 現代語の成立—明治時代の大改革と日本語—
  - 第14回 日本語教育の歴史—“外国語としての日本語”—
  - 第15回 日本語の歴史から見る現代日本語—「ら抜き」言葉とコンビニ敬語—
  - 第16回 期末試験

**使用テキスト：** 特になし

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 日本語教育能力検定試験合格を目指す方は、この授業だけでは不足である。授業初回で指示する参考文献を各自できるだけ多く自習すること。

#### 【参考文献】

真田信治『(日本語教育能力検定試験に合格するための)日本語の歴史30』アルク、2009年。

**障がいのある履修者への対応：** できる限り対応する。

**授業時間外の連絡手段：** ICメールによって24時間受付、近日中に回答する。堀口のメールアドレスは、初回の授業の時公開する。

**留意事項：** リモート授業等に関して

リモート授業やハイブリッド授業でのリモート受講の際、画面上の「顔出し」は必須である。特に、ハイブリッド授業では、面接授業受講者との平等をはかるためにも、「顔出し」がなければ出席とは認めない(マスク着用や背景のぼかしは認める)。

科目コード：50069

科目ナンバリング：EX40C05J

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：養護実習(事前事後指導1単位を含む)(School Health Nursing Practicum (Including 1

担当者：松永 恵

#### 基本情報

年次：4

単位数：5

授業形式：実習

曜時：前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻：N

関連資格：教職

AL要素：01実地訓練

02模擬実践07発表

08協同学修

13役割演技と疑似体験

**授業の概要：** 大学で学んだことをもとに、実習校で体験と理論を関係づけ、児童生徒や教員、学校組織への理解を深める。実習校の養護教諭・教諭・管理職の一見何気なくみえる行為を細やかに観察し、教育的な意図に気づいてほしい。さらに自己の課題を明らかにし、「組織の中で『学び続ける教師』」に成長することを願う。

事前には実習生としての心構えから実務までを復習する。事後には到達目標にのっとり、体験や考えを発表し、お互いの体験を共有する。

**キーワード：** 保健管理、保健教育、健康相談、組織活動、保健室経営、実習、養護

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

- 到達目標：**
- 1 実習校で体験する学校保健活動や養護教諭の職務を、大学で学んだ理論を正確に引用し説明できる。
  - 2 実習校で1日、保健室を経営できる。

**評価方法：** 履修簿、実習校からの評価表、発表、最終レポート

**評価割合：** 20%

##### ▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標：**
- 3 児童生徒の健康状態や課題について、実習体験を例示しながら説明できる(児童生徒理解)。
  - 4 児童生徒の健康課題に対し、実習生が個別的、組織的に対応したことを、対応時の思考と共に説明できる(養護実践)。
  - 5 前項について、児童生徒の反応や養護教諭の取り組みをもとに自己を分析することができる(研究的養護実践)。
  - 6 連携が必要な場面を判断できる。
  - 7 よりよい養護をめざし、今後の課題を説明できる。

**評価方法：** 履修簿、実習校からの評価表、発表、最終レポート

**評価割合：** 60%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

実習校からの情報をもとに評価する。

**評価割合：10%**

**▼実践的ボランティア**

実習校からの情報をもとに評価する。

**評価割合：10%**

**▼公正性**

評価対象にしないが、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合には厳重注意する。

**評価割合：0%**

**▼その他**

なし。

**評価割合：なし。**

**授業計画： 《事前指導》**

第1回 事前指導(健康診断の計画と実施～身体計測・視力聴力検査・内科健診・歯科健診)

第2回 事前指導(養護実習の意義と心得、体育・特別活動学習指導要領)

第3回 事前指導(包帯法の確認、応急処置のロールプレイング/外科的事例)

第4回 事前指導(応急処置のロールプレイング/内科的事例)

第5回 事前指導(模擬授業)(外部講師)

第6回 事前指導(1日保健室経営、礼状作成にあたって)

《実習》 6月、または9月

日立市内協力校、学園中高等学校、出身校における養護実習

《事後指導》

第7回 事後指導(報告・反省と今後の課題について①6月実習生)

第8回 事後指導(報告・反省と今後の課題について②9月実習生)

**使用テキスト：【新規に用意するもの】**

東京書籍「あたらしいほけん3.4」・・・他のテキストより入荷が遅いので注意する。

文部科学省「学習指導要領 小学校 体育」

同「学習指導要領 中学校 保健体育」

同「学習指導要領 小学校 特別活動」

同「学習指導要領 中学校 特別活動」

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 特別活動 小学校編」

[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu\\_j.pdf](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_j.pdf)

**【昨年まで使用した資料】**

采女智津江「新養護概説」ぎょうせいほか、昨年養護概説で使用した資料

加藤啓一「いざというときのための応急手当ミニハンドブック」少年写真新聞社

茨城県教育委員会「四訂版 学校保健学校安全管理の手引き」hpからダウンロードしたもの

日本学校保健会「児童生徒等の健康診断マニュアル平成27年度改訂」(心臓病、腎臓病含む)

<http://www.gakkohoken.jp/books/archives/187>

**予習・復習のポイントと【予習・復習のポイント】**

**参考文献・資料等：**

＜実習前＞

○履修簿を受け取ったら、書かれている事前学習課題を参考に、大学で学んだことを整理しておく。

実習前指導前には、毎回示されるテーマについて、テキストに書かれていることを思い出ししておく。

○図書館にある資料を参考に、模擬授業に使用する指導案を作成する。

○実習校との事前打ち合わせが終わったら、「復命書」に内容を整理し、To-doリストを作成し、漏れがないよう準備して実習に臨む。

- 具体的な実習内容については、以下の参考文献を読むとイメージしやすい。  
大谷尚子・中桐佐智子編著「養護実習ハンドブック」東山書房 2015年  
尾花美恵子ほか「養護教諭のための教育実習マニュアル第4版」少年写真新聞社 2009  
<実習中>
- 毎日学んだことを振り返り、履修簿に整理する。理解があいまいなことに気づいたら、テキスト他文献を開き、正確に記述する。
- 退勤時には明日の予定を確認し、わからないことを調べておく。  
<実習後>
- 履修簿を再度振り返り、整理し、自分の考えをまとめる。
- 実習で学んだことを、他者が理解しやすいような形で説明できるよう工夫する。

【参考HP】・・・前年度「養護概説」で示したもの  
文部科学省「学校歯科保健参考資料「生きる力」をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり」第2章  
{[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1306937.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1306937.htm)}

【参考書】  
小児看護学で使用してきたテキスト  
津島ひろ江「学校における養護活動の展開」ふくろう出版、2016年  
岡田加奈子ほか「養護教諭のための現代の教育ニーズに対応した養護学概論」東山書房、2016年  
森田光子「養護教諭の健康相談ハンドブック」東山書房、2010年

【参考HP】  
学校における水泳プールの保健衛生管理 第2章水泳と健康(結膜炎、中耳炎、副鼻腔炎等)  
{<https://www.gakkohoken.jp/books/archives/202>}  
文部科学省「食物アレルギー対応指針」  
{[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afiedfile/2015/03/26/1355518\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afiedfile/2015/03/26/1355518_1.pdf)}  
文部科学省「学校におけるアレルギー疾患対応資料」(21分)  
{<https://www.youtube.com/watch?v=caZv1Zwznis>}  
文部科学省「調布市立学校児童死亡事故 検証結果報告書概要版」  
{[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/sports/018/shirvo/\\_icsFiles/afiedfile/2013/06/05/1335638\\_5.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/sports/018/shirvo/_icsFiles/afiedfile/2013/06/05/1335638_5.pdf)}  
減らそう突然死 AED プロジェクト(5分)  
{<http://aed-project.jp/movies/movie5.html>}  
別紙「池田小学校事件の概要」  
{<https://osaka-kyoiku.ac.jp/safety/fuzoku/ikd/goui/jikengaiyo.html>}  
共和教育映画社「不審者対応マニュアル「学校を守れ不審者の侵入を防ぐ」」(4分)  
{<https://www.youtube.com/watch?v=DxX-hc9OTCY>}

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応します。教員にご相談ください。

**授業時間外の連絡手段：** 養護実習説明会で実習担当教員の連絡先を知らせます。急用の場合は携帯電話に連絡してください。  
欠席する場合には①実習校②大学③実習担当教員に連絡してください。  
指導を受けたい場合は、なるべく、予めメールで予約をとってください。  
もちろんオフィスアワーにも研究室で対応します。

**留意事項：** なし。

---

科目コード：50070      科目ナンバリング：EX40C02E      主な使用言語：日本語  
授業名(英文)：教職実践演習(中学校・高等学校)(Practical Seminar for Teaching Certification (Middle School and High School))  
担当者： 稲野邊 親、望月 珠美、村上 美保子、石島 恵美子

---

## 基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜3限 水曜4限

履修可能学科・専攻：ECWFM

関連資格：教職

AL要素：07発表

08協同学習

**授業の概要：** 学校経営、学級経営、生徒指導、学習指導、教員として求められる資質能力の5つの括りから授業を行う。

学校経営については、教育実習校の実際について報告し合い、現状の把握に努め、学校経営のマネジメント・サイクルについて確認する。その後、学校経営総合診断を体験し、協議を通して教員として学校教育目標の達成を目指して、いかに教育活動に当たるかを考え、実践を促す。

学級経営については、教育実習の体験を踏まえ、望ましい学級集団について考え、さらにそういった集団を育成するにはどうしたらよいかを考える。

生徒指導については、教育実習の体験を踏まえ、生徒理解をどのように行ったかを発表し、個の理解・集団の理解の必要性について気付かせるようにする。また、生徒指導の目的、生徒指導の三つの機能を確認し、いじめ問題等の事例研究を行い、その対応について考える。

教員として求められる資質能力については、国の中教審答申等を踏まえ、協議を通して学び協働の意識、続ける意識を高める。

**キーワード：** 学校経営、学級経営、生徒指導、学習指導、教員として求められる資質能力

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標：** 教科書の内容を理解し、学習指導の基本的事項が身に付いている。

子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、個々に応じた適切な指導を行うことができる。

**評価方法：** 小論文

**評価割合：** 50%

教職履修カルテ  
教育実習履修簿

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢が身に付いている。

教職員としての職責や義務の自覚に基づき、高い倫理観と規範意識を持って職責を果たすことができる。

**評価方法：** ポートフォリオ

**評価割合：** 50%

小論文  
教育実習履修簿  
教職履修カルテ

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、生徒の理解を促進することを目指して、各案や児童生徒理解等に主体的に取り組む態度は大切である。レポートや発表に工夫がみられる場合は、上記「知識・技能」の項目に加点することもある。

**評価割合：** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしないが、進んで生徒にかかわろうとする意欲、態度は必要なことである。実習等でこのような態度が見られ、高い評価を得た場合は「思考力・判断力・表現力」の項目に加点する場合もある。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価の対象とはしないが、人権侵害や差別表現など著しく公正性を欠く言動については、減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第1・2回】オリエンテーション

演習(発題)：「教育愛とは何か」→各自・グループ・発表

【第3・4回】演習(発題)：「教員の使命と責任」→各自・グループ・発表

【第5・6回】演習(発題)：「教員に求められる社会性と対人関係能力」→各自・グループ・発表

【第7・8回】演習(発題)：「生徒理解と学級経営」→各自・グループ・発表

【第9回】学習指導1(分かる楽しい授業：教育実習研究授業の発表，自らの学習指導の課題の把握)

【第10回】学習指導2(分かる楽しい授業：教育実習研究報告書の発表，自らの教科指導の課題の把握)

【第11回】学習指導3(教科経営，諸指導計画)

【第12回】学習指導4(教材研究，板書，評価)

【第13回】学習指導5(学習指導案の改善1)

【第14回】学習指導6(学習指導案の改善2)

【第15回】演習(発題)：「いじめ防止」→各自・グループ・発表

【第16回】ポートフォリオのまとめと試験(小論文や集団討論等)

※受講者の教育実習の終了状況により，学習指導の演習を先に行う場合がある。

使用テキスト： 文部科学省「中学校学習指導要領解説(社会、英語、家庭)編  
文部科学省「高等学校学習指導要領解説(地歴、英語、家庭)編  
文部科学省「高等学校学習指導要領解説(福祉)編  
ICC教育実習履修簿

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業で使用する資料等は適宜配布し、参考図書・文献等については適宜指示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り合理的配慮をしますので、まずは学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィス・アワーは研究室にて、また、ICメールでも連絡・相談等に応じます。

留意事項： 各専攻教科における学習指導に関する授業については、各担当者から説明があるが、全体を通じて6回のみ授業となるので、欠席があった場合は単位が出なくなることがあることに留意すること。

---

科目コード：50071

科目ナンバリング：EX40C04E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：教職実践演習(栄養)(Practical Seminar for Teaching Certification (Nutrition))

担当者：西出 朱美、小野瀬 尋子、稲野邊 親

#### 基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜3限 木曜4限

履修可能学科・専攻：F

関連資格：教職

AL要素： 02.模擬実践  
07.発表  
11.討論

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】遠隔授業(同時双方向型)・【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】原則遠隔授業(同時双方向型)・一部面接授業

学校経営、学習指導、研究授業を行います。

学校経営については、教育実習校の実際について報告し合い、現状の把握につとめるようにします。その後、協議を通してそのあるべき姿を追究し、教員として学校教育目標の達成を目指して、いかに教育活動に当たるべきか考え、実践を促すようにします。

学習指導については、教育実習の研究授業指導案、授業研究報告書を発表し合い、自らの課題を明確にするようにします。その後、分かる楽しい授業を創るにはどうすればよいか協議し、評価について確認するとともに、板書計画も含めて、研究授業指導案の改善を図るようにします。

教員として求められる資質能力については、2012年8月の中教審答申を踏まえ、協議を通して実践を促すようにします。

研究授業については、より良い指導法のあり方を互いに学び合う場とするため、教育実習先の各研究授業を実際に行って指導法、教材(媒体)などを評価・意見交換し、最後に講評を行います。

キーワード： 栄養教諭、学校経営、学習指導、研究授業、食に関する指導

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

到達目標：(知識・技能)

1. 栄養教諭として教育に対する使命感や情熱を持ち、子どもの成長や安全、健康を第一に考えて行動することができる。
2. 組織の一員としての自覚を持って適切な言動をとり、他の教職員と協力して栄養教諭としての職務を遂行することができる。
3. 子どもの発達や身心の状況に応じて抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。
4. 栄養の専門知識ならびに学習指導要領の基本事項を身に付け、子どもの実態に応じた授業計画や学習形態を工夫することができる。

評価方法： 研究授業の実践  
自己の振り返りシート

評価割合：50%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 栄養教諭としての使命感・責任感、対人関係能力、児童・生徒理解、指導力等について、他者の研究授業参観を通して理解を深め、自己の知識・技術の向上にいかすための課題や気づきを得ることができる。

評価方法： 他者の研究授業についての振り返りシート  
発表

評価割合：50%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。

評価割合：0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

評価割合：0%

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、授業中に公正性を欠く言動等があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。



評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

**授業計画:** 【第01回】学習指導1(分かる楽しい授業:教育実習研究授業の発表準備、学習指導の課題の把握)(外部講師)  
【第02回】学習指導2(分かる楽しい授業:教育実習研究授業の発表準備、指導計画の検討)(小野瀬)  
【第03回】学校経営1(学校教育目標、グランドデザイン、教員に求められるコンプライアンス)(稲野邊)  
【第04回】学校経営2(学校経営における栄養教諭の役割、教員評価(自己申告書))(稲野邊)  
【第05回】学習指導3(授業のマネジメント)(西出)  
【第06回】研究授業1(授業実践と講評)(小野瀬)  
【第07回】研究授業2(授業実践と講評)(小野瀬)  
【第08回】研究授業3(授業実践と講評)(小野瀬)  
【第09回】研究授業4(授業実践と講評)(小野瀬)  
【第10回】研究授業5(授業実践と講評)(小野瀬)  
【第11回】研究授業6(授業実践と講評)(小野瀬)  
【第12回】研究授業7(授業実践と講評)(小野瀬)  
【第13回】事例研究、グループ討議、発表準備1(小野瀬)  
【第14回】事例研究、グループ討議、発表準備2(小野瀬)  
【第15回】まとめと展望 (小野瀬)

**使用テキスト:** 文部科学省・国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』2011年  
参考書 授業で使用する資料は配布します。参考図書については適宜指示します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 「教育実習記録」「研究授業の指導案」「教育実習授業研究報告書」を整えておくこと。  
研究授業の実施にあたっては事前に指導案をコピーし、媒体等の点検を行い、十分な準備をすること。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい

**授業時間外の連絡手段:** 研究室で対応します

**留意事項:** 特にありません

---

科目コード:50072      科目ナンバリング:EX40C06E      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 教職実践演習(養護)(Seminar in Teaching Practice (School Health Nursing))

担当者: 松永 恵、稲野邊 親

**基本情報**

年次:4

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜3限 水曜4限

履修可能学科・専攻: N

関連資格: 教職

AL要素: 04課題解決  
07発表  
08協同学修  
13役割演技と疑似体験  
16振り返り用紙と応答

**授業の概要:** 本演習は、大学での学びの軌跡の集大成と位置付けられている。学生がこれまでの学びを振り返り、今後養護教諭として役割を果たす上での課題を自覚し、必要に応じて不足して

いる知識や技能を補い、定着をはかる過程を通じ、自ら学び続ける教師としてスタートできることを期待する。

前半は養護実習で学生が感じた課題に焦点をあて、養護教諭としての知識や技能を高める。本シラバスには卒業生が養護実習後に感じた課題を例示しているが、受講生の実習体験を踏まえ、変更することがある。あらかじめ担当教員と相談し、自己の課題の解決過程を全員で共有できるよう、準備する。また共通の課題と思われる点に関し、新人養護教諭や特別支援学校養護教諭らとのティームティーチングを採り入れ、それぞれの課題解決に向け、多様な視点を持てるようにしたい。

後半は養護教諭として、学校組織の中でどのように機能していくことが必要なのかを考える。養護教諭は児童生徒の悩みのみならず、健康に学び、成長する過程にも寄り添う。いかなる場面でも、組織の中で養護教諭である自分がどのように機能すべきかを考えることが求められる。児童生徒が生活する学級や学校を経営する教師の活動を理解し、専門性を発揮しながら共に歩むような力量を高めることを望む。

**キーワード：** 資質能力、学び続ける、教師、養護、組織、経営

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標：** 1 教員としての資質能力(①使命感や責任感、教育的愛情②社会性や対人関係能力③児童理解や学校・学級・保健室経営④保健(生活)指導力⑤養護対応力)について説明することができる。

**評価方法：** レポート

**評価割合：** 5%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 1 これまでの学びを振り返り、養護教諭として勤務する際に不足している資質能力のについて課題として記述することができる。  
2 1で記述した課題について、この演習を通し、どのような方法(文献調査、ロールプレイング、事例研究、現地調査、現職教員との意見交換、グループ討論ほか)を用いて解決することができるのか、計画し、記述することができる。  
3 2で作成した計画について、実施可能な方法を選択し、実践記録として記述し、報告することができる。  
4 演習に参加する学生間で、1～3を共有しあい、互いの課題や課題解決に向けた実践について理解したことを記述し、助言しあうことができる。  
5 1～4までをもとに、養護教諭が学校経営、学級経営、生徒指導部経営をどのように理解し、どのような役割を果たしていくべきか、発表したり記述したりすることができる。

以上の活動を通し、演習終了後に、①使命感や責任感、教育的愛情②社会性や対人関係能力③児童理解や学校・学級・保健室経営④保健指導についての資質能力がどのように高まったのかを自己評価し、記述することができる。

**評価方法：** ワークシート40%

**評価割合：** 85%

授業中の発言20%

振り返り用紙10%

小論文15%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

1 グループワークやロールプレイに進んで取り組む。

**評価割合：** 5%

#### ▼実践的ボランティア

1 お互いの状況を察し合い、仲間と共に学び合い高め合うための雰囲気づくりに努める。

**評価割合：** 5%

## ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言や記録物において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があれば、嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

## ▼その他

なし。

評価割合：なし。

**授業計画：** 【第1回】本演習の目的の説明と、これまでの学びの振り返りについてのグループ討論(松永)  
【第2回】養護教諭として勤務する際に必要な資質能力について(外部講師・松永)  
【第3回】養護教諭として勤務する際に不足している課題解決過程の発表と討論(頭痛)(松永)  
【第4回】養護教諭として勤務する際に不足している課題解決過程の発表と討論(腹痛)(松永)  
【第5回】養護教諭として勤務する際に不足している課題解決過程の発表と討論討議(不定愁訴)(松永)  
【第6回】養護教諭として勤務する際に不足している課題解決過程の発表と討論(発達)(松永)  
【第7回】養護教諭として勤務する際に不足している課題解決過程の発表と討論(叱る)(松永)  
【第8回】特別支援教育における養護活動(外部講師・松永)  
【第9回】学校経営(1)(学校経営と養護教諭、教員に求められるコンプライアンス)(稲野邊)  
【第10回】学校経営(2)(学校における養護教諭の役割、教員評価について)(稲野邊)  
【第11回】学級経営(1)(学級経営と養護教諭、学級担任と養護教諭の連携(実習報告)等)(稲野邊)  
【第12回】学級経営(2)(児童生徒理解・学級集団の育成と養護教諭)(稲野邊)  
【第13回】生徒指導(1)(生徒指導の実践上の視点と養護教諭)(稲野邊)  
【第14回】生徒指導(2)(不登校対応・いじめ防止対策と養護教諭)(稲野邊)  
【第15回】養護教諭として勤務する際に不足している課題解決過程の発表(大事故)(松永)  
定期試験(集団討論、小論文)

**使用テキスト：** これまで学んだものと履習簿  
(毎回、シラバスや授業予告を参照し、必要なテキストを揃えて持参する。)

## 予習・復習のポイントと

### 参考文献・資料等：

- ① 養護実習履修簿を読み直し、自身の課題について抽出し、解決方法について考え教員に相談する(5時間)。
- ② 養護実習履修簿を読み直し、これまで学んだ資料を見直し、実習校で学んだ学校経営、学級経営、生徒指導について話せるように資料を作成しておく(3時間)。
- ③ 文献調査、ロールプレイング、事例研究、現地調査(フィールドワーク)について理解しておく(2時間)。
- ④ 1、2年生で学んだ教職科目の資料を復習しておく(5時間)。
- ⑤ 他者との会話において「話すこと」「聞くこと」のバランスを意識して過ごす。
- ⑥ 望ましいレポートの書き方、小論文の書き方について勉強しておく(2時間)。
- ⑦ 読んでくれる、または聞いてくれる相手を思い、書いたり話したりするよう心がける。

### 【復習】

振り返り用紙を丁寧に記述する(毎回1～2時間)。

### 【参考資料】

東山書房「健康教室」(図書室で閲覧可能)

日本学校保健研修社「健」(保健室で閲覧可能)

生徒指導提要

以外は、これまで養護概説、学校保健、養護実習等で紹介したものを使用する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。教員にご相談ください。

**授業時間外の連絡手段:** 研究室または学務部にお越しく下さい。  
急がない用事はメール(周知済み)の方が確実です。授業日には24時間以内に返信します。

**留意事項:** ☆ 資料を保存し提出するためのファイルを購入しておく。  
・ 提出物の期日を厳守する。  
・ 全てできるようになる必要はない。自信を持てること、持てないことを明確にする。  
・ 来春より教師としてスタートできるような態度で臨む。  
・ 遅刻や欠席がないよう健康管理する。

---

**科目コード:50073**      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:日本語**

**授業名(英文): 養護概説(School Health Nursing)**

**担当者: 松永 恵**

#### 基本情報

**年次:3**

**単位数:2**

**授業形式:講義**

**曜時:水曜5限**

**履修可能学科・専攻: N**

**関連資格:教職**

**AL要素: 07発表  
08協同学修  
11討論**

**授業の概要:** 時代の要請から誕生した養護教諭が、社会と健康問題の変化に対応しながら、学校組織において、児童生徒の健康な発達を促進したり、自己管理能力を高めたりするよう機能していることを理解する。

受講生の養護教諭へのイメージは「心の悩みを相談する人」から「学校組織の一員として、連携しながら、児童生徒の心身の健康を守り育てる人」に変化することを期待している。

授業は予習中心である。受講生は事前課題に取り組むことが重要である。質問を受け、知識の確認をした上で、知識やこれまでの経験をもとに、仲間の考えを受け入れながら、学びを深めてほしい。

また、実務経験を生かし、養護教諭の実践と、その根拠となる理論や法律との関連が納得できるよう、具体的な事例を示していきたい。

**キーワード:** 養護教諭、学校保健、健康診断、健康相談、保健教育、予習

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

- 到達目標:**
- 1 教育における養護の意味について説明することができる
  - 2 時代に応じて変化してきた養護教諭の職務・役割を説明することができる
  - 3 現在期待されている養護教諭の職務についてひとつずつ具体的に説明・実施することができる
  - 4 学校保健活動における保健室経営について具体的に説明することができる
  - 5 組織活動において養護教諭が担う中核的役割について説明することができる

**評価方法:** 定期試験

**評価割合: 70%**

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
- 1 予習する中で生じた疑問を表明し、仲間や教員と話し合いながら解決することができる。
  - 2 講義で得た知識と、学校ボランティアに参加した体験や受講生自身が生徒だった体験をもとに、学校内における活動をイメージし表現することができる。

評価方法：観察  
対話  
レポート

評価割合：20%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

予習課題に取り組む。

授業の中で行われる協同学習において予習の成果を生かして発言する。

評価割合：5%

#### ▼実践的ボランティア

授業の中で行われる協同学習において、他者を気遣い、お互いの学習活動を深めようとする。

評価割合：5%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、以下のような場合には厳重注意する。

- ① 授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害、差別的発言などが認められた場合。
- ② 事前課題(予習)に取り組まずに、協同学習(授業)に参加するという行動を繰り返し、他の受講生の学修に影響があると認められた場合。

評価割合：0%

#### ▼その他

なし。

評価割合：なし。

授業計画：【第01回】子どもの現代的な健康課題とその対応(第3章)(松永)  
【第02回】養護教諭の職務(第4章)(松永)  
【第03回】教科保健(第2章と第6章第1節)(松永)  
【第04回】保健指導(第6章第2節)(松永)  
【第05回】健康観察(第5章第3節)(松永)  
【第06回】学校健康相談(第7章)～疾病管理(第5章第4節)(松永)  
【第07回】疾病管理(第5章第4節)(松永)  
【第08回】学校環境衛生(第5章第5節)～子どもの心のケア(第9章)(松永)  
【第09回】安全管理と危機管理(第13章)(松永)  
【第10回】組織活動(第12章)と保健室経営(第11章)(松永)  
【第11回】学校における救急処置①救急体制(第5章第1節)(松永)  
【第12回】学校における救急処置②救急処置(第5章第1節)(松永)  
【第13回】学校における健康診断①健康診断の計画と事後措置(第5章第2節)(松永)  
【第14回】学校における健康診断②健康診断の実施(第5章第2節)(松永)  
【第15回】養護教諭とは(第1章)(松永)  
定期試験

#### 使用テキスト：【書籍】

采女智津江「新養護概説」少年写真新聞社

加藤啓一「いざというときのための応急手当ミニハンドブック」少年写真新聞社

4月にはいつから、保健の教科書について指示します。

【HP】ダウンロードし(縮小可)、ファイルに綴じ、資料集として使用する。

茨城県教育委員会「四訂版 学校保健・学校安全管理の手引き」

{<https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/gakkou/karada/hoken/tebiki/tebiki.pdf>}

文部科学省「学校歯科保健参考資料「生きる力」をはぐくむ学校での歯・口の健康づくり」第2章

{[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1306937.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1306937.htm)}

日本学校保健会「児童生徒等の健康診断マニュアル平成27年度改訂」(心臓病、腎臓病含む)

{<https://www.gakkohoken.jp/books/archives/187>}

文部科学省「学校環境衛生管理マニュアル 「学校環境衛生基準」の理論と実践[平成30年度改訂版]

{[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kenko/hoken/1292482.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1292482.htm)}

**予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等：**

1 事前課題に取り組む(毎回60分)

テキストの中の重要な内容がわかるように設定している課題に取り組む。最低限、重要な内容にはマーカーして授業に臨む。この時点で学校ボランティアの体験や、受講生自身の生徒体験、教職教養科目の内容と結びつけて考えられると、理解が深まる。

2 人体構造、フィジカルアセスメントの復習(必要な回のみ30分)

う歯、アレルギー、心臓疾患、腎臓疾患等、疾患をとりあげる回が多くある。疾患の内容には触れないので、自分で調べておくことが望ましい。

3 技術の練習をする(必要な回のみ30分)

包帯法、健康診断等、やって覚えなければならないことについては、受講生自身がテキストや参考資料を読み、練習するしか方法がない。授業中には各1回しかできない。授業では「技術+α」を学ばせたい。そのためには事前の練習が重要である。

とくにテキスト「応急手当ハンドブック」は5月連休が終わるまでに読み、7月の授業回までに使える場面があれば実践しておく。

**【参考書】**

小児看護学で使用してきたテキスト

津島ひろ江「学校における養護活動の展開」ふくろう出版、2016年

岡田加奈子ほか「養護教諭のための現代の教育ニーズに対応した養護学概論」東山書房、2016年

森田光子「養護教諭の健康相談ハンドブック」東山書房、2010年

**【参考HP】**

学校保健ポータルサイト・・・ほぼ網羅している

{<https://www.gakkohoken.jp/>}

学校における水泳プールの保健衛生管理 第2章水泳と健康(結膜炎、中耳炎、副鼻腔炎等)

{<https://www.gakkohoken.jp/books/archives/202/>}

<救急処置予習用>

三共ヘルスケア

{[https://www.daiichisankyo-hc.co.jp/health/symptom/08\\_nenza/](https://www.daiichisankyo-hc.co.jp/health/symptom/08_nenza/)}

松田整形外科記念病院 捻挫

{<https://www.matsuda-oh.com/treatment/018/>}

環行帯1(お勧め)

{<https://www.youtube.com/watch?v=JmtpZU5OUIE>}

環行帯2(お勧め)

{<https://www.youtube.com/watch?v=-KatM8PLck0>}

環行帯3(お勧めしない)

お勧めしない動画

{<https://www.kango-roo.com/mv/257/>}

螺旋帯

{<https://www.youtube.com/watch?v=Uhvu6dYktNM>}

湘南鎌倉総合病院 麦穂帯

{<https://www.youtube.com/watch?v=8WgigoRozGs>}

{三角巾(八折なし、1本のみ)}

{<https://www.youtube.com/watch?v=nC9ng05DOIE>}

文部科学省「食物アレルギー対応指針」

{[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2015/03/26/1355518\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/03/26/1355518_1.pdf)}

文部科学省「学校におけるアレルギー疾患対応資料」(21分)

{<https://www.youtube.com/watch?v=caZv1Zwznis>}

<安全管理用>

文部科学省「調布市立学校児童死亡事故 検証結果報告書概要版」

{[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/sports/018/shirvo/\\_icsFiles/afieldfile/2013/06/05/1335638\\_5.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/sports/018/shirvo/_icsFiles/afieldfile/2013/06/05/1335638_5.pdf)}

減らそう突然死 AED プロジェクト(5分)

{<http://aed-project.jp/movies/movie5.html>}

別紙「池田小学校事件の概要」

{<https://osaka-kyoiku.ac.jp/safety/fuzoku/ikd/goui/jikengaivo.html>}

共和教育映画社「不審者対応マニュアル「学校を守れ不審者の侵入を防ぐ」」(4分)

{<https://www.youtube.com/watch?v=DxX-hc9OTCY>}

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。教員にご相談ください。

**授業時間外の連絡手段:** 研究室または学務部にお越しください。  
第2回養護実習説明会(6月)以降はメールアドレスをお知らせしますので、メールを用いた連絡も可能になります。

**留意事項:** 1 シラバスを印刷して資料集の一番上に綴じておき、有効活用する。  
2 黒板やパワーポイントを使わないので、必要に応じ、自分の判断で書けるよう、書くもの(ノート、ルーゼーフなど)を準備しておく。  
3 テキストをあちこち引きながら講義するので、付箋、しおり、マーカーなど、すぐに参照したりメモしたりできる文具を用意してくる。

---

---

科目コード:50075      科目ナンバリング:EX20C09K      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 博物館経営論(Theory of Museum Management)

担当者: 竹谷 陽二郎

#### 基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:火曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C

関連資格: 社教 学芸

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答  
17. 発問と回答

**授業の概要:** 講師の福島県立博物館での実務経験を活かして、以下のように授業します。  
初めに現在の博物館における経営(マネージメント)の重要性を述べます。そして、社会の変化や要請に応じて、博物館がどのように経営を進めているかを示します。次に、市民を取り込んだ新しい博物館経営の在り方について具体例を示します。さらに、東日本大震災における博物館の対応について、福島県立博物館での例をもとに示します。最後に、毎回の授業で学生が提出した課題回答結果について共に考えます。

**キーワード:** 博物館経営、指定管理者制度、博物館の使命、マーケティング、市民参画、震災資料

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 授業で解説を受けた博物館経営の基本的コンセプト、具体的方策、課題等について、解答することができる。

**評価方法:** 学期末筆記試験

**評価割合:** 40%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 授業で扱った博物館経営について、自主学習によって得た知見を踏まえて、論理的かつ簡潔に自らの考えを表現することができる。

**評価方法:** 学期末筆記試験

**評価割合:** 40%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

ほぼ毎回の授業で、その授業に関わる課題を学生に与えて回答してもらう。その内容は問わないが、授業に真剣に取り組んでいるか、自分の考えを持って表現できるかをみる。その上で「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

**評価割合:** 20%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

### ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

**授業計画：** 第1回：博物館経営の重要性(授業概要説明含む)  
第2回：博物館関連法とその改変  
第3回：博物館の諸機能とその連動  
第4回：博物館の施設・設備  
第5回：博物館の組織と人材  
第6回：博物館の使命と評価  
第7回：博物館の経営形態の変化  
第8回：博物館の倫理規定  
第9回：博物館の危機管理  
第10回：博物館のマーケティング戦略  
第11回：博物館と地域社会との連携(1)機関連携  
第12回：博物館と地域社会との連携(2)市民参画  
第13回：博物館の震災対応(1)文化財レスキュー  
第14回：博物館の震災対応(2)震災資料収集  
第15回：課題回答の総括  
定期試験

**使用テキスト：** 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 授業後、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。参考文献として次の3点を推薦する。

佐々木 亨・亀井 修(2013) 博物館経営論. 放送大学教育振興会. 2600円  
大堀 哲・水嶋英治(2016) 博物館学Ⅲ—博物館情報・メディア論\*博物館経営論. 学文社. 2300円  
栗田秀法(編)(2019) 現代博物館学入門. ミネルヴァ書房. 2500円

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** 担当する授業「博物館経営論」の授業時限の前後に、講師控室で対応します。

**留意事項：** なし。

---

科目コード：50076

科目ナンバリング：EX20C10K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：博物館資料論(Theory of Museum Materials)

担当者：徳丸 亜木

### 基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C

関連資格：社教 学芸

AL要素：07.発表

03.実験・実技・体験



**授業の概要：**・博物館にとって、資料を収集し、整理・保存し、専門職としての知見から研究した上で、その成果を展示や社会教育に生かすことは、もっとも重要な役割であると言えます。単に資料を収集・保存するだけでなく、研究を踏まえた専門的な知見を、様々な年齢、立場の来館者に理解してもらえるように提示する力が求められます。この授業では、担当者の専門である民俗文化財を中心に、資料論としての講義を行います。  
・この授業は、「博物館法施行規則の一部を改正する省令」(平成21年度文部科学省令第22号)に定められている「博物館資料保存論」(2単位)に該当するものです。

**キーワード：** 博物館資料 映像資料 社会伝承資料 民具資料 歴史資料 民俗文化財 有形文化財

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：**博物館における主要な機能の一つである「資料」について、基礎的な知識と技術を修得することができる。

**評価方法：** 授業への参加態度や貢献度(発言の回数  
や内容、課題へ取り組む姿勢等)及び学  
期末試験等により総合的に評価する。 **評価割合：50%**

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** 授業への参加態度や貢献度(発言の回数  
や内容、課題へ取り組む姿勢等)及び学期  
末試験等により総合的に評価する。 **評価割合：50%**

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践によって深められた知見が学期末試験により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や学期末試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

### ▼ その他

特になし

**評価割合：特になし**

**授業計画：** 第1回 概説1:博物館資料の概念  
第2回概説2:博物館資料の収集・整理・保管  
第3回概説3:博物館資料と調査研究活動  
第4回概説4:博物館資料の活用  
第5回無形の民俗文化財に関わる資料論1:口頭伝承の資料化  
第6回無形の民俗文化財に関わる資料論2:口頭伝承資料の分析  
第7回無形の民俗文化財に関わる資料論3:祭礼・儀礼の資料化  
第8回無形の民俗文化財に関わる資料論4:祭礼・儀礼資料の分析  
第9回有形の民俗文化財に関わる資料論1:民具の資料化  
第10回有形の民俗文化に関わる資料論2:民具資料の分析  
第11回有形文化財に関わる資料論1:歴史資料(文書)の資料化

第12回有形文化財に関わる資料論2:歴史資料(文書)の分析  
第13回有形文化財に関わる資料論3:歴史資料(古写真)の資料化  
第14回有形文化財に関わる資料論4:歴史資料(古写真)の分析  
第15回全体総括:博物館資料のこれから

※授業の進展に伴う受講者の理解にあわせて順番や内容を変更する場合があります。  
※授業を博物館等の現地で実施する場合があります。  
※講義だけでなく実技の指導を行う場合があります。  
※定期試験に替えて、レポートを含むノートの提出によって評価する場合があります。

**使用テキスト:** 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 2012『新時代の博物館学』芙蓉書房出版

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:**  
・予習として、次回授業に関わるテキスト等の箇所をよく読んで理解しておくこと(1時間)。  
・復習として、授業で取り上げた事柄を授業ノートに整理してまとめておくこと(1時間)。  
・授業時に資料を配付する場合があります。  
・必要な参考文献については授業中に指示します。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。事前に学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 勤務大学のメールアドレス(tokumaru.aki.fb@u.tsukuba.ac.jp)に連絡をしてください。

**留意事項:** 可能であれば、身近にある博物館を見学してください。茨城県には、歴史・民俗系の博物館として『茨城県立歴史館』(水戸市)、『土浦市博物館』(土浦市)、『かすみがうら市歴史博物館』(かすみがうら市)など、多くのすばらしい博物館があります。また、千葉県成田市の『国立歴史民俗博物館』もおすすめします。見学に際しては、学芸員の資料選択と研究視点、展示の意図など学究的な視点を持って下さい。

---

**科目コード:** 50077      **科目ナンバリング:** EX20C13K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 博物館資料保存論(Theory of Museum Materials Preservation)

**担当者:** 徳丸 亜木

**基本情報**

**年次:** 2

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 月曜2限

**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C

**関連資格:** 学芸

**AL要素:** 07.発表

03.実験・実技・体験

**授業の概要:** ・博物館にとって、資料を収集し、整理・保存し、専門職としての知見から研究した上で、その成果を展示や社会教育に生かすことは、もっとも重要な役割であると言えます。博物館における資料の収集と保存は、研究を踏まえた専門的な知見の社会的な提示と常に結ぶ付いています。この授業では、担当者の専門である民俗文化財を中心に、資料保存論としての講義を行います。  
・この授業は、「博物館法施行規則の一部を改正する省令」(平成21年度文部科学省令第22号)に定められている「博物館資料保存論」(2単位)に該当するものです。

**キーワード:** 博物館資料 映像資料 社会伝承資料 民具資料 歴史資料 民俗文化財 有形文化財

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

**到達目標:** 博物館における主要な機能の一つである「資料保存」について、基礎的な知識と技術を修得することができる。

**評価方法:** 授業への参加態度や貢献度(発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢等)及び学期末試験等により総合的に評価する。      **評価割合:** 50%

▼ **思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

**評価方法:** 授業への参加態度や貢献度(発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢等)及び学期末試験等により総合的に評価する。 **評価割合: 50%**

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合: 0%**

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践によって深められた知見が学期末試験により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合: 0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や学期末試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合: 0%**

#### ▼その他

特になし

**評価割合: 特になし**

**授業計画:**

- 第1回 概説:博物館における資料保存とその活用
- 第2回 博物館における資料保存とその活用事例:熊本県宇土市雨乞い大太鼓収蔵館
- 第3回 博物館における資料保存とその活用事例:山口県萩市博物館(まちじゅう博物館)
- 第4回 映像資料の作成・保存・活用1:民俗写真撮影の実務(機材)
- 第5回 映像資料の作成・保存・活用2:民俗写真撮影の実務(撮影)
- 第6回 映像資料の作成・保存・活用1:民俗行事動画撮影の実務
- 第7回 映像資料の作成・保存・活用2:民俗行事動画撮影の実例
- 第8回 映像資料の作成・保存・活用3:芸能動画撮影の実例
- 第9回 社会伝承資料の作成・活用1:家族・親族構造と戸籍資料
- 第10回 社会伝承資料の作成・活用2:親族図の作成と分析
- 第11回 民具資料の保存・記録・活用1:スケッチと実測の方法
- 第12回 民具資料の保存・記録・活用2:スケッチと実測の実践
- 第13回 歴史資料の翻刻と分析1:近世文字資料
- 第14回 歴史資料の翻刻と分析2:近代行政資料
- 第15回 全体総括:博物館資料保存のこれから

※授業の進展に伴う受講者の理解にあわせて順番や内容を変更する場合があります。

※授業を博物館等の現地で実施する場合があります。

※講義だけでなく実技の指導を行う場合があります。

※定期試験に替えて、レポートを含むノートの提出によって評価する場合があります。

**使用テキスト:** 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 2012『新時代の博物館学』芙蓉書房出版

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:**

- ・予習として、次回授業に関わるテキスト等の箇所をよく読んで理解しておくこと(1時間)。
- ・復習として、授業で取り上げた事柄を授業ノートに整理してまとめておくこと(1時間)。
- ・授業時に資料を配付する場合があります。
- ・必要な参考文献については授業中に指示します。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応します。事前に学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 勤務大学のメールアドレス(tokumaru.aki.fb@u.tsukuba.ac.jp)に連絡をしてください。

**留意事項：** 可能であれば、身近にある博物館を見学してください。茨城県には、歴史・民俗系の博物館として『茨城県立歴史館』(水戸市)、『土浦市博物館』(土浦市)、『かすみがうら市歴史博物館』(かすみがうら市)など、多くのすばらしい博物館があります。また、千葉県成田市の『国立歴史民俗博物館』もおすすめします。見学に際しては、学芸員の資料選択と研究視点、展示の意図など学究的な視点を持って下さい。

---

科目コード : 50078      科目ナンバリング : EX20C14K      主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 博物館展示論(Theory of Museum Display)

担当者 : 古家 信平

**基本情報**

年次 : 2

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 火曜4限

履修可能学科・専攻 : E Pe Pc C

関連資格 : 学芸

AL要素 : 07. 発表

**授業の概要：**【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】同時双方向型

博物館の展示について、近代以前からの歴史をたどり、展示の背景にある調査研究、その技法を講義する。

**キーワード：** 展示、資料調査、文化財保護法、展示解説書、照明、音響

**学位授与方針との関係**

**▼ 知識・技能**

**到達目標：** 博物館の展示について、基礎的な知識と方法を習得する。

**評価方法：** 授業に出席し、適宜行う課題を提出することとをふまえて、期末試験等により評価する。      **評価割合 : 50%**

**▼ 思考力・判断力・表現力**

**到達目標：** 授業で取り上げた事柄について興味をもって主体的に検討を進めて、自分の考えを表明できること。

**評価方法：** 授業に出席し、適宜行う課題を提出することとをふまえて、期末試験等により評価する。      **評価割合 : 50%**

**▼ 学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象としない。ただし、それぞれが興味をもって自主的な学習をした成果が期末試験によってみられる場合には「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

**評価割合 : 0%**

**▼ 実践的ボランティア**

直接的な評価対象としない。ただし、各自が行ったボランティア活動などの実践によって深められた知見等が期末試験に認められた場合には「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

**評価割合 : 0%**

**▼ 公正性**

直接的な評価の対象としない。ただし、授業中の発言、提出課題、期末試験の記述等に人権侵害、差別的発言など公正性を著しく欠く場合には、減点等の対象となる。

**評価割合 : 0%**

**▼ その他**

特になし。

**評価割合 : 特になし。**

**授業計画：** 第1回 博物館の展示とは何か ガイダンス

- 第2回 博物館展示の歴史
- 第3回 展示資料の調査と収集
- 第4回 展示の構想と企画
- 第5回 展示の設計・施行
- 第6回 展示と法令
- 第7回 展示の環境と設備
- 第8回 展示作業
- 第9回 展示の照明と音響
- 第10回 展示と解説
- 第11回 展示解説書(カタログ)の作成
- 第12回 人文系の展示
- 第13回 自然系の展示
- 第14回 展示の社会性と中立性
- 第15回 展示の評価
- 定期試験

**使用テキスト:** 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』芙蓉書房2012年 1900円＋税

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 予習は次の回の対象となる部分のテキストに目を通しておくこと。  
 復習は授業で検討した事項について整理し、興味を持った関連する事項について調べておくこと。

**障がいのある履修者への対応:** 学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 学務部等に連絡して下さい。

**留意事項:** これまでに参観した博物館、あるいは授業期間中に参観する博物館について、展示に注目して見ていけるようにしてください。

**科目コード:** 50079      **科目ナンバリング:** EX20C11K      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 博物館情報・メディア論(Theory of Museum Information and Media)

**担当者:** 榎 陽介

**基本情報**

**年次:** 2

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 水曜3限

**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C

**関連資格:** 社教 学芸

**AL要素:** 17.発問と回答

**授業の概要:** 「博物館はメディアである」そう提言したのは国立民族学博物館初代館長の梅棹忠夫だった。つまり、情報が発信されるメディアが博物館なのだという。この、情報が発信されるメディアとしての博物館という面から近年著しい発展を見せる情報技術などに触れる。そして、博物館における情報・メディアの実際の状況を理解し、活用した様々な活動例を学ぶことにより、博物館活動への理解を深め、博物館勤務時に役立つようにする。とくに、映像の作成や、過去の映像の収集とデジタル化などについて詳しく説明する。また、大規模災害時の博物館活動としての情報・メディアの活用についても取り上げる。この授業は博物館・美術館の「学芸員」資格に必要なものであるが、それにとどまらない。広く深く博物館について知ることは博物館をより一層楽しめるようになるだろう。具体的な博物館での活動を紹介することにより生き生きとした博物館の姿を伝える。

博物館ファンの受講も歓迎します。

Teamsを使っての遠隔授業も併用する場合がある。  
 本授業のレジメなどは、原則的にUNIPAで前々日にアップすることになる。

**キーワード:** 情報 メディア 展示 データベース デジタルアーカイブ 映像 災害

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 博物館における情報とメディアの関係について学習し、新しいメディアにはどんなものが使われているかなど、博物館の現状について認識する。

**評価方法:** 学期末のレポートにおいて、どれほど授業を  
理解しているかを判断する。 **評価割合: 70%**

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** この授業を履修することにより、なにげなく訪れていた博物館を情報とメディアの関係としてみる  
ことができるようになり、博物館についてのより深く知ることができるようになる。

**評価方法:** 学期末のレポートの課題にどのように答え  
記述したかにより判断する。 **評価割合: 30%**

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしないが、博物館についての関心は強く持っていてほしい。博物館を多く「経験」することから始めてほしい。  
主体的に博物館と向き合うことによって理解が深まる。

**評価割合: 0%**

### ▼ 実践的ボランティア

評価の対象としない

**評価割合: 0%**

### ▼ 公正性

直接的な評価対象としない

ただし、授業中の態度および試験における不正な行為については対象となる場合がある。

**評価割合: 0%**

### ▼ その他

とくにない

**評価割合: とくにない**

**授業計画:**

- 第1回 ガイダンス:この授業のめざすものは?
- 第2回 メディアとしての博物館
- 第3回 博物館の展示、映像、情報機器の利用
- 第4回 映像機器の原理と扱い方
- 第5回 博物館での展示映像—常設展示における映像
- 第6回 博物館が資料映像を作る1
- 第7回 博物館が資料映像を作る2
- 第8回 博物館が収集する映像の例1
- 第9回 博物館が収集する映像の例2
- 第10回 紙を使った博物館の情報伝達:ポスター、ちらし、展示図録
- 第11回 博物館資料とデジタル化
- 第12回 知的財産について
- 第13回 情報・メディアとユニバーサル・ミュージアム
- 第14回 災害と博物館と新しい情報・メディアの活用
- 第15回 まとめ

**使用テキスト:** とくに用いない  
必要に応じて資料などは配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** なによりも実際の博物館に足を運び博物館体験を数多くすることにより授業の理解も深まる。また授業の後に博物館に行くことにより、改めて授業内容を確認することができる。参考資料としては下記の書籍などがある  
日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』ぎょうせい 2013

**障がいのある履修者への対応：** どのように対応できるか検討しますので、まずは学務部などに連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** まずは学務部などにご相談ください

**留意事項：** とくにありません

---

**科目コード：**50080      **科目ナンバリング：**EX10C03K      **主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：**博物館教育論(Theory of Museum Education)

**担当者：**榎陽介

#### 基本情報

**年次：**1

**単位数：**2

**授業形式：**講義

**曜時：**水曜2限

**履修可能学科・専攻：**E Pe Pc C

**関連資格：**学芸

**AL要素：**10.資料調査課題  
17.発問と回答

**授業の概要：** この授業は「学芸員」の資格に関わるものである。しかし、それにとどまらず、博物館の実際について知ることで、博物館への関心と興味を深め、博物館を一層楽しめるようになることも目的とする。

さて、現代の博物館においては「教育」の果たす役割は大きいものがある。

ところが、博物館における教育は学校教育とは異なる。博物館での教育はどのようなものがあるかを概略理解できるようになること。将来の学芸員としての活動においてこの理解が役立つようにすることともに、生涯学習の場として博物館及び博物館教育を利用ができることも目標としたい。

博物館における教育というものがどのような流れで現代まで至ったか、その実際の活動など、なるべく具体的な事例に沿いながら展開する。映像資料も使用し、理解の助けとしたい。また、小学3年生を対象とした教育プログラムを実際に作成してみることを通じて、博物館教育を「体験」することも試みる。

博物館ファンの受講も歓迎します

Teamsを用いての遠隔授業と対面授業の併用などの場合もある。

授業のレジメなどについては、原則として授業の前々日にUNIPAにアップする。

**キーワード：**博物館教育 生涯学習 アウトリーチ 体験学習

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 博物館での教育というものにどのようなものがあり、どのように取り組むのかなどの方法を学ぶことで、実際の博物館での業務に際し基礎的な知識を得ること。

また、この授業を履修することにより博物館について理解を深めることができ、博物館利用者としてより高度なノウハウを身につけること。

**評価方法：** 学期末に行う教育プログラム作成のレポートによる      **評価割合：**70%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** この授業を履修することにより、教育というものをより広くとらえることが可能となり、自らの生涯学習について展望を得ること。

**評価方法:** 学期末に行う教育プログラム作成のレポートにおいて評価する。 **評価割合:** 30%

**▼学修に主体的に取り組む態度**

教育プログラム作成のレポートにおいて、具体的かつ自らの経験や、調査に基づいた事例を提出するとい  
うように、主体的に授業の課題に取り組むかを評価したい。

**評価割合:** 0

**▼実践的ボランティア**

直接的な評価の対象とはしない。

**評価割合:** 0%

**▼公正性**

直接的な評価対象としない

ただし、授業中の態度および試験における不正な行為については対象となる場合がある。

**評価割合:** 0%

**▼その他**

とくにない

**評価割合:** とくにない

- 授業計画:**
- 1 ガイダンス・博物館と教育
  - 2 博物館における教育の歴史1 海外
  - 3 博物館における教育の歴史2 日本
  - 4 博物館における教育活動: 見たり聞いたりする学び
  - 5 博物館における教育活動: 触れたり体験したりする学び
  - 6 博物館の学習理論とはどんなものか
  - 7 人文系博物館の教育活動
  - 8 自然系博物館の教育活動
  - 9 博物館と学校教育
  - 10 市民が活動する場としての博物館
  - 11 こども博物館: その起源と展開
  - 12 誰もが利用できる博物館: ユニバーサル・ミュージアム
  - 13 教育プログラム作成の具体例
  - 14 小学校三年生の教育プログラム作成 1
  - 15 小学校三年生の教育プログラム作成 2

**使用テキスト:** とくに用いない  
必要に応じて資料などは配布する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業に関わらず実際の博物館に足を運び博物館とはどういう所なのかを感じ取っておく。  
また授業で学んだことを博物館体験に生かすことで、さらに博物館における教育について深く知ることができる。  
参考図書として下記の書籍が推奨できる  
黒沢浩編『博物館教育論』2015年 講談社

**障がいのある履修者への対応:** どのように対応できるか検討しますので、まずは学務部などに連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** まず学務部などにご相談ください

**留意事項:** 特にありません。



科目コード : 50081

科目ナンバリング :

主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 生涯学習概論I(Survey of Lifelong Education I)

担当者 : 藤原 昌樹

#### 基本情報

年次 : カリキュラム

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 月曜5限

履修可能学科・専攻 : E Pe Pc C

関連資格 : 社教 学芸

AL要素 : 10 資料調査課題

**授業の概要 :** 「生涯学習概論」は、生涯学習全般について理解を深めるとともに、生涯学習・社会教育の専門的な支援職員である学校教員・社会教育主事・学芸員・社会教育士等として活躍するために必要な考え方や知識、能力の基礎を培うことを目的としており、「生涯学習概論Ⅰ」と「生涯学習概論Ⅱ」に分かれている。

本講義「生涯学習概論Ⅰ」は、生涯学習に関する総論的な内容で構成し、生涯学習の理念、生涯学習論、生涯学習政策(史)を中心にして講義を行う。

この授業を通して、これまでの自らの教育体験を振り返り、今後の自分自身の「生き方」を探ることもこの授業の目的である。

**キーワード :** 生涯学習, 社会教育施設, 青少年教育施設, 学習課題, 学習機会, 学習相談

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標 :** 生涯学習にかかわるさまざまな法令の内容、生涯学習の理念、今日的な課題などについて説明することができる。

**評価方法 :** 課題レポート  
学期末試験

**評価割合 :** 70%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標 :** 生涯学習にかかわる事象について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的に自らの所見を表現することができる。

**評価方法 :** 課題レポート

**評価割合 :** 30%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、課題レポートや学期末試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合 :** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が、課題レポートや学期末試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合 :** 0%

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言や課題レポート、学期末試験の記述内容等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象になる。

**評価割合 :** 0%

##### ▼ その他

特になし

**評価割合 :** 特になし

**授業計画 :** 1. 生涯学習とは何か(1) 講義のガイダンスと生涯学習の定義(シラバス使用)

2. 生涯学習とは何か(2) 生涯学習の現状
3. 生涯学習の理念(1) 生涯学習論の登場
4. 生涯学習の理念(2) 生涯学習論の源流
5. 生涯学習の理念(3) 行政の基本的理解
6. 生涯学習の理念(4) 生涯学習理念の基本的理解
7. 生涯学習論の展開
8. 日本の生涯学習政策(1) 1970年代の展開
9. 日本の生涯学習政策(2) 1980年代の展開
10. 日本の生涯学習政策(3) 1990年代から現代までの展開
11. 生涯学習の現代的な課題(1) 生涯学習とボランティア
12. 生涯学習の現代的な課題(2) 生涯学習と高等教育
13. 生涯学習の現代的な課題(3) 生涯学習と高齢者
14. 生涯学習の現代的な課題(4) 生涯学習とキャリア形成
15. 講義のまとめと今後の学習課題

**使用テキスト:** なし。  
毎時間レジュメを配付し、必要に応じて、印刷資料、映像資料を使用する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる(90分)。講義の終わりに、次回学習する内容のキーワードを提示するので、その概要を調べておくことにより深く理解することができる。授業後、配付資料について復習するとともに、関連する事項について自主学修により知見を深めることが望ましい(90分)。  
参考書:渡邊洋子編『生涯学習概論』(ミネルヴァ書房, 2014年)  
その他、授業時に提示する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

**授業時間外の連絡手段:** 授業時に連絡する。

**留意事項:** 各時間ごとに課題が課せられるので、継続的な出席が求められる。

**科目コード:** 50082      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 生涯学習概論II(Survey of Lifelong Education II)

**担当者:** 藤原 昌樹

#### 基本情報

**年次:** カリキュラム

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 月曜5限

**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C

**関連資格:** 社教 学芸

**AL要素:** 10 資料調査課題

**授業の概要:** 「生涯学習概論」は、生涯学習全般について理解を深めるとともに、生涯学習・社会教育の専門的な支援職員である学校教員・社会教育主事・学芸員・社会教育士等として活躍するために必要な考え方や知識、能力の基礎を培うことを目的としており、「生涯学習概論Ⅰ」と「生涯学習概論Ⅱ」に分かれている。

本講義「生涯学習概論Ⅱ」は、生涯学習の中心領域である「社会教育」について理解を深めるため、社会教育に関する総論的な内容で構成し、社会教育の概念、社会教育と生涯学習論との関係、生涯学習計画、生涯学習(社会教育)施設論等を中心にして講義を行う。

この授業を通して、これまでの自らの教育体験を振り返り、今後の自分自身の「生き方」を探ることもこの授業の目的である。

**キーワード:** 生涯学習, 社会教育施設, 青少年教育施設, 学習課題, 学習機会, 学習相談

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 社会教育にかかわるさまざまな法令の内容、施設の機能、専門的支援職員の役割などについて

て説明することができる。

**評価方法：** 課題レポート  
学期末試験

**評価割合：** 70%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 生涯学習にかかわる事象について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的に自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** 課題レポート

**評価割合：** 30%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、課題レポートや学期末試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が、課題レポートや学期末試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言や課題レポート、学期末試験の記述内容等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象になる。

**評価割合：** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

- 授業計画：**
1. 講義のガイダンス、生涯学習と社会教育(シラバス使用)
  2. 生涯学習の設計
  3. 生涯学習の内容と方法
  4. 生涯学習と成人教育論
  5. 生涯学習施設(1) 生涯学習センター、公民館
  6. 生涯学習施設(2) 博物館、図書館
  7. 生涯学習施設(3) 青少年教育施設
  8. 生涯学習としての家庭教育の課題
  9. 生涯学習としての学校教育の課題
  10. 生涯学習としての社会教育の課題
  11. 生涯学習の支援者(1) 専門的な職員論
  12. 生涯学習の支援者(2) 行政委嘱支援者論
  13. 学習情報提供の意義
  14. 学習相談の意義
  15. 講義のまとめと今後の学習課題

**使用テキスト：** なし。

毎時間レジュメを配付し、必要に応じて、印刷資料、映像資料を使用する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**

授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる(90分)。

講義の終わりに、次回学習する内容のキーワードを提示するので、その概要を調べておくことにより深く理解することができる。授業後、配付資料について復習するとともに、関連する事項について自主学修により知見を深めることが望ましい(90分)。

参考書: 渡邊洋子編『生涯学習概論』(ミネルヴァ書房, 2014年)

その他、授業時に提示する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

**授業時間外の連絡手段:** 授業時に連絡する。

**留意事項:** 各時間ごとに課題が課せられるので、継続的な出席が求められる。

---

**科目コード:** 50085      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 社会教育演習(Social Education Seminar)

**担当者:** 藤原 昌樹

#### 基本情報

**年次:** 3

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 月曜4限

**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C

**関連資格:** 社教

**AL要素:** 04 課題解決

07 発表

10 資料調査課題

**授業の概要:** 「社会教育演習」は、生涯学習・社会教育の専門的な支援職員である学校教員・社会教育主事・学芸員・社会教育士等として活躍するために必要な考え方や知識、能力を、実践的に培うことを目的としている。

本講義は、自身が居住する地域の地域課題を掘り起こし、課題解決に向けた社会教育事業を立案・プレゼンテーションする。地域を見る視点と社会教育事業立案のプロセスを習得することにより、地域における学習支援者としての実践的な能力を養成する。

**キーワード:** 地域課題, 課題解決, 事業立案

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 地域の課題解決に向けた社会教育事業の立案および発表をとおして、社会教育主事および社会教育士に必要な資質を養い、職務を遂行するために求められる実践的な能力を身につけることができる。

**評価方法:** 課題レポート  
学期末試験

**評価割合:** 70%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 地域に存在する課題を掘り起こし、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的に自らの所見を表現することができる。  
また、課題解決の方策を検討し、事業を立案することができる。

**評価方法:** 課題レポート

**評価割合:** 30%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、課題レポートや学期末試験の記述内容、社会教育事業の立案および発表に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が、課題レポートや学期末試験の記述内容、社会教育事業の立案および発表に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言や課題レポート、学期末試験の記述内容、社会教育事業の立案および発表等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象になる。

評価割合：0%

### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
1. 講義のガイダンス(シラバス使用)
  2. 地域課題の把握(1) 地域の分析
  3. 地域課題の把握(2) 地域課題とは
  4. 地域課題の把握(3) 地域の課題を探る
  5. 地域課題の把握(4) 地域課題の把握
  6. 社会教育事業の立案(1) 地域課題の分析
  7. 社会教育事業の立案(2) 課題解決策の検討
  8. 社会教育事業の立案(3) 事業化の検討
  9. 社会教育事業の立案(4) 学習支援者との連携・協働の検討
  10. 社会教育事業の立案(5) 学習展開計画の検討
  11. 社会教育事業の立案(6) 事業シートの作成
  12. 社会教育事業の立案(8) プレゼンテーション
  13. 社会教育事業の立案(8) プレゼンテーションの評価
  14. 社会教育事業の立案(9) 事業の振り返り
  15. 講義全体のまとめと今後の学習課題

**使用テキスト：** なし。

毎時間レジュメを配付し、必要に応じて、印刷資料、映像資料を使用する。

**予習・復習のポイントと** 授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる(90分)。

**参考文献・資料等：** 講義の終わりに、次回学習する内容のキーワードを提示するので、その概要を調べておく  
とより深く理解することができる。授業後、配付資料について復習するとともに、関連する事項  
について自主学修により知見を深めることが望ましい(90分)。

参考書:特になし。授業時に提示する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

**授業時間外の連絡手段：** 授業時に連絡する。

**留意事項：** 各時間ごとに課題が課せられるので、継続的な出席が求められる。

---

科目コード：50089      科目ナンバリング：      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：特別支援教育 a(Special Needs Education a)

担当者：齋藤 遼太郎

### 基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜5限

履修可能学科・専攻：ECWFNM

関連資格：教職

AL要素：03. 実験・実技・体験  
08. 協同学修  
11. 討論  
16. 振り返り用紙と応答  
17. 発問と回答

**授業の概要：** 中学校や高等学校の通常の学級に在籍している発達障害をはじめとする様々な障害により特別の支援を必要とする生徒について、各障害の特性や学習の過程と支援の方法について述べる。更に、「個別の指導計画」や平成30年度から高等学校においても導入されている「通級による指導」などといった特別支援教育の制度・教育課程の基礎的事柄に加え、障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒の学習上・生活上の困難と支援についても述べる。

毎回の授業は、原則として、「導入・展開1・展開2・まとめ」の流れで行う。導入では、前回の授業で学生が提出した「グループワークシート」の内容に関する評価コメントを「グループワーク振り返りシート」を用いて行う。展開1では、毎回の単元について、「授業予習ワークシート」に沿って基礎的知識を説明する(視覚的理解を促すためにパワーポイントを活用する)。このとき受講生に発言を求めながら進める。展開2では、グループワークを行い、「グループワークシート」に各自が必要なメモを取りながら議論を展開させ、自らの考えを整理する。まとめでは、本時の授業のまとめと、次回の単元について説明する。

**キーワード：** 障害児、特別支援教育、インクルージョン、支援システム、思春期

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標：** 通常の学級に在籍している発達障害等により特別の支援を必要とする生徒の特性と支援方法に加え、中学校・高等学校における特別支援教育制度の基礎的事項について概ね80%説明することができる。

**評価方法：** 学期末筆記試験

**評価割合：** 60%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 特別の支援を必要とする生徒に求められる個別の教育的ニーズについて、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を整理し、発表することができる。

**評価方法：** グループワークシート

**評価割合：** 40%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業で取り組む「グループワークシート」において、自主学修によって得た知見や経験が記載される場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 第1回: ガイダンス インクルーシブ教育システムの理念と仕組み  
第2回: 特別支援教育の歴史—特殊教育から特別支援教育への転換と発展—  
第3回: 特別支援教育コーディネーター及び関係機関(就労、進学支援を含む)や家庭との連携  
第4回: 中学校・高等学校における特別支援教育の教育課程—通級による指導及び自立活動—  
第5回: 個別の指導計画と個別の教育支援計画の作成と活用

- 第6回: 限局性学習障害(LD)のある生徒の理解と支援方法
  - 第7回: 注意欠如多動性障害(ADHD)のある生徒の理解と支援方法
  - 第8回: 自閉症スペクトラム障害のある生徒の理解と支援方法
  - 第9回: 情緒障害や言語障害のある生徒の理解と支援方法
  - 第10回: 軽度知的障害のある生徒の理解と支援方法
  - 第11回: 感覚障害(視覚障害、聴覚障害)のある生徒の理解と支援方法
  - 第12回: 運動障害(肢体不自由、発達性協調運動障害)のある生徒の理解と支援方法
  - 第13回: 病弱児の理解と支援方法及び二次障害(心身症、不登校)を示した児童への対応
  - 第14回: 母国語や貧困の問題等に伴う特別の教育的ニーズのある生徒の理解と支援方法
  - 第15回: 思春期特有の特別の支援を必要とする生徒の心理特性と支援(思春期と発達障害)
- 定期試験

**使用テキスト:** 授業者が独自に作成したワークシートをもとに授業を進める。加えて、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、教育小六法を使用する(紙媒体の購入は自由)。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** この授業は、およそ90分の予習を毎回必要とするワークシートを用いる。予習では、毎回の授業の終わりに配布する次回の「授業予習ワークシート」を熟読し、そこにある課題に回答する。当日の授業はこれを行ってきていることを前提として講義を進める。また、返却された前回の「グループワークシート」に記入される授業者のコメントを読み、自らの考えを再整理するとともに、授業で用いたワークシートに目を通し、基礎的知識について復習する。参考文献については、授業中に随時紹介する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** 特になし

**科目コード:** 50089      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 特別支援教育 b(Special Needs Education b)

**担当者:** 齋藤 遼太郎

**基本情報**

**年次:** 2

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 火曜2限

**履修可能学科・専攻:** E C W F N M

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 03. 実験・実技・体験

08. 協同学修

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

**授業の概要:** 中学校や高等学校の通常の学級に在籍している発達障害をはじめとする様々な障害により特別の支援を必要とする生徒について、各障害の特性や学習の過程と支援の方法について述べる。更に、「個別の指導計画」や平成30年度から高等学校においても導入されている「通級による指導」などといった特別支援教育の制度・教育課程の基礎的事柄に加え、障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒の学習上・生活上の困難と支援についても述べる。

毎回の授業は、原則として、「導入・展開1・展開2・まとめ」の流れで行う。導入では、前回の授業で学生が提出した「グループワークシート」の内容に関する評価コメントを「グループワーク振り返りシート」を用いて行う。展開1では、毎回の単元について、「授業予習ワークシート」に沿って基礎的知識を説明する(視覚的理解を促すためにパワーポイントを活用する)。このとき受講生に発言を求めながら進める。展開2では、グループワークを行い、「グループワークシート」に各自が必要なメモを取りながら議論を展開させ、自らの考えを整理する。まとめでは、本時の授業のまとめと、次回の単元について説明する。

**キーワード：** 障害児、特別支援教育、インクルージョン、支援システム、思春期

## 学位授与方針との関係

### ▼知識・技能

**到達目標：** 通常の学級に在籍している発達障害等により特別の支援を必要とする生徒の特性と支援方法に加え、中学校・高等学校における特別支援教育制度の基礎的事項について概ね80%説明することができる。

**評価方法：** 学期末筆記試験

**評価割合：** 60%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 特別の支援を必要とする生徒に求められる個別の教育的ニーズについて、論理的に思考し、他者の意見を聞きつつ、自分の意見を整理し、発表することができる。

**評価方法：** グループワークシート

**評価割合：** 40%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の授業で取り組む「グループワークシート」において、自主学修によって得た知見や経験が記載される場合は、上記の項目「思考力・表現力・判断力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

**評価割合：** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：**

- 第1回: ガイダンス インクルーシブ教育システムの理念と仕組み
- 第2回: 特別支援教育の歴史—特殊教育から特別支援教育への転換と発展—
- 第3回: 特別支援教育コーディネーター及び関係機関(就労、進学支援を含む)や家庭との連携
- 第4回: 中学校・高等学校における特別支援教育の教育課程—通級による指導及び自立活動—
- 第5回: 個別の指導計画と個別の教育支援計画の作成と活用
- 第6回: 限局性学習障害(LD)のある生徒の理解と支援方法
- 第7回: 注意欠如多動性障害(ADHD)のある生徒の理解と支援方法
- 第8回: 自閉症スペクトラム障害のある生徒の理解と支援方法
- 第9回: 情緒障害や言語障害のある生徒の理解と支援方法
- 第10回: 軽度知的障害のある生徒の理解と支援方法
- 第11回: 感覚障害(視覚障害、聴覚障害)のある生徒の理解と支援方法
- 第12回: 運動障害(肢体不自由、発達性協調運動障害)のある生徒の理解と支援方法
- 第13回: 病弱児の理解と支援方法及び二次障害(心身症、不登校)を示した児童への対応
- 第14回: 母国語や貧困の問題等に伴う特別の教育的ニーズのある生徒の理解と支援方法
- 第15回: 思春期特有の特別の支援を必要とする生徒の心理特性と支援(思春期と発達障害)

定期試験

**使用テキスト：** 授業者が独自に作成したワークシートをもとに授業を進める。加えて、中学校学習指導要領、高等学



校学習指導要領、教育小六法を使用する(紙媒体の購入は自由)。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** この授業は、およそ90分の予習を毎回必要とするワークシートを用いる。予習では、毎回の授業の終わりに配布する次回の「授業予習ワークシート」を熟読し、そこにある課題に回答する。当日の授業はこれを行ってきていることを前提として講義を進める。また、返却された前回の「グループワークシート」に記入される授業者のコメントを読み、自らの考えを再整理するとともに、授業で用いたワークシートに目を通し、基礎的知識について復習する。参考文献については、授業中に随時紹介する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項：** 特になし

---

**科目コード：**50090                      **科目ナンバリング：**                      **主な使用言語：**日本語|||

**授業名(英文)：**総合的な学習の時間の教育法 a(Integrated Study Education Methods a)

**担当者：**打越 正貴

**基本情報**

**年次：**3

**単位数：**2

**授業形式：**講義

**曜時：**水曜1限

**履修可能学科・専攻：**E Pe C W F N M

**関連資格：**教職

**AL要素：**11.討論

**授業の概要：** 総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範囲な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、実践事例を通して指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

**キーワード：** 思考力、主体的・対話的で深い学び、探求的な見方・考え方、横断的・総合的な学習、自己の生き方

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

**到達目標：** ・総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解できる。  
・総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けることができる。

**評価方法：** ・課題レポート

**評価割合：**50%

▼ **思考力・判断力・表現力**

**到達目標：** ・総合的な学習の時間の効果的な指導と評価の在り方について考察し、実践上の留意点を理解することができる。

**評価方法：** ・課題レポート

**評価割合：**50%

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果が課題レポートの記述内容により認められる場合は、上記に項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：**0%

▼ **実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果が課題レポート

トの記述内容により認められる場合は、上記に項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

**▼公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし、人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：0%**

**▼その他**

特になし。

**評価割合：特になし。**

- 授業計画：**
- 第1回：シラバスを用いたガイダンス・授業の概要と視点(思考力の育成を中心に)
  - 第2回：総合的な学習の時間の成立と現状・1(経験主義的な学習指導要領)
  - 第3回：総合的な学習の時間の成立と現状・2(系統主義的な学習指導要領)
  - 第4回：総合的な学習の時間の意義と原理・1(総合的な学習の時間が求めるもの)
  - 第5回：総合的な学習の時間の意義と原理・2(学習指導要領の改訂による授業改善)
  - 第6回：総合的な学習の時間における課題と解決方法
  - 第7回：総合的な学習の時間における指導方法(対話的な授業を中心として)
  - 第8回：総合的な学習の時間における効果的な学習形態
  - 第9回：総合的な学習の時間の指導と評価
  - 第10回：総合的な学習の時間の指導計画
  - 第11回：総合的な学習の時間の指導計画作成・1(全体計画)
  - 第12回：総合的な学習の時間の指導計画作成・2(単元指導計画)
  - 第13回：総合的な学習の時間の授業の実際・1(「思考力」育成の実践事例)
  - 第14回：総合的な学習の時間の授業の実際・2(VTRの視聴)
  - 第15回：総合的な学習の時間の課題と展望(まとめ)

**使用テキスト：**・打越正貴『主体的な学びを育む思考指導の理論と実践』(青簡社、2021年)  
ISBN:978-4-909181-29-9

・打越正貴、宮本浩紀『イメージからことばをひきだす「色と形」の授業づくりアイデア』(株式会社 ネットパブ・オーサーズプレス、2022年)ISBN:978-4-600-01106-2

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**

- ・前回及び今回の授業内容について、テキスト、レジュメなどで確認し、その回の授業テーマのわからない用語を調べる。
- ・授業後、テキストや配付資料について復習するとともに、関連事項について自主学修を通じ知見を深めるようにする。参考資料は、次の2点を推薦する。  
文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』(東洋館出版、2018)。  
文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』(東山書房、2018)。
- ・授業外学習に要する時間は90分を目安とする。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** 連絡は、IC-Mail を活用ください。

**留意事項：**・授業において、課題レポートがあるので、期日厳守で必ず提出してください。

---

**科目コード：50090**                      **科目ナンバリング：**                      **主な使用言語：日本語III**

**授業名(英文)：** 総合的な学習の時間の教育法 b(Integrated Study Education Methods b)

**担当者：** 打越 正貴

**基本情報**

**年次：** 3

**単位数：** 2

**授業形式：** 講義

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻： E Pe C W F N M

関連資格：教職

AL要素：11.討論

**授業の概要：** 総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範囲な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、実践事例を通して指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

**キーワード：** 思考力、主体的・対話的で深い学び、探求的な見方・考え方、横断的・総合的な学習、自己の生き方

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標：** ・総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解できる。  
・総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けることができる。

**評価方法：** ・課題レポート

**評価割合：** 50%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** ・総合的な学習の時間の効果的な指導と評価の在り方について考察し、実践上の留意点を理解することができる。

**評価方法：** ・課題レポート

**評価割合：** 50%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果が課題レポートの記述内容により認められる場合は、上記に項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果が課題レポートの記述内容により認められる場合は、上記に項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

#### ▼その他

特になし。

**評価割合：** 特になし。

**授業計画：** 第1回：シラバスを用いたガイダンス・授業の概要と視点(思考力の育成を中心に)  
第2回：総合的な学習の時間の成立と現状・1(経験主義的な学習指導要領)  
第3回：総合的な学習の時間の成立と現状・2(系統主義的な学習指導要領)  
第4回：総合的な学習の時間の意義と原理・1(総合的な学習の時間が求めるもの)  
第5回：総合的な学習の時間の意義と原理・2(学習指導要領の改訂による授業改善)  
第6回：総合的な学習の時間における課題と解決方法  
第7回：総合的な学習の時間における指導方法(対話的な授業を中心として)  
第8回：総合的な学習の時間における効果的な学習形態  
第9回：総合的な学習の時間の指導と評価

- 第10回:総合的な学習の時間の指導計画
- 第11回:総合的な学習の時間の指導計画作成・1(全体計画)
- 第12回:総合的な学習の時間の指導計画作成・2(単元指導計画)
- 第13回:総合的な学習の時間の授業の実際・1(「思考力」育成の実践事例)
- 第14回:総合的な学習の時間の授業の実際・2(VTRの視聴)
- 第15回:総合的な学習の時間の課題と展望(まとめ)

**使用テキスト:** ・打越正貴『主体的な学びを育む思考指導の理論と実践』(青簡社、2021年)  
ISBN:978-4-909181-29-9

・打越正貴、宮本浩紀『イメージからことばをひきだす「色と形」の授業づくりアイデア』(株式会社 ネットパブ・オーサーズプレス、2022年)ISBN:978-4-600-01106-2

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** ・前回及び今回の授業内容について、テキスト、レジュメなどで確認し、その回の授業テーマのわからない用語を調べる。  
・授業後、テキストや配付資料について復習するとともに、関連事項について自主学修を通じ知見を深めるようにする。参考資料は、次の2点を推薦する。  
文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』(東洋館出版、2018)。  
文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』(東山書房、2018)。  
・授業外学習に要する時間は90分を目安とする。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 連絡は、IC-Mail を活用ください。

**留意事項:** ・授業において、課題レポートがあるので、期日厳守で必ず提出してください。

**科目コード:** 50091      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 生徒指導論(Theory of Pupil Instruction)

**担当者:** 石崎 成人

**基本情報**

<b>年次:</b> 3	<b>単位数:</b> 1	<b>授業形式:</b> 講義
<b>曜時:</b> 火曜4限	<b>履修可能学科・専攻:</b> E Pe C W F N M	
<b>関連資格:</b> 教職	<b>AL要素:</b> 04:課題研究 08:協同学修 17:発問と回答	

**授業の概要:** 生徒指導の意義や特性を踏まえ、生徒指導の領域・機能に関する基礎的事項を押さえ、教師の役割と学校の指導体制の在り方について講義します。さらに、中学校教員としての実務経験を生かし、具体的な事例を通して生徒指導上の諸問題が低年齢化・深刻化している背景について明らかにします。そのうえで、生徒の望ましい人格を形成するために必要な支援や指導の在り方について考察します。  
【コロナウィルスの感染拡大による緊急事態宣言中は、同時双方向型の遠隔授業になります】

**キーワード:** 問題行動(いじめ, 不登校, 少年非行, 暴力行為), 情報モラル, 発達障害, インクルーシブ教育, 懲戒と体罰, アンガーマネジメント, 性行不良による出席停止, 自己肯定, 自尊感情, 児童相談所, 児童虐待

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

**到達目標:** 学校教育全体を通じて行う生徒指導の進め方について理解する。生徒指導上の諸問題について、その背景の理解を進め、問題解決に向けた実践的な対応の仕方を身に付ける。これらを概

ね80%論述することができる。

評価方法：レポート

評価割合：50%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**生徒理解、生徒や保護者との信頼関係の構築、問題解決の進め方、支援の在り方と関わり方等について、概ね80%の内容を論述できる。

評価方法：レポート

評価割合：50%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。ただし、授業中の発言や自主的な学習により自らの知見を高めることができたと認める場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価に加算します。

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。ただし、教育ボランティア等に参加して、生徒が抱える諸問題に触れたり、指導の様子を観察したりするなどして、教師の思いや教育現場の課題について知見を深め、レポート等による報告がなされた場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価に加算します。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、履修要覧に示されている「授業を受けるマナー」に触れる行為、人権侵害、差別的発言等があった場合には、厳重注意又は減点とします。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 第1回：ガイダンス、生徒指導の意義と役割について  
第2回：生徒指導の現状と課題について(1)近年の傾向の変化  
第3回：生徒指導の現状と課題について(2)課題解決の方策  
第4回：懲戒と体罰、アンガーマネジメントについて  
第5回：問題行動の理解と対応について(1)いじめ・不登校  
第6回：問題行動の理解と対応について(2)暴力行為・少年非行  
第7回：学校と家庭と関係機関との連携について  
第8回：自己肯定感や自尊感情の育成について

**使用テキスト：** 生徒指導提要(令和4年12月文部科学省)

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 生徒指導提要を熟読し、重要な個所に朱線を引き、インデックスを貼付しておくことが望ましい。特に、キーワードについては、その意味や内容を調べておくことにより講義内容の理解が進みます。また、生徒指導に関する情報や報道等を確認しておくことも大切です。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応します。事前に申し出てください。

**授業時間外の連絡手段：** 授業日に講師控室まで、または、授業前後に直接申し出てください。

**留意事項：** 欠席届は、事前に提出してください。公欠届は、事後になります。  
公共交通機関の遅延による遅刻の場合には、遅延証明を提示してください。

---

科目コード：50092

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：進路指導論(Theory of Career Guidance)

担当者：石崎 成人

基本情報

年次：3

単位数：1

授業形式：講義

曜時：火曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe C W F M

関連資格：教職

AL要素：04:課題研究

15:レポート指導

17:発問と回答

**授業の概要：** 進路指導の意義を踏まえ、その歴史や現状及び課題について講義します。さらに、進路指導の必要性について、学校から社会への移行をめぐる課題や生徒の生活・意識の変容を基に考察します。そして、望ましい勤労観や職業観の育成と発達課題に応じた進路指導の在り方について、中学校教員の実務経験を生かして、具体的な支援や取組ができるよう指導します。

【コロナウィルスの感染拡大による緊急事態宣言中は、同時双方向型の遠隔授業になります】

**キーワード：** 進路指導とキャリア教育、人間関係形成力、将来設計能力、情報活用能力、意思決定能力、出口指導、モラトリアム、進路指導主事

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標：** 進路指導の意義を踏まえ、実践的な進路指導の進め方について理解する。生徒の希望や課題に応じた指導方法等を理解する。これらの内容を概ね80%論述することができる。

**評価方法：** レポート

**評価割合：** 50%

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 効果的な進路指導について、授業の在り方や支援の方法等を考察することができる。これらについて、概ね80%論述することができる。

**評価方法：** レポート

**評価割合：** 50%

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。ただし、授業中の発言や自主的な学修により自らの知見を高めることができたと認める場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価に加算します。

**評価割合：** 0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。ただし、教育ボランティア等に参加して進路指導上の問題や課題等に触れ、その考察についてのレポートが提出された場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価に加算します。

**評価割合：** 0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、履修要覧に示されている「授業を受ける際のマナー」に触れる行為、人権侵害、差別的発言があった場合には、嚴重注意又は減点とします。

**評価割合：** 0%

#### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 第1回:ガイダンス、進路指導の意義について  
第2回:進路指導とキャリア教育について  
第3回:進路指導の現状と課題について(1)出口指導への傾斜  
第4回:進路指導の現状と課題について(2)課題解決の在り方  
第5回:進路指導の歴史について  
第6回:進路指導の方法について  
第7回:小学校におけるキャリア教育の取組について  
第8回:中学校における進路指導の取組について

**使用テキスト：** 中学校学習指導要領解説特別活動編(平成29年文部科学省)

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 中学校学習指導要領解説特別活動編を熟読し、重要な個所に朱線を引き、インデックスを貼付しておくことが望ましい。キーワードについては、その意味や内容を調べておくことで講義内容の理解が進みます。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応します。事前に申し出てください。

**授業時間外の連絡手段：** 授業日に講師控室まで、または、授業前後に直接申し出てください。

**留意事項：** 欠席届は、事前に提出してください。公欠届は、事後になります。  
公共交通機関の遅延による遅刻の場合は、遅延証明を提示してください。

---

**科目コード：50093**                      **科目ナンバリング：**                      **主な使用言語：日本語**

**授業名(英文)：社会科教育法I(Teaching of Social Studies I)**

**担当者：木村 勝彦**

**基本情報**

**年次：3**

**単位数：2**

**授業形式：講義**

**曜時：集中講義**

**履修可能学科・専攻：CWM**

**関連資格：教職**

**AL要素：07 発表**

11 討論

**授業の概要：** 中学校社会科の特色を理解し、その指導に必要な基本的知識及び実践的スキルの習得を目的とする。前半では中学校社会科の概略を講義し、その後、各分野についての授業を検討する。そして中学校の社会科のカリキュラム構造に対する検討を行い、その後現行カリキュラムの目標、内容について考察する。それを前提に各分野の授業記録を映像等で検討する。また前半最後には実地の社会科見学を行う。

**キーワード：** 中学校 社会科 指導計画 学習指導要領 授業検討

**学位授与方針との関係**

**▼知識・技能**

**到達目標：** 中学校社会科の特色を理解できる。中学校社会科の指導に必要な基本的知識を把握している。

**評価方法：** 授業内小レポート

**評価割合：30%**

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標：** 中学校社会科における各分野の特色について、その課題を理解し、実践につなぐことができる。

**評価方法：** 授業内小レポート

**評価割合：40%**

社会科教育法 I まとめのレポート

**▼学修に主体的に取り組む態度**

授業における意見表明、社会科見学に対する積極性

**評価割合：30%**

**▼実践的ボランティア**

直接的な評価の対象とはしない。

**評価割合：0%**

**▼公正性**

直接的な評価の対象とはしない。

**評価割合：0%**

## ▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

**授業計画：** 第1回 オリエンテーション  
第2回 中学校社会科の目標  
第3回 中学校社会科三分野の内容—地理的分野  
第4回 中学校社会科三分野の内容—歴史的分野  
第5回 中学校社会科三分野の内容—公民的分野  
第6回 中学校社会科における授業—地理的分野「世界各地の人々の生活と環境」  
第7回 中学校社会科における授業—地理的分野「世界の諸地域」  
第8回 中学校社会科における授業—歴史的分野「歴史的興味と現代的意義」  
第9回 中学校社会科における授業—歴史的分野「歴史における共感の意味」  
第10回 中学校社会科における授業—公民的分野「国民生活と経済」  
第11回 中学校社会科における授業—公民的分野「男女共生」  
第12回 中学校社会科と授業の課題  
第13回 社会科授業を考えるための実地見学①(場所未定)  
第14回 社会科授業を考えるための実地見学②(場所未定)  
第15回 社会科授業を考えるための実地見学③(場所未定)

**使用テキスト：** 文部科学省「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成29年告示)  
※必要なものは適宜、印刷・配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 講義内で配布した資料を確認すること。  
指導案作成については指示された方法に沿って行うこと。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応します。

**授業時間外の連絡手段：** 学務部に問い合わせてください。

**留意事項：** 授業には各自ノートパソコンやタブレット等を持ってきてください。資料配付は、原則、onlineで行います。  
社会科見学の場所については未定です。

---

科目コード：50094      科目ナンバリング：      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：社会科教育法II(Teaching of Social Studies II)

担当者：木村 勝彦

### 基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：集中講義

履修可能学科・専攻：CWM

関連資格：教職

AL要素：02模擬実践  
07 発表  
11 討論

**授業の概要：** 中学校社会科の特色を理解し、その指導に必要な基本的知識及び実践的技能の習得を目的とする。前半は社会科教育法 I での学習を前提に中学校社会科の指導案を作成し、模擬授業を行い、課題を考える。また後半最後にはまとめとして中学校社会科の歴史的検討を行い、その存在意義を確認する。

**キーワード：** 中学校 社会科 指導計画 学習指導要領 模擬授業 社会科の歴史的検討

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標：** 中学校社会科の特色を理解できる。中学校社会科の指導に必要な基本的知識を把握してい



る。

**評価方法:** 授業内小レポート

**評価割合:** 30%

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 中学校社会科における各分野の特色について、その課題を理解し、実践につなぐことができる。実際に授業計画を作成し、授業を実施することができる。

**評価方法:** 指導計画・指導案(含最終レポート)

**評価割合:** 40%

**▼学修に主体的に取り組む態度**

授業における意見表明、指導案作成等活動内容に対する積極性

**評価割合:** 30%

**▼実践的ボランティア**

直接的な評価の対象とはしない。

**評価割合:** 0%

**▼公正性**

直接的な評価の対象とはしない。

**評価割合:** 0%

**▼その他**

特になし。

**評価割合:** 特になし。

**授業計画:**

- 第1回 学習指導案の書き方・作成① 書式と基本的な作成方法
- 第2回 学習指導案の書き方・作成② 指導計画作成と事例
- 第3回 指導案作成のための準備①
- 第4回 指導案作成のための準備②
- 第5回 中学校社会科の模擬授業と検討①
- 第6回 中学校社会科の模擬授業と検討②
- 第7回 中学校社会科の模擬授業と検討③
- 第8回 中学校社会科の模擬授業と検討④
- 第9回 中学校社会科の模擬授業と検討⑤
- 第10回 中学校社会科の模擬授業と検討⑥
- 第11回 中学校社会科の模擬授業と検討⑦
- 第12回 模擬授業を終えての検討会
- 第13回 中学校社会科の本質① 社会科と持続可能な社会の成立①
- 第14回 中学校社会科の本質② 社会科と持続可能な社会の成立②
- 第15回 中学校社会科の本質③ 社会科と社会の課題

**使用テキスト:** 文部科学省「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成29年告示)  
※必要なものは適宜、印刷・配布します。

**予習・復習のポイントと** 講義内で配布した資料を確認すること。

**参考文献・資料等:** 指導案作成については指示された方法に沿って行うこと。

**障がいのある** 可能な限り対応します。  
**履修者への対応:**

**授業時間外の連絡手段:** 学務部に問い合わせてください。

**留意事項:** 授業には各自ノートパソコンやタブレット等を持ってきてください。資料配付は、原則、onlineで行います。  
模擬授業については履修人数によって共同立案になる場合があります。

---

**科目コード:** 50095

**科目ナンバリング:**

**主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 社会科・地理歴史科教育法I( Teaching of Social Studies / Geography and History I)

担当者: 郡司 丈児

#### 基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜5限

履修可能学科・専攻: C

関連資格: 教職

AL要素: グループワーク

**授業の概要:** 研究型わが国の社会科教育の歴史を確認するとともに、学習指導要領の内容を学び、生徒の深い学びを引き出す授業展開について、実践例を検討しながら指導案の作成を行い、模擬授業を行うことによって社会科・地歴科の教師として必要な能力・資質を養う。この間、アクティブラーニングの視点を重視し、なおかつICTの活用についても学ぶ。指導案の作成・検討を繰り返すことによって、わかる授業、楽しい授業づくりのノウハウを身に付ける。その際、授業を組み立てる専門的な知識をよく理解していなければならないことから、学ぶ内容の解説も行っていく。

**キーワード:** 学習指導要領、問題解決学習、探求型学習、学習指導案、模擬授業、郷土学習、フィールドワーク、地形図、歴史年表、歴史総合、地理総合、GIS、KJ法、KP法、ジグソー法、ワークシート

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 社会科教育の歴史を踏まえて、新学習指導要領の趣旨を理解できているか、とくにアクティブラーニングの視点から生徒を動かすことを想定した授業づくりができるか。また、その前提としての授業内容を消化しているか。

**評価方法:** 学期末の筆記試験

**評価割合:** 60%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり、課題の設定の工夫、深化学習上のヒントの出し方とくに資料の提示が適切になされるようになること。サイレントシンキングの活用ができること。

**評価方法:** 学期末の筆記試験

**評価割合:** 40%

授業中のワークシートまとめ

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

自主的な学修によって追加された知見が、学期末筆記試験の記述内容に反映されていると認められる場合は、上記の項目の「知識・技能」あるいは「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接評価対象とはしないが、ボランティアの体験が、定期試験や授業中のワークシートなどに成果が反映されていれば、評価対象となることもある。

**評価割合:** 0%

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし、人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

**評価割合:** 0%

##### ▼ その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回 社会科教育の歴史  
第2回 戦後教育の課題と新学習指導要領社会科編  
第3回 学習指導案の作成について基本を学ぶ

- 第4回 中学社会地理的分野の学習指導案づくりその1
  - 第5回 中学社会地理的分野の学習指導案づくりその2
  - 第6回 学習指導案の概略作成、とくに学習内容のまとめ方、板書の仕方(地理的分野)
  - 第7回 中学社会歴史的分野の学習指導案づくりその1
  - 第8回 中学社会歴史的分野の学習指導案づくりその2
  - 第9回 学習指導計画の概略作成と検討(歴史的分野)
  - 第10回 高校地歴科学習のねらいと学習指導要領
  - 第11回 高校地歴科地理の実践例検討
  - 第12回 高校地歴科世界史の実践例検討
  - 第13回 高校地歴科の新科目「歴史総合」とは
  - 第14回 高校地歴科日本史の実践例検討
  - 第15回 社会科・地歴科教育のまとめ
- 定期試験

**使用テキスト：** 学習指導要領中学校社会科解説

**予習・復習のポイントと  
参考文献・資料等：** ワークシートや授業で配布するプリントの復習

**障がいのある  
履修者への対応：** 可能な限り対応する。学務課にまず連絡ください。

**授業時間外の連絡手段：** 初回の授業で連絡する。

**留意事項：** なし

**科目コード：** 50096      **科目ナンバリング：**      **主な使用言語：** 日本語  
**授業名(英文)：** 社会科・地理歴史科教育法II( Teaching of Social Studies / Geography and History II)  
**担当者：** 郡司 丈児

**基本情報**

<b>年次：</b> 3	<b>単位数：</b> 2	<b>授業形式：</b> 講義
<b>曜時：</b> 水曜5限		<b>履修可能学科・専攻：</b> C
<b>関連資格：</b> 教職		<b>AL要素：</b> 討議 発表 模擬授業

**授業の概要：** この授業では、研究型わが国の社会科教育の歴史を確認するとともに、学習指導要領の内容を学び、生徒の深い学びを引き出す授業展開について、実践例を検討しながら指導案の作成を行い、模擬授業を行うことによって社会科・地歴科の教師として必要な能力・資質を養う。この間、アクティブラーニングの視点を重視し、なおかつICTの活用についても学ぶ。指導案の作成・検討を繰り返すことによって、わかる授業、楽しい授業づくりのノウハウを身に付ける。その際、授業を組み立てる専門的な知識をよく理解していなければならないことから、学ぶ内容の解説も行っていく。

**キーワード：** 学習指導要領、問題解決学習、探求型学習、学習指導案、模擬授業、郷土学習、フィールドワーク、地形図、歴史年表、歴史総合、地理総合、GIS、KJ法、KP法、ジグソー法、ワークシート

**学位授与方針との関係**

▼ **知識・技能**

**到達目標：** 社会科教育の歴史を踏まえて、新学習指導要領の趣旨を理解できているか、とくにアクティブラーニングの視点から生徒を動かすことを想定した授業づくりができるか。また、その前提としての授業内容を消化しているか。

**評価方法：** 学期末の筆記試験

**評価割合：** 60%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり、とくに課題の設定の工夫、深化学習上のヒントの出し方とくに資料の提示が適切になされるように少しでもなること。

**評価方法:** 学期末の筆記試験  
ワークシート

**評価割合:** 40%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

自主的な学修によって自身の知見に新たに追加された成果が学期末筆記試験の記述内容に反映されていると認められる場合は、上記の項目の「知識・技能」あるいは「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

**評価割合:** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見が学期末筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:**

- 第1回 中学校公民的分野とは
- 第2回 中学校公民的分野の学習指導案概略作成
- 第3回 中学校地理的分野の学習指導案の立案と模擬授業その1
- 第4回 中学校地理的分野の学習指導案の立案と模擬授業その2
- 第5回 中学校歴史的分野の学習指導案の立案と模擬授業その1
- 第6回 中学校歴史的分野の学習指導案の立案と模擬授業その2
- 第7回 高校歴史総合の学習指導案の立案
- 第8回 高校地理総合の学習指導案の立案
- 第9回 高校日本史の課題学習設定
- 第10回 高校世界史の課題学習設定
- 第11回 高校日本史の模擬授業
- 第12回 高校世界史の模擬授業
- 第13回 社会科・高校地歴科の接続についてその1
- 第14回 社会科・高校地歴科の接続についてその2
- 第15回 総復習と各自の今後における学修課題検討  
定期試験

**使用テキスト:** 学習指導要領中学校社会科解説

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** その都度提示するワークシートを中心に復習する

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するので学務課にまず連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 初回に連絡。

**留意事項:** なし

---

科目コード: 50097

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 社会科・公民科教育法I( Teaching of Social Studies / Civics I)

**担当者：** 郡司 文児

**基本情報**

**年次：** 3

**単位数：** 2

**授業形式：** 講義

**曜時：** 水曜4限

**履修可能学科・専攻：** WM

**関連資格：** 教職

**AL要素：** 討議

発表

模擬授業

**授業の概要：** 社会科教育の歴史を確認するとともに、学習指導要領の内容を学び、生徒の深い学びを引き出す授業展開について、実践例を検討しながら指導案の作成を行い、模擬授業を行うことによって社会科・公民科の教師として必要な能力・資質を養う。この間、アクティブラーニングの視点を重視し、なおかつICTの活用についても学ぶ。指導案の作成・検討を繰り返すことによって、わかる授業、楽しい授業づくりのノウハウを身に付ける。その際、授業を組み立てる専門的な知識をよく理解していなければならないことから、学ぶ内容の解説も行っていく。

**キーワード：** 学習指導要領、問題解決学習、探求型学習、学習指導案、模擬授業、日本国憲法、日本経済、世界経済、新興国、先進国、金融市場、KJ法、KP法、ジグソー法、ワークシート

**学位授与方針との関係**

**▼ 知識・技能**

**到達目標：** 社会科教育の歴史を踏まえて、新学習指導要領の趣旨を理解できているか、とくにアクティブラーニングの視点から生徒を動かすことを想定した授業づくりができるか。また、その前提としての授業内容を消化しているか。

**評価方法：** 学期末の筆記試験

**評価割合：** 60%

**▼ 思考力・判断力・表現力**

**到達目標：** 思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり、とくに課題の設定の工夫、深化学習上のヒントの出し方とくに資料の提示が適切になされるように少しでもなること。

**評価方法：** 学期末試験  
ワークシート

**評価割合：** 40%

**▼ 学修に主体的に取り組む態度**

自主的な学修によって自身の知見に新たに追加された成果が学期末筆記試験の記述内容に反映されていると認められる場合は、上記の項目の「知識・技能」あるいは「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

**評価割合：** 0%

**▼ 実践的ボランティア**

直接的な評価対象としない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見が学期末筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

**評価割合：** 0%

**▼ 公正性**

直接的な評価対象としない。ただし、人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

**評価割合：** 0%

**▼ その他**

特になし

**評価割合：** 特になし

**授業計画：** 第1回 社会科教育の歴史  
第2回 戦後教育の課題と新学習指導要領社会科編

- 第3回 学習指導案の作成について基本を学ぶ
  - 第4回 中学社会公民的分野の学習指導案づくりその1
  - 第5回 中学社会公民的分野の学習指導案づくりその2
  - 第6回 学習指導案の概略作成、とくに学習内容のまとめ方、板書の仕方(公民的分野)
  - 第7回 中学社会歴史的分野の学習指導案づくり
  - 第8回 中学社会地理的分野の学習指導案づくり
  - 第9回 学習指導計画の概略作成と検討
  - 第10回 高校倫理のねらいと学習指導要領
  - 第11回 高校政治・経済の実践例検討
  - 第12回 高校公共とは
  - 第13回 高校公共の実践例
  - 第14回 高校現代社会の実践例検討
  - 第15回 中学校公民的分野の総復習
- 定期試験

**使用テキスト：** 学習指導要領中学校社会科解説

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 日本国憲法の理解、時事的な記事、授業のワークシート、配付プリントの整理

**障がいのある履修者への対応：** できるだけ対応するので、学務課にまず連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** 初回に連絡する。

**留意事項：** 特になし

**科目コード：** 50098      **科目ナンバリング：**      **主な使用言語：** 日本語

**授業名(英文)：** 社会科・公民科教育法II( Teaching of Social Studies / Civics II)

**担当者：** 郡司 丈児

#### 基本情報

**年次：** 3      **単位数：** 2      **授業形式：** 講義

**曜時：** 水曜4限      **履修可能学科・専攻：** WM

**関連資格：** 教職      **AL要素：** 討議  
発表  
模擬授業

**授業の概要：** わが国の社会科教育の歴史を確認するとともに、学習指導要領の内容を学び、生徒の深い学びを引き出す授業展開について、実践例を検討しながら指導案の作成を行い、模擬授業を行うことによって社会科・公民科の教師として必要な能力・資質を養う。この間、アクティブラーニングの視点を重視し、なおかつICTの活用についても学ぶ。指導案の作成・検討を繰り返すことによって、わかる授業、楽しい授業づくりのノウハウを身に付ける。その際、授業を組み立てる専門的な知識をよく理解していなければならないことから、学ぶ内容の解説も行っていく。

**キーワード：** 学習指導要領、問題解決学習、探求型学習、学習指導案、模擬授業、日本国憲法、日本経済、世界経済、新興国、先進国、金融市場、KJ法、KP法、ジグソー法、ワークシート

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 社会科教育の歴史を踏まえて、新学習指導要領の趣旨を理解できているか、とくにアクティブラーニングの視点から生徒を動かすことを想定した授業づくりができるか。また、その前提としての授業内容を消化しているか。

**評価方法：** 学期末の筆記試験

**評価割合：** 60%

### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり、とくに課題の設定の工夫、深化学習上のヒントの出し方とくに資料の提示が適切になされるように少しでもなること。

**評価方法:** 学期末の筆記試験  
ワークシート

**評価割合:** 40%

### ▼学修に主体的に取り組む態度

自主的な学修によって自身の知見に新たに追加された成果が学期末筆記試験の記述内容に反映されていると認められる場合は、上記の項目の「知識・技能」あるいは「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

**評価割合:** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見が学期末筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

**評価割合:** 0%

### ▼その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:**

- 第1回 中学校公民的分野とは、そのねらい
- 第2回 中学校公民的分野の学習指導案概略作成その1
- 第3回 中学校公民的分野の学習指導案の立案と模擬授業その1
- 第4回 中学校公民的分野の学習指導案の立案と模擬授業その2
- 第5回 中学校公民的分野の学習指導案の立案と模擬授業その3
- 第6回 中学校公民的分野の学習指導案の立案と模擬授業その4
- 第7回 高校政治経済の学習指導案の立案
- 第8回 高校倫理の学習指導案の立案
- 第9回 高校現代社会の課題学習設定その1
- 第10回 高校現代社会の課題学習設定その2
- 第11回 高校現代社会のアクティブ・ラーニングとは
- 第12回 高校現代社会の模擬授業検討会
- 第13回 中学校公民的分野と高校現代社会の接続
- 第14回 中学校公民的分野と高校政治社会の接続
- 第15回 総復習と各自の今後における学修課題検討  
定期試験

**使用テキスト:** 学習指導要領中学校社会科解説

**予習・復習のポイントと** 授業プリントの復習  
**参考文献・資料等:** 時事的な記事の収集

**障がいのある履修者への対応:** できるだけ対応するので学務課にまず連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 初回に連絡。

**留意事項:** 特になし

科目コード : 50099

科目ナンバリング :

主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 福祉科教育法I( Teaching of Social Welfare I)

担当者 : 望月 珠美

#### 基本情報

年次 : 3

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 水曜2限

履修可能学科・専攻 : W

関連資格 : 教職

AL要素 : 02.模擬実践

07.発表

11.討論

14.輪読活動

16.振り返り用紙と応答

17.発問と回答

**授業の概要 :** 学習指導要領および同解説を材料として高校福祉科設置の背景とともに教科「福祉」および各科目のねらいを理解する。あわせて、教授法に関する具体的な知識と技術の獲得をめざし、模擬授業や教材作成を行う。

**キーワード :** 対人援助職 キャリア発達 福祉マインド コミュニケーション 授業指導案 教材研究 模擬授業 評価

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標 :** 社会福祉に関する専門知識と技術を土台として、高等学校教育において教科「福祉」を学びとして展開していくために必要となる教授法に関する知識と技術を獲得する。

**評価方法 :** 発表

**評価割合 :** 50%

期末レポート

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標 :** 講義で扱った内容とあわせて関連する学修や体験を通して得られた知見に基づいて、教育のねらいに即した授業を展開することができる。

**評価方法 :** 発表

**評価割合 :** 50%

期末レポート

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に加味された成果等が発表(模擬授業実践)において顕著に認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

**評価割合 :** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が発表(模擬授業実践)や期末レポートに顕著に認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

**評価割合 :** 0%

##### ▼ 公正性

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、児童・生徒の人権や多様な価値観に対する配慮を欠く言動については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

**評価割合 :** 0%

##### ▼ その他



特になし。

評価割合：特になし。

**授業計画：** 第1回：福祉教育の理念－基盤となる考え方とその理解－  
第2回：福祉教育の歴史－先人の歩みと変遷を知る－  
第3回：福祉教育の展開と実践－現職福祉科教員による講話－  
第4回：教科「福祉」の位置づけと意義－「介護」および福祉文化の観点から－  
第5回：教科「福祉」の構成と目的－学習指導要領の意味と活用－  
第6回：教科「福祉」の内容・方法・評価－各科目の特性と関連性の理解－  
第7回：各科目の理解：「社会福祉基礎」の内容と課題  
第8回：各科目の理解：「介護福祉基礎」の内容と課題  
第9回：各科目の理解：「コミュニケーション技術」の内容と課題  
第10回：各科目の理解：「生活支援技術」の内容と課題  
第11回：各科目の理解：「介護過程」の内容と課題  
第12回：各科目の理解：「介護総合演習」の内容と課題  
第13回：各科目の理解：「介護実習」の内容と課題  
第14回：各科目の理解：「こころとからだの理解」の内容と課題  
第15回：各科目の理解：「福祉情報活用」の内容と課題

試験もしくはレポート

**使用テキスト：** 文部科学省『高等学校学習指導要領解説-福祉編-』最新版、実教出版他  
その他、必要に応じて適宜紹介する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 教科「福祉」は内容が多岐に渡るため、授業時間外においても関連分野について主体的かつ継続的な取り組みが求められる。本学においては、社会福祉士国家試験受験資格取得に対応したカリキュラムを修めることで専門性の土台がつけられるため、該当する資格をあわせて修得することを推奨する。また本科に特化した介護技術等については、本学のカリキュラムにおける学びに加えて支援施設等におけるボランティア活動や養成講座等の受講を受講し、技術の習熟を図ることが望ましい。

**障がいのある履修者への対応：** ニーズに応じた多様な支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部にご相談ください。

**授業時間外の連絡手段：** 原則としてオフィスアワーに担当者研究室(大学6号館4階6415研究室)で対応します。オフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。

**留意事項：** 外部講師を招聘しての講義にあたっては、実施時間が通常の授業とは異なる場合があります。

---

科目コード：50100

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：福祉科教育法II( Teaching of Social Welfare II)

担当者：望月 珠美

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：教職

AL要素：02.模擬実践

07.発表

11.討論

14.輪読活動

16.振り返り用紙と応答

17.発問と回答

**授業の概要：** 学習指導要領および同解説を材料として高校福祉科設置の背景とともに教科「福祉」および

各科目のねらいを理解する。あわせて、教授法に関する具体的な知識と技術の獲得をめざし、模擬授業や教材作成を行う。

**キーワード：** 対人援助職 キャリア発達 福祉マインド コミュニケーション 授業指導案 模擬授業 評価

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 社会福祉に関する専門知識と技術を土台として、高等学校教育において教科「福祉」を学びとして展開していくために必要となる教授法に関する知識と技術を獲得する。

**評価方法：** 発表

**評価割合：** 50%

期末レポート

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 講義で扱った内容とあわせて関連する学修や体験を通して得られた知見に基づいて、教育のねらいに即した授業を展開することができる。

**評価方法：** 発表

**評価割合：** 50%

期末レポート

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、自主的な学習によって自身の知見に加味された成果等が発表(模擬授業実践)において顕著に認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

**評価割合：** 0%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が発表(模擬授業実践)や期末レポートに顕著に認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、児童・生徒の人権や多様な価値観に対する配慮を欠く言動については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

特になし。

**評価割合：** 特になし。

**授業計画：** 第1回:福祉教育と評価—評価の目的と方法—  
第2回:福祉科に学ぶ高校生の現状(『介護総合演習』の実際についての学びを通して)—  
第3回:教材研究—高齢福祉分野—  
第4回:教材研究—障害福祉分野—  
第5回:教材研究—児童・家庭福祉分野—  
第6回:教材研究—地域福祉分野—  
第7回:模擬授業「社会福祉基礎」(情報機器と教材の活用を含む)  
第8回:模擬授業「介護福祉基礎」(情報機器と教材の活用を含む)  
第9回:模擬授業「コミュニケーション技術」(情報機器と教材の活用を含む)  
第10回:模擬授業「生活支援技術」(情報機器と教材の活用を含む)  
第11回:模擬授業「介護過程」「介護実習」(情報機器と教材の活用を含む)  
第12回:模擬授業「こころとからだの理解」(情報機器と教材の活用を含む)  
第13回:模擬授業の振り返り(総合評価)  
第14回:職業的および教育的レリバンスと福祉教育  
第15回:まとめ—生徒主体の授業展開とそのファシリテイト—

試験もしくはレポート

**使用テキスト：** 文部科学省『高等学校学習指導要領解説-福祉編-』最新版、実教出版他

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 教科「福祉」は内容が多岐に渡るため、授業時間外においても関連分野について主体的かつ継続的な取り組みが求められる。本学においては、社会福祉士国家試験受験資格取得に対応したカリキュラムを修めることで専門性の土台がつけられるため、該当する資格をあわせて修得することを推奨する。また本科に特化した介護技術等については、本学のカリキュラムにおける学びに加えて支援施設等におけるボランティア活動や養成講座等の受講を受講し、技術の習熟を図ることが望ましい。

**障がいのある履修者への対応：** ニーズに応じた多様な支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部にご相談ください。

**授業時間外の連絡手段：** 原則としてオフィスアワーに担当者研究室(大学6号館4階6415研究室)で対応します。オフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。

**留意事項：** 外部講師を招聘しての講義にあたっては、実施時間が通常の授業とは異なる場合があります。

---

**科目コード：**50101      **科目ナンバリング：**      **主な使用言語：**日本語

**授業名(英文)：**日本語教育実習B(Practicum in Teaching Japanese B)

**担当者：**中山 健一

#### 基本情報

**年次：**3

**単位数：**1

**授業形式：**実習

**曜時：**前期(実習)、後期(実習)

**履修可能学科・専攻：**E Pe Pc C

**関連資格：**日本語

**AL要素：**01実地訓練

#### 授業の概要：【重要】

コロナウイルス感染拡大状況によっては、実習内容、実習先、実習期間を大幅に変更することがある。

最新情報は、UNIPA等の掲示を参照のこと。

本学で開講されている留学生向け「外国語としての日本語」科目(前期4つ+後期4つ=合計8つ)のいずれか1つを選択し、その授業に「アシスタント」として参加する。

**キーワード：**日本語教師 教育実習

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

###### 到達目標：

実際に留学生の日本語授業に参加することで、日本語の教え方、授業のし方を身につける。

**評価方法：**実習記録、レポート

**評価割合：**50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**留学生は学びの過程で何に困難を感じるか、何が必要かなど、さまざまなことに気づく。

**評価方法：**実習記録、レポート

**評価割合：**50%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

大前提であるため、評価割合には含めない。当然ながら、学修に主体的に取り組む態度がなければ単位の取得は極めて困難である。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

大前提であるため評価割合には含めない。実習先で留学生の学習を支援する際、自発的に協力する姿勢・態度は必ず求められる。

評価割合：0%

▼公正性

大前提であるため評価割合には含めない。実習先で学習者を支援する際、学習者・実習先の指導者など他者に誠意をもって接することは必ず求められる。また、様々な背景や考えをもった人たちを受け入れる寛容さは必須である。

評価割合：0%

▼その他

なし

評価割合：なし

**授業計画：** 原則として、自分が選択した「外国語としての日本語」の授業全15回に出席する。  
(前期、または、後期)  
具体的な内容は実習先の日本語授業担当教員の指示に従うこと。

**使用テキスト：** 実習先の日本語授業担当教員から指示があった場合、その指示に従うこと。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 実習先の日本語授業担当教員から指示があった場合、授業に必要な事前準備や、授業外での留学生への支援をきちんと行うこと。  
毎回の実習ごとに、実習記録を書き実習担当教員に提出すること。  
実習終了後、レポートを書き実習担当教員に提出すること。

**障がいのある履修者への対応：** 申し出があれば対応する。事前に学務部に相談すること。

**授業時間外の連絡手段：** メールにて連絡すること。  
nakayama[at]icc.ac.jp [at]→@

**留意事項：** 【重要】

当該年度の実習履修者は年度初めの説明会に必ず参加すること。  
(実習内容の説明のほか、実習をする学期・曜日・時限の希望聞き取りと調整を行なう)  
やむを得ない理由により参加できない場合は、事前に中山に連絡すること。

本授業を履修するためには、前年度までに「日本語教育概論」を修得していること。

---

科目コード：50102      科目ナンバリング：      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：生涯学習支援論I

担当者：藤原 昌樹

**基本情報**

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C

関連資格：社教

AL要素：10 資料調査課題

**授業の概要：** 「生涯学習支援論」は、社会教育主事および社会教育士として必要な、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識および技能を修得することを目的としており、「生涯学習支援論I」と「生涯学習支援論II」に分かれている。

「生涯学習支援論I」は、子どもから高齢者までの学習支援方法や学習支援に関する教育理論等の内容を中心に講義を行う。

**キーワード：** 生涯学習, 学習支援, ファシリテーション能力

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識および技能を修得するとともに、学習者の力を引き出し、主体的な参画をうながすファンリテーション能力を身につけることができる。

**評価方法:** 課題レポート  
学期末試験

**評価割合:** 70%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 生涯学習を支援する方策について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的に自らの所見を表現することができる。

**評価方法:** 課題レポート

**評価割合:** 30%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、課題レポートや学期末試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

### ▼ 実践的ボランティアリズム

直接的な評価対象とはしない。

ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が、課題レポートや学期末試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言や課題レポート、学期末試験の記述内容等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象になる。

**評価割合:** 0%

### ▼ その他

特になし

**評価割合:** 特になし

- 授業計画:**
1. 講義のガイダンス(シラバス使用)
  2. 生涯学習支援の理念と構造(1) 生涯学習の広がりを支える社会教育
  3. 生涯学習支援の理念と構造(2) 社会とつながる主体的な学び合いの支援
  4. 生涯学習支援の理念と構造(3) 生涯学習を支える学習支援者
  5. 生涯学習者を育む学習支援(1) 主体性が育つ学習支援
  6. 生涯学習者を育む学習支援(2) 社会生活が困難な子ども・若者の学習支援
  7. 生涯学習者を育む学習支援(3) 子どもとともにつくる社会
  8. 成人の学習を支える考え方(1) 社会教育に見る成人の学習
  9. 成人の学習を支える考え方(2) 社会をつくる成人の学び合い
  10. 生涯学習社会を志向した学び(1) 高齢者の特性と学習支援
  11. 生涯学習社会を志向した学び(2) 超高齢社会に生きる人々の生涯学習
  12. 学習支援者の役割と求められる能力(1) 学習支援者の種類と役割
  13. 学習支援者の役割と求められる能力(2) 学習支援者に求められる能力
  14. 学習支援に関する教育理論
  15. 講義のまとめと今後の学習課題

**使用テキスト:** なし。  
毎時間レジュメを配付し、必要に応じて、印刷資料、映像資料を使用する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる(90分)。  
講義の終わりに、次回学習する内容のキーワードを提示するので、その概要を調べておく  
とより深く理解することができる。授業後、配付資料について復習するとともに、関連する事項

について自主学修により知見を深めることが望ましい(90分)。  
参考書:鈴木眞理・津田英二編著『生涯学習の支援論』(学文社, 2003年)  
その他, 授業時に提示する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するので, まずは学務部等に連絡すること。

**授業時間外の連絡手段:** 授業時に連絡する。

**留意事項:** 各時間ごとに課題が課せられるので, 継続的な出席が求められる。

---

科目コード:50103      科目ナンバリング:      主な使用言語:日本語

授業名(英文):生涯学習支援論II

担当者:藤原 昌樹

#### 基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:月曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C

関連資格:社教

AL要素: 10 資料調査課題  
13 役割演技と疑似体験

**授業の概要:** 「生涯学習支援論」は, 社会教育主事および社会教育士として必要な, 学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識および技能を修得することを目的としており, 「生涯学習支援論 I」と「生涯学習支援論 II」に分かれている。

「生涯学習支援論 II」は, 個別事業計画(学習プログラム)の編成や参加型学習の実際とファシリテーション技法の実践, 企業におけるCSR活動の企画提案等の内容を中心に講義を行う。

**キーワード:** 生涯学習, 学習支援, ファシリテーション能力

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識および技能を修得するとともに, 学習者の力を引き出し, 主体的な参画をうながすファシリテーション能力を身につけることができる。

**評価方法:** 課題レポート      **評価割合: 70%**  
ファシリテーション技法  
学期末試験

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 生涯学習を支援する方策について, 自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し, 論理的に自らの所見を表現することができる。

**評価方法:** 課題レポート      **評価割合: 30%**  
ファシリテーション技法

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

ただし, 自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が, 課題レポートやファシリテーション技法, 学期末試験の記述内容に認められる場合は, 上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合: 0%**

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

ただし, ボランティア活動等の実践により深められた知見等が, 課題レポートやファシリテーション技法, 学期末試験の記述内容に認められる場合は, 上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

ある。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言や課題レポート、ファシリテーション技法、学期末試験の記述内容等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象になる。

評価割合：0%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 講義のガイダンス(シラバス使用)
  2. 個別事業計画の理解(1) 個別事業計画とは
  3. 個別事業計画の理解(2) 個別事業計画と学習支援者
  4. 個別事業計画の理解(3) 社会教育事業の実例 青少年
  5. 個別事業計画の理解(4) 社会教育事業の実例 障がい者
  6. 個別事業計画の理解(5) 社会教育事業の実例 高齢者
  7. 個別事業計画の理解(6) 社会教育事業の評価
  8. 参加型学習とファシリテーション技法(1) 参加型学習とは
  9. 参加型学習とファシリテーション技法(2) ファシリテーションとは
  10. 参加型学習とファシリテーション技法(3) ファシリテーターの基礎知識
  11. 参加型学習とファシリテーション技法(4) アイスブレイクの技法
  12. 参加型学習とファシリテーション技法(5) 雰囲気作りと話し合いの進め方
  13. 参加型学習とファシリテーション技法(6) 積極的傾聴の方法
  14. 参加型学習とファシリテーション技法(7) ファシリテーターの実践
  15. 講義のまとめと今後の学習課題

使用テキスト： なし。  
毎時間レジュメを配付し、必要に応じて、印刷資料、映像資料を使用する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる(90分)。  
講義の終わりに、次回学習する内容のキーワードを提示するので、その概要を調べておく  
とより深く理解することができる。授業後、配付資料について復習するとともに、関連する事項  
について自主学修により知見を深めることが望ましい(90分)。  
参考書：鈴木真理・津田英二編著『生涯学習の支援論』(学文社、2003年)  
その他、授業時に提示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： 授業時に連絡する。

留意事項： 各時間ごとに課題が課せられるので、継続的な出席が求められる。

---

科目コード：50104      科目ナンバリング：      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：社会教育経営論I

担当者：藤原 昌樹

#### 基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C

関連資格：社教

AL要素：10 資料調査課題

授業の概要： 「社会教育経営論」は、社会教育主事および社会教育士として多様な主体と連携・協働を

図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識および技能を習得することを目的としており、「社会教育経営論Ⅰ」と「社会教育経営論Ⅱ」に分かれている。

「社会教育経営論Ⅰ」では、社会教育における地域人材の育成、社会教育施設の経営戦略、社会教育を推進する地域ネットワークの形成等の内容を中心に講義を行う。

**キーワード：** 社会教育、社会教育施設、青少年教育施設、地域、ネットワーク、連携・協働

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識および技能を身につけることができる。

**評価方法：** 課題レポート  
学期末試験

**評価割合：** 70%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 生涯学習にかかわる事象について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的に自らの所見を表現することができる。

**評価方法：** 課題レポート

**評価割合：** 30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、課題レポートや学期末試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が、課題レポートや学期末試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言や課題レポート、学期末試験の記述内容等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象になる。

**評価割合：** 0%

##### ▼その他

特になし

**評価割合：** 特になし

- 授業計画：**
1. 講義のガイダンス(シラバス使用)
  2. 社会教育と人材の育成
  3. 社会教育施設と経営(1) 財政と運営
  4. 社会教育施設と経営(2) 公民館、生涯学習センターの経営
  5. 社会教育施設と経営(3) 博物館の経営
  6. 社会教育施設と経営(4) 図書館の経営
  7. 社会教育施設と経営(5) 青少年教育施設の経営
  8. 社会教育施設と経営(6) スポーツ施設の経営
  9. 社会教育施設と経営(7) その他の社会教育施設の経営
  10. 社会教育を推進する地域ネットワークの形成(1) 連携・協働の必要性
  11. 社会教育を推進する地域ネットワークの形成(2) 学校との連携・協働
  12. 社会教育を推進する地域ネットワークの形成(3) 家庭との連携・協働
  13. 社会教育を推進する地域ネットワークの形成(4) 地域との連携・協働
  14. 社会教育を推進する地域ネットワークの形成(5) その他の機関との連携・協働



## 15. 講義のまとめと今後の学習課題

**使用テキスト:** なし。  
毎時間レジュメを配付し、必要に応じて、印刷資料、映像資料を使用する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる(90分)。  
講義の終わりに、次回学習する内容のキーワードを提示するので、その概要を調べておく  
とより深く理解することができる。授業後、配付資料について復習するとともに、関連する事項  
について自主学修により知見を深めることが望ましい(90分)。  
参考書: 田中雅文・中村香著『社会教育経営のフロンティア』(玉川大学出版部, 2019年)  
その他、授業時に提示する。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

**授業時間外の連絡手段:** 授業時に連絡する。

**留意事項:** 各時間ごとに課題が課せられるので、継続的な出席が求められる。

---

**科目コード:** 50105      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 社会教育経営論II

**担当者:** 藤原 昌樹

### 基本情報

**年次:** 2

**単位数:** 2

**授業形式:** 講義

**曜時:** 月曜2限

**履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C

**関連資格:** 社教

**AL要素:** 07 発表

10 資料調査課題

**授業の概要:** 「社会教育経営論」は、社会教育主事および社会教育士として多様な主体と連携・協働を  
図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識お  
よび技能を習得することを目的としており、「社会教育経営論Ⅰ」と「社会教育経営論Ⅱ」に  
分かれている。

「社会教育経営論Ⅱ」では、社会教育行政と地域活性化、学習課題の把握と広報戦略、個  
別事業計画(学習プログラム)の立案、学習成果の評価と活用の実際等の内容を中心に講  
義を行う。

**キーワード:** 社会教育、個別事業計画、地域、総合計画、連携・協働

### 学位授与方針との関係

#### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につ  
なげていくための知識および技能を身につけることができる。

**評価方法:** 課題レポート  
学期末試験

**評価割合:** 70%

#### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 生涯学習にかかわる事象について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論  
理的に自らの所見を表現することができる。

**評価方法:** 課題レポート

**評価割合:** 30%

#### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、課題レポートや発表、学期末試験の  
記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が、課題レポートや発表、学期末試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言や課題レポート、発表、学期末試験の記述内容等において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象になる。

評価割合：0%

### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 講義のガイダンス(シラバス使用)
  2. 社会教育行政と地域活性化
  3. 学習課題の把握と広報戦略
  4. 個別事業計画の立案(1) 総合計画と生涯学習推進計画
  5. 個別事業計画の立案(2) 個別事業計画立案の手順
  6. 個別事業計画の立案(3) モデル市町村の現状の把握
  7. 個別事業計画の立案(4) モデル市町村の課題の分析
  8. 個別事業計画の立案(5) モデル市町村の中・長期事業計画の分析
  9. 個別事業計画の立案(6) モデル市町村の年間事業計画の分析
  10. 個別事業計画の立案(7) 個別事業計画の作成
  11. 個別事業計画の立案(8) 学習展開計画の作成
  12. 個別事業計画の立案(9) プレゼンテーション
  13. 個別事業計画の立案(10) 評価とPDCAサイクル
  14. 学習成果の評価と活用の実際
  15. 講義のまとめと今後の学習課題

使用テキスト： なし。  
毎時間レジュメを配付し、必要に応じて、印刷資料、映像資料を使用する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べる(90分)。  
講義の終わりに、次回学習する内容のキーワードを提示するので、その概要を調べておく  
とより深く理解することができる。授業後、配付資料について復習するとともに、関連する事項  
について自主学修により知見を深めることが望ましい(90分)。  
参考書：田中雅文・中村香著『社会教育経営のフロンティア』(玉川大学出版部、2019年)  
その他、授業時に提示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。

授業時間外の連絡手段： 授業時に連絡する。

留意事項： 各時間ごとに課題が課せられるので、継続的な出席が求められる。

---

科目コード：50106      科目ナンバリング：      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：社会教育実習I(Practicum in Social Education I)

担当者：藤原 昌樹

### 基本情報

年次：3

単位数：1

授業形式：実習

曜時：前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C

関連資格：社教

AL要素：01 実地訓練  
04 課題解決  
07 発表  
10 資料調査課題

**授業の概要：**「社会教育実習Ⅰ」は、日立市教育委員会生涯学習課による社会教育施設等における実習をととして、社会教育主事および社会教育士の職務を遂行するために求められる資質や実践的な能力を身につけることを目的としている。また、実習にかかわる事前指導と事後指導も含む。

**キーワード：**社会教育施設、実習計画書、実習日誌、実習報告書

### 学位授与方針との関係

#### ▼知識・技能

**到達目標：**社会教育施設等における実習をととして、社会教育主事および社会教育士に必要な資質を養い、職務を遂行するために求められる実践的な能力を身につけることができる。

**評価方法：**課題レポート  
学期末試験

**評価割合：70%**

#### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：**社会教育施設等における実習において、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的に自らの所見を表現することができる。

**評価方法：**課題レポート  
発表

**評価割合：30%**

#### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、実習や課題レポート、実習報告書の記述内容および発表、学期末試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が、実習や課題レポート、実習報告書の記述内容および発表、学期末試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：0%**

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

ただし、授業中の発言や実習中の態度、課題レポート、実習報告書の記述内容および発表、学期末試験の記述内容において、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象になる。

**評価割合：0%**

#### ▼その他

特になし

**評価割合：特になし**

**授業計画：**

1. 授業計画の説明、授業のねらいと意義、諸注意(シラバス使用)
2. 社会教育主事および社会教育士の職務
3. 社会教育主事および社会教育士に求められる実践的な能力
4. 実習先の選定(1) 実習先一覧の説明
5. 実習先の選定(2) 実習先の検討
6. 実習先の選定(3) 実習先の決定

7. 実習先の理解(1) 実習先の所在地, 交通等の把握
8. 実習先の理解(2) 実習先の機能, 事業内容等の把握
9. 実習計画書の作成(1) 実習目標の設定
10. 実習計画書の作成(2) 実習計画の検討
11. 実習計画書の作成(3) 実習計画の策定
12. 実習計画書の作成(4) 計画書の完成
13. 実習個人票の作成
14. 実習日誌の配付と書き方
15. 実習の留意点と最終確認
16. 実習(1) 実習初日の振り返り
17. 実習(2) 2日目の振り返りと実習目標の再確認
18. 実習(3) 3日目の振り返りと実習計画の再確認
19. 実習(4) 4日目の振り返りとこれまでの評価
20. 実習(5) 実習全体の振り返りと日誌の完成
21. 礼状の作成
22. 実習の評価(1) 実習目標の達成度の評価
23. 実習の評価(2) 実習の反省と今後の課題
24. 実習報告書の作成(1) 報告書の構成の検討
25. 実習報告書の作成(2) 報告書の作成
26. 実習報告会(1) 発表内容の検討
27. 実習報告会(2) 発表資料の作成
28. 実習報告会(3) 報告会
29. 実習報告書の修正と提出
30. 授業のまとめと今後の学習課題

**使用テキスト:** なし。  
毎時間レジュメを配付し, 必要に応じて, 印刷資料, 映像資料を使用する。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 授業前には, その回のテーマのわからない用語を調べる(90分)。  
講義の終わりに, 次回学習する内容のキーワードを提示するので, その概要を調べておく  
とより深く理解することができる。授業後, 配付資料について復習するとともに, 関連する事項  
について自主学修により知見を深めることが望ましい(90分)。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応するので, まずは学務部等に連絡すること。

**授業時間外の連絡手段:** 授業時に連絡する。

**留意事項:** 各時間ごとに課題が課せられるので, 継続的な出席が求められる。